

科目名称	仏教学 I		科目分類	A18 両-1 (J)
担当教員	佐々木 俊道		授業区分	講義
研究室	10-504	オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	
授業のテーマ・内容	本講義は、建学の精神の基礎となる、仏教の開祖釈尊の生涯と教えを知り、仏教行事や仏教保育の基礎知識を解説する。具体的にはインドや日本の歴史的・文化的背景をふまえて釈尊の生涯をたどり、それを基に仏教行事と仏教保育の意義と実践例について学習する。なお照心館の坐禅堂にて、2 回の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。。この授業は課題解決型学習を行っている。			
到達目標	建学の精神や仏教の開祖釈尊の生涯と教え、仏教保育に関する基礎知識を修得し、仏教主義である本学の保育科での学びの意義を理解することができる。			
授業開始前学習	図書館で所蔵する仏教の開祖釈尊の生涯、仏教保育に関する図書を読む。			

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：ガイダンス 建学の精神と仏教学
予習：シラバスの内容を読み、建学の精神を調べる
復習：建学の精神の要点を振り返る
- 2
授業：宗教の歴史と世界の宗教
予習：世界三大宗教を調べる
復習：世界の宗教の特徴を振り返る
- 3
授業：日本人と宗教
予習：日本の宗教を調べる
復習：日本人と宗教の特徴を振り返る
- 4
授業：古代インドの風土と宗教
予習：古代インドの宗教を調べる
復習：古代インドの宗教の特徴を振り返る
- 5
授業：釈尊の誕生と花まつり(課題解決型学習)
予習：花まつりがどのような仏教行事か調べる
復習：釈尊の誕生と花まつりの意味を振り返る
- 6
授業：青年期の釈尊と出家
予習：青年期の釈尊を調べる
復習：青年期の釈尊と出家の意味を振り返る
- 7
授業：坐禅実習 坐禅の作法と意義を学ぶ(実習)
予習：坐禅の作法を調べる
復習：坐禅実習を通じて学んだ、日常の礼儀作法を振り返る
- 8
授業：6年間の苦行と成道、課題レポートの提出(課題解決型学習)
予習：成道会がどのような仏教行事か調べる
復習：釈尊の苦行と成道の意味を振り返る
- 9
授業：三宝(仏・法・僧)の成立と45年間の伝道
予習：三宝と三帰礼文の意味を調べる
復習：三宝の成立の意味を振り返る
- 10
授業：入滅と涅槃会
予習：涅槃会がどのような仏教行事か調べる
復習：釈尊の涅槃と涅槃会の意味を振り返る

11	授業：坐禅実習 坐禅と保育 予習：坐禅の作法を調べる 復習：保育の現場での坐禅の意味を振り返る
12	授業：仏教保育の目的 予習：日本の仏教保育の歴史を調べる 復習：仏教保育の目的を振り返る
13	授業：仏教保育と春・夏の仏教行事、課題レポートの提出 予習：春・夏の仏教行事を調べる 復習：春・夏の仏教行事と仏教保育の関わりを振り返る
14	授業：仏教保育と秋・冬の仏教行事 予習：秋・冬の仏教行事を調べる 復習：秋・冬の仏教行事と仏教保育の関わりを振り返る
15	授業：総括（釈尊の教えと仏教保育） 予習：釈尊の教えと仏教保育の関わりを調べる 復習：仏教と仏教保育の意味を確認し、学びの総括をする

テキスト・教材	適宜資料を配付する
参考書	上村映雄編著『仏教保育 365 日』（ひかりのくに）、上村映雄・米野宗禎著『仏教保育ハンドブック』（創作出版社）、日本仏教保育協会編『わかりやすい仏教保育総論』（チャイルド本社）

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
--------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇

課題のフィードバック	授業 8 回目、13 回目に提出するレポートについては、2 週間後（授業 10、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
評価の基準と方法	試験（70%）・課題レポート等(30%)
関連科目	
その他	坐禅実習は予定表に注意し、あらかじめ確認の上、服装を整えて参加すること。 板書事項はもらさずノートに書き写すように努力すること。建学の精神の学びの場である学燈会や摂心会などの学校行事には積極的に参加して、幅広い教養を身につけてほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	曹洞宗僧侶
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かし、釈尊の生涯と教え、坐禅実習を講義する。

仏教学Ⅱ

科目名称	仏教学Ⅱ		科目分類	A18 両-2 (J)
担当教員	岡本 啓宏		授業区分	講義
研究室	16-306	オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～14:30 後期 金曜日 13:00～14:30	金曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10
授業のテーマ・内容	本講義は、仏教学Ⅰでの学びを前提として、日本文化と仏教の関わり、曹洞宗の開祖道元禅師の生涯と教え、保育者としての心構え、曹洞宗の教えと保育実践について講義する。あわせて、坐禅実習を通じて、坐禅の仕方にとどまらず、日常の礼儀作法についても学習していく。本講義の学びにより、卒業後の人生や保育者として必要な教養を身につける。この授業は課題解決型学習を行っている。			
到達目標	道元禅師の生涯と教えに関する基礎知識を修得し、仏教保育の保育者としての心構えを理解することが出来る。			
授業開始前学習	図書館で所蔵する仏教の開祖釈尊、道元禅師、仏教保育に関する図書を読む。			
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)				
<p>1 授業：ガイダンス 建学の精神と仏教保育 予習：シラバスの内容を読み、建学の精神と仏教保育を調べる 復習：建学の精神と仏教保育の要点を振り返る</p> <p>2 授業：中国への仏教伝来と禅宗 予習：菩提達磨の生涯を調べる 復習：菩提達磨と禅宗の要点を振り返る</p> <p>3 授業：坐禅実習 仏教保育と坐禅について学ぶ（実習） 予習：坐禅の作法を調べる 復習：仏教保育における坐禅の意義について要点を振り返る</p> <p>4 授業：日本文化と禅宗 予習：禅宗とともに中国からもたらされた文化を調べる 復習：日本文化と禅宗の関わりについて要点を振り返る</p> <p>5 授業：道元禅師の生涯 誕生と出家(課題解決型学習) 予習：道元禅師の誕生と出家までの生涯について調べる 復習：道元禅師の誕生から出家までの要点を振り返る</p> <p>6 授業：道元禅師の生涯 入宋求法 予習：道元禅師の入宋求法について調べる 復習：道元禅師の入宋求法の要点を振り返る</p> <p>7 授業：道元禅師と二人の典座 予習：『典座教訓』がどのような本か調べる 復習：二人の典座の教えの要点を振り返る</p> <p>8 授業：坐禅実習 坐禅とお正念について学ぶ（実習） 予習：坐禅とお正念の作法を調べる 復習：仏教保育と坐禅の要点を振り返る</p> <p>9 授業：道元禅師の生涯 帰朝教化 予習：中国から帰国後の道元禅師の生涯を調べる 復習：道元禅師の帰朝教化の要点を振り返る</p> <p>10 授業：道元禅師の生涯 入越教化と入滅 予習：道元禅師の入越教化と入滅までの生涯を調べる 復習：道元禅師の入越教化から入滅までの要点を振り返る</p> <p>11 授業：道元禅師の教えと仏教保育(課題解決型学習) 予習：布施・愛語・利行・同事の用語の意味を調べる 復習：道元禅師の教え（四つの徳目）による仏教保育の実践の要点を振り返る</p>				

12	授業：仏教保育者としての心構え 予習：保育者と子供の関係について調べる 復習：仏教保育者の心構えの要点を振り返る
13	授業：仏教保育者といのちの教育 予習：釈尊と道元禅師の教えを調べる 復習：いのちの教育の大切さの要点を振り返る
14	授業：仏教保育と食事 予習：五観の偈の意味を調べる 復習：仏教保育と食事の要点を振り返る
15	授業：総括 現代社会と仏教保育 予習：道元禅師の教えと仏教保育の関わりを調べる 復習：仏教保育者に求められる事項を振り返る

テキスト・教材	適宜資料を配付する。
参考書	上村映雄編著『仏教保育 365 日』（ひかりのくに）、上村映雄・米野宗禎『仏教保育ハンドブック』（創作出版社）、日本仏教保育協会編『わかりやすい仏教保育総論』（チャイルド本社）

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
--------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したくなるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇

課題のフィードバック	授業 7 回目、13 回目に提出するレポートについては、2 週間後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
------------	--

評価の基準と方法	試験（60%）・課題レポート等（40%）
----------	----------------------

関連科目	仏教学 I
その他	坐禅実習は予定表に注意し、あらかじめ確認の上、服装を整えて参加すること。 板書事項はもらさずノートに書き写すように努力すること。建学の精神の学びの場である学燈会や摂心会などの学校行事には積極的に参加して、幅広い教養を身につけてほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	曹洞宗僧侶
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かし、道元の生涯と教え、坐禅実習を講義する。

科目名称	日本国憲法	科目分類	A32 幼-2 (J)
担当教員	土田 清子	授業区分	講義
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>憲法でどのような権利が保障されているのかを学び、学生の人権意識を高め、人間力を養う。</p> <p>また、憲法上の問題について、自分の意見を理由をつけて発表したり、文章で表現できるようにして、学生の思考力表現力を高め、保育の現場でも自分の意見を述べるができるようにする。</p> <p>授業では、教科書だけでなく、憲法が問題となったニュースや裁判例なども使用して、私たちの生活の中で憲法がもつ意義について学び、理解を深め、自分自身の意見をもつことを目標とする。</p>		
到達目標	<p>1 人権感覚が養われる</p> <p>2 憲法の基本的な知識や考え方を理解し、説明ができるようになる</p> <p>3 憲法で問題となっているニュースや社会問題について検討し、それについて自分の意見を論理的に説明できるようになる</p>		
授業開始前学習	新聞やテレビのニュースで憲法と関連があると思われるものがあつたら、切り抜く等、チェックしておくこと。		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>1</p> <p>授業： 憲法とは何か(国民主権、平和主義)</p> <p>予習： テキスト p25～34、p 43～p50 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習： 国民主権、平和主義の理解を深め、自分の言葉で説明できるようにする</p> <p>2</p> <p>授業： 人権について</p> <p>予習： テキスト 51～p66 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習： 授業で説明した人権について、条文を見ながら復習する</p> <p>3</p> <p>授業： 子ども、未成年者の人権、新しい人権について</p> <p>予習： テキスト p67～p82 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習： 新しい人権について、授業で説明した裁判例などをもとに、ノートにまとめ、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにする</p> <p>4</p> <p>授業： 私人間の人権問題、平等権について</p> <p>予習： テキスト p83～p98 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習： 私人間の人権問題や平等権について復習し、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにまとめる</p> <p>5</p> <p>授業： 女性の人権、家族について</p> <p>予習： 事前に配布するレジュメを読み、興味がある点をまとめる</p> <p>復習： 女性の人権や新しい家族のあり方について、自分の意見を述べられるようにする</p> <p>6</p> <p>授業： 思想良心の自由、表現の自由について</p> <p>予習： テキスト p99～p102 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習： 思想良心の自由や表現の自由の重要性について、授業で説明した内容をノートにまとめる</p> <p>7</p> <p>授業： 表現の自由の限界について</p> <p>予習： P106～p108 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習： 表現の自由の限界について、授業で説明した裁判例などをもとに、ノートにまとめ、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにする</p> <p>8</p> <p>授業： 信教の自由について</p> <p>予習： テキスト p102～104 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習： 信教の自由について、授業で説明した内容をノートにまとめる</p> <p>9</p> <p>授業： 政教分離の原則、学問の自由について</p> <p>予習： テキスト p104～p106 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習： 信教の自由や政教分離の原則について、授業で説明した裁判例などをもとにノートにまとめ、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにする</p> <p>10</p> <p>授業： 経済活動の自由について</p> <p>予習： 事前にレジュメを配布するので、レジュメを読み、疑問点をまとめる。</p> <p>復習： 経済活動の自由について、授業で説明した裁判例などをもとにノートにまとめる</p>			

11	
授業：生存権、子どもの権利条約について	
予習：テキスト p109～p116 を読み、疑問点をまとめる	
復習：生存権について、授業で説明した裁判例などをもとにノートにまとめ、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにする	
12	
授業：教育を受ける権利、労働者の権利について	
予習：事前にレジュメを配布するので、レジュメを読み、疑問点をまとめる	
復習：教育を受ける権利、労働者の権利について、授業で説明した裁判例などをもとにノートにまとめ、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにする	
13	
授業：身体的自由、適正手続きの保障について	
予習：事前にレジュメを配布するので、レジュメを読み、疑問点をまとめる。	
復習：適正手続きの保障について、授業で説明した裁判例などをもとにノートにまとめる	
14	
授業：統治機構について（1）	
予習：テキスト p117～p32 を読み、疑問点をまとめる	
復習：国会、内閣、裁判所の役割について、レジュメや教科書を再読し、理解を深める	
15	
授業：統治機構について（2）、保育をめぐる法律問題について	
予習：テキスト p117～p32、p35～42 を読み、疑問点をまとめる	
復習：日本の国家の制度や天皇制について、レジュメや教科書を再読し、理解を深める	
テキスト・教材	高乗正臣著『保育者のための法学・憲法入門』（成文堂）、適宜レジュメを配付する
参考書	『ポケット六法』（有斐閣）、『デイリー六法』（三省堂）、『岩波セレクト六法』（岩波書店）の何れか一つ
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	
c3 子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇

課題のフィードバック	授業の最後に、毎回ではないが、その授業で勉強した内容や裁判例について、意見を述べてもらう。 中間テストを実施する（授業内において、適宜、講評する）。
評価の基準と方法	授業内の小レポート(20%)、小テスト(20%)、試験(60%)
関連科目	幼児教育制度論
その他	参考書は何れも最新版のものを用いること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	弁護士
実務経験を活かした教育内容	弁護士業務を通して経験した事件や憲法に関連のある時事問題を通して、自分の意見を持ったり、意見を他者に伝える重要性を教え、学生が社会人として自分の意見を他者に伝えられる力をつける授業を展開していく。

科目名称	情報リテラシー	科目分類	A01 幼-1
担当教員	岡本 啓宏	授業区分	講義
研究室	16-306	オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10 後期 金曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10
授業のテーマ・内容	<p>現代の社会では、SNSをはじめ、PCやインターネットが大変普及しており、保育の現場においても同様といえる。そこで本講義では、情報機器やネットワークを活用するための基礎的な知識、技術について実技演習を通して学習する。さらに情報やデータを取り扱う上で必要な基本的な知識や能力の養成を目的とする。具体的には、PC、ネットワークの基本操作、電子メール、文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成、情報倫理、著作権などの基本項目を学ぶ。</p> <p>この講義を通して高度情報化社会の中で情報リテラシーの向上を目標に授業を進めていきたい。</p>		
到達目標	<p>本授業の到達目標は、次の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 PCを使うことのできる基礎的な知識、技術を身につける。 2 保育現場に必要なPC技術を身につける。 3 現代の高度情報化社会における情報倫理観を身につける。 		
授業開始前学習	<p>高等学校における「情報」の授業内容について、PCの基本操作、Word、Excel、Power Point等のアプリケーションソフトの基本操作を再確認する。また、ネットワーク社会における情報倫理、マナーについて考える。</p>		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業：講義ガイダンス（講義概要・出欠・評価・年間スケジュール・学内機器の操作方法・学内ネットワーク環境）
 予習：テキストの準備、PCの基本操作の再確認をする
 復習：【指導プリント①】をもとに、授業内容の確認・学内PC環境とPCの基本操作を再確認し、課題①を完成させる
- 2
 授業：基本編（1）コンピュータハードウェア構成・基本操作、利用マナーを学ぶ（p.9-15）
 Wordで簡単な文字入力を行う（313文字／10分）
 予習：教科書でコンピュータハードウェア構成・基本操作の内容について事前確認し、タイピング練習をする
 復習：【指導プリント②】をもとに、コンピュータハードウェア構成・基本操作を再確認し、課題②を完成させる
- 3
 授業：基本編（2）日本語の入力・操作方法を学ぶ（p.16-78）
 Wordで簡単な文字入力を行う（394文字／10分）
 予習：教科書で日本語の入力・操作方法の内容について事前確認し、タイピング練習をする
 復習：【指導プリント③】をもとに、日本語の入力・操作方法を再確認し、課題③を完成させる
- 4
 授業：基本編（3）ネットワーク社会の理解、インターネットによる情報の検索、利用マナーを学ぶ（p.279-312）
 現代社会における情報倫理を学び、インターネットによる情報検索を行い、実習園の概要・地図をWordで作成する
 予習：教科書でインターネットによる情報検索方法・マナーについて事前確認し、タイピング練習をする
 復習：【指導プリント④】をもとに、ネットワーク社会におけるマナーについて再確認し、課題④を完成させる
- 5
 授業：Wordによる日本語入力（段組み、揃え、図の挿入など）を学ぶ（p.79-188）
 「幼稚園・保育所で歌われる歌詞」の作成（「アイアイ」「どんぐりころころ」）
 予習：教科書で日本語の入力・操作方法（段組み、揃え、図の挿入など）の内容について事前確認し、タイピング練習をする
 復習：【指導プリント⑤】をもとに、日本語の入力・操作方法を再確認し、課題⑤を完成させる
- 6
 授業：Wordによる日本語入力（表の挿入、罫線、ページ設定など）を学ぶ（p.79-188）
 「幼稚園・保育所でよく歌われる歌リスト」の作成（A4 2枚）
 予習：教科書で日本語の入力・操作方法（表の挿入、罫線、ページ設定など）の内容について事前確認し、タイピング練習をする
 復習：【指導プリント⑥】をもとに、日本語の入力・操作方法を再確認し、課題⑥を完成させる
- 7
 授業：Wordによる日本語入力（文書の保存と読み込み）を学ぶ（p.79-188）
 「幼稚園・保育所の年間行事」の作成（A4 4枚）
 予習：教科書で日本語の入力・操作方法（文書の保存と読み込み）の内容について事前確認し、タイピング練習をする
 復習：【指導プリント⑦】をもとに、日本語の入力・操作方法を再確認し、課題⑦を完成させる
- 8
 授業：Wordによる日本語入力（文字装飾・文書レイアウト）を学ぶ（p.79-188）
 「幼稚園・保育所の年間行事」の作成（A4 4枚）
 予習：教科書で日本語の入力・操作方法（文字装飾・文書レイアウト）の内容について事前確認し、タイピング練習をする
 復習：【指導プリント⑧】をもとに、日本語の入力・操作方法を再確認し、課題⑧を完成させる

9	
授業：Wordによる日本語入力（文書の編集と印刷）（p.79-188） 幼稚園・保育所で発行される「おたより」の作成（A4 1枚）	
予習：教科書で日本語の入力・操作方法の内容について事前確認し、おたよりの作成準備、タイピング練習をする	
復習：【指導プリント㊸】をもとに、日本語の入力・操作方法を再確認し、課題㊸を完成させる	
10	
授業：Excelの基本操作（文字入力、オートフィル、表作成など）を学ぶ（p.189-278）	
予習：教科書でExcelの基本操作（文字入力、オートフィル、表作成など）について事前確認し、タイピング練習をする	
復習：【指導プリント㊹】をもとに、Excelの基本操作を再確認し、課題㊹を完成させる	
11	
授業：Excelの応用操作（表作成、数式、並べ替えなど）を学ぶ（p.189-278） 表の作成に基づいて数式（合計、平均、最大値、最小値など）、並べ替えの操作を行う	
予習：教科書でExcelの基本操作（表作成、数式、並べ替えなど）について事前確認し、タイピング練習をする	
復習：【指導プリント㊺】をもとに、Excelの基本操作を再確認し、課題㊺を完成させる	
12	
授業：Excelの応用操作（表作成、グラフ作成など）を学ぶ（p.189-278） 表の作成に基づいてグラフ作成の操作を行う	
予習：教科書でExcelの基本操作（表作成、グラフ作成など）について事前確認し、タイピング練習をする	
復習：【指導プリント㊻】をもとに、Excelの基本操作を再確認し、課題㊻を完成させる	
13	
授業：Power Pointの基本操作（メニューバー、ツールバーの使い方など）を学ぶ（p.314-339） 実習園の研究、プレゼンテーション用資料の作成	
予習：教科書でPower Pointの基本操作（メニューバー、ツールバーの使い方など）について事前確認し、タイピング練習をする	
復習：【指導プリント㊼】をもとに、Power Pointの基本操作を再確認し、課題㊼を完成させる	
14	
授業：Power Pointの基本操作（アニメーションの使い方など）を学ぶ（p.314-339） 実習園の研究、プレゼンテーション用資料の作成	
予習：教科書でPower Pointの基本操作を再確認し、課題作成、タイピング練習をする	
復習：【指導プリント㊽】をもとに、Power Pointの操作を再確認し、プレゼンテーションの準備をし、課題㊽を完成させる	
15	
授業：Power Pointによる実習園の研究発表、プレゼンテーション方法を学ぶ（p.314-339） 実習園のプレゼンテーションを行い、相互に評価をする	
予習：課題の完成、プレゼンテーションの準備をする	
復習：【指導プリント㊾】をもとに、授業内容を再確認し、プレゼンテーション内容の振り返りをする	
テキスト・教材	阿部正平・阿部和子・二宮祐子著『保育者のためのパソコン講座』（萌文書林） タッチタイプ練習用ソフトウェア『TYPE-QUICK』（日本データパシフィック）
参考書	岡本茂監修『最新パソコン・IT用語辞典』（技術評論社）
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇

c3	子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4	子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇
c5	子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1	社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇
d2	積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇
d3	信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇
d4	他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5	多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇
d6	大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇
課題のフィードバック	全ての授業において課題を課す。また最終授業において Power Point によるプレゼンテーションを行う。そして授業内において、適宜講評し、個別・全体指導を行う。	
評価の基準と方法	課題レポート【課題・プレゼンテーション】（70%）、平常点【課題作成に取り組む積極的な姿勢】（30%）	
関連科目		
その他	今日の高度情報化社会の中で生きていくには、単に P C を上手に使えるだけではなく、社会生活におけるモラルがとても大切になる。この授業を通して是非再確認すること。	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間	
実務経験の有無		
実務経験の内容		
実務経験を活かした教育内容		

科目名称	英語コミュニケーション I	科目分類	A83 両-1
担当教員	上原 明子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>保育現場においても、外国籍の子どもたちの増加により、外国人保護者や子どもとコミュニケーションを図るための英語力の必要性は高まっている。このような動向をふまえ、「使える英語」の学習を目指し、Dictogloss などグループでの協同的なタスクを取り入れ、授業を行う。</p> <p>保育現場で外国人保護者や子どもたちと英語でのコミュニケーションが必要とされる場面を想定した教材「保育現場での英会話」を使用し、英語コミュニケーション能力の育成を図る。最終段階で学生は、ペアでスキットの発表を行う。</p> <p>また、英語の歌、ゲーム、アクティビティをグループワークやペアワークを通して学び、保育現場で実践し、子どもたちと楽しく遊ぶことができるスキルを身につけることを目的とする。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 簡単な英語表現を使ってコミュニケーションをとることができる 2 表情、ジェスチャーなどの非言語の使い方を学び、より豊かなコミュニケーション力をつける 3 外国人保護者や子どもたちに、簡単な英語で園行事などの内容を伝えることができる 4 英語らしい発音で会話をすることができる 5 英語の歌やゲームを通して、英語で遊ぶ楽しさを伝えることができる 		
授業開始前学習	<p>子ども対象の英語のテレビ番組や YouTube、英語の歌などの CD を利用し、英語に触れ親しんでおくこと。</p> <p>高校までに学習した基本的な語彙や文法を復習しておくこと。</p>		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1

授業：オリエンテーション、歌とゲームの指導法①：Hello, Good-bye（ペアワーク）、自己紹介ゲーム
 予習：シラバスを読み、全体の授業の流れ、授業内容を理解する
 復習：Hello と Good-bye の歌を暗記して歌えるように練習する、自己紹介ゲームで使った表現を覚える
- 2

授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ1）、歌とゲームの指導法②：Sunday, Monday, Tuesday
 会話とリスニング：資料①"May I visit tomorrow?"（グループワーク）
 予習：自己紹介のプレゼンテーションの準備をする、資料①の語彙等を調べ内容を理解しておく
 復習：資料①を読み返し、本文や語彙を覚える
- 3

授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ2）、歌とゲームの指導法③：Twelve Months
 会話とリスニング：資料② "Would you please tell me about the kindergarten?"（グループワーク）
 予習：資料②の語彙等を調べ内容を理解しておく
 復習：資料②を読み返し、本文や語彙を覚える
- 4

授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ3）、歌とゲームの指導法④：How's the Weather?
 会話とリスニング：資料③ "Where is Grace's jump rope?"（グループワーク）
 予習：資料③の語彙等を調べ内容を理解しておく
 復習：資料③を読み返し、本文や語彙を覚える
- 5

授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ4）、歌とゲームの指導法⑤：Rainbow
 会話とリスニング：資料④ "Let's make Koinobori"（グループワーク）
 予習：資料④の語彙等を調べ内容を理解しておく
 復習：資料④を読み返し、本文や語彙を覚える
- 6

授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ5）、歌とゲームの指導法⑥：Bingo
 会話とリスニング：資料⑤"The lunches will start soon"（グループワーク）
 予習：資料⑤の語彙等を調べ内容を理解しておく
 復習：資料⑤を読み返し、本文や語彙を覚える
- 7

授業：歌とゲームの指導法⑦：Head, Shoulders, Knees and Toes、小テスト
 会話とリスニング：資料⑥"What is Sankan-bi?"（グループワーク）
 予習：資料⑥の語彙等を調べ内容を理解しておく
 復習：資料⑥を読み返し、本文や語彙を覚える

8	
授業：歌とゲームの指導法⑧：The Hokey-Pokey 会話とリスニング：資料⑦"Please take Grace to a dentist"（グループワーク）	
予習：資料⑦の語彙等を調べ内容を理解しておく	
復習：資料⑦を読み返し、本文や語彙を覚える	
9	
授業：歌とゲームの指導法⑨：Old MacDonald Had a Farm 会話とリスニング：資料⑧ "Did you get the swimming card?"（グループワーク）	
予習：資料⑧の語彙等を調べ内容を理解しておく	
復習：資料⑧を読み返し、本文や語彙を覚える	
10	
授業：歌とゲームの指導法⑩：（グループワーク）Ten Steps, Twenty Steps 会話とリスニング：資料⑨"Star festival"（グループワーク）	
予習：資料⑨の語彙等を調べ内容を理解しておく	
復習：資料⑨を読み返し、本文や語彙を覚える	
11	
授業：歌とゲームの指導法⑪：Are You Hungry? 会話とリスニング：資料⑩"Summer festival"（ペアワーク）	
予習：資料⑩の語彙等を調べ内容を理解しておく	
復習：資料⑩を読み返し、本文や語彙を覚える	
12	
授業：歌とゲームの指導法⑫：The Finger Song 会話とリスニング：資料⑪"Sleep over"（グループワーク）	
予習：資料⑪の語彙等を調べ内容を理解しておく	
復習：資料⑪を読み返し、本文や語彙を覚える	
13	
授業：歌とゲームの指導法⑬：This is the Way 会話とリスニング：資料⑫"Field Trip"（グループワーク）	
予習：資料⑫の語彙等を調べ内容を理解しておく	
復習：資料⑫を読み返し、本文や語彙を覚える	
14	
授業：歌とゲームの指導法⑭：ABC、スキット発表（グループワーク）	
予習：ペア（保育者役と外国人保護者役）で、保育現場での会話の台本を作り練習する	
復習：スキットの台本を修正する	
15	
授業：スキット発表の講評とディスカッション、小テスト	
予習：スキット発表の自己評価をまとめておく	
復習：15回の授業全体の振り返りを記録する	
テキスト・教材	適宜、授業内にて資料を配付する
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） ・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） ・阿部フォード恵子（監修）『Let's Sing Together(2nd Edition)』（アブリコット出版） ・松川礼子（監修）『50 English Songs』（文溪堂） ・松香洋子（監修）『Songs and Chants with Pictures』（松香フォニックス研究所） ・DVD『こまざわ幼稚園における英語活動』
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、	

自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇
課題のフィードバック	自己紹介のプレゼンテーション及びスキット発表については授業内で適宜、講評する 提出課題はコメントを入れ、返却する
評価の基準と方法	自己紹介のプレゼンテーション及びスキット発表（40%）、小テスト（30%）、授業中の応答・課題提出（30%）
関連科目	英語コミュニケーションⅡ
その他	学生の主体性に期待し、双方向的な授業を進める。授業内で自分の考えや意見を述べるできるよう事前の準備をしっかりとすること。授業には積極的な態度で臨むことを期待する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	英語コミュニケーションⅡ	科目分類	A83 両-2
担当教員	上原 明子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>英語教育導入の低年齢化は世界の趨勢である。日本でも、外国籍の子どもたちの増加等に伴い、保育現場における外国人の子どもや保護者とコミュニケーションを図るための英語力の必要性は高まっている。このような動向をふまえ、「使える英語」の学習を目指し、外国籍の子どもとの会話を想定したアクティブ・ラーニングによる協同的なタスクを取り入れ、授業を行う。</p> <p>学生の能動的な活動を重視し、英語のゲーム・アクティビティ、歌、英語絵本の読み聞かせ等の具体的な指導を行いペアワーク、模擬レッスン形式のプレゼンテーション等を通して、実践力を養う。また、マザーグースを通して英語圏の文化に慣れ親しむことを目的とする。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 簡単な英語表現を使ってコミュニケーションをとることができる 2 保育にかかわる活動を通して、正確な文法や英語らしい発音を身に付ける 3 外国籍の子どもたちと英語でコミュニケーションをとることができる 4 英語の絵本、ゲーム・アクティビティ、歌を、融合的に指導する方法を学び、実践することができる 5 マザーグースを通して、英語圏の文化に慣れ親しむ 		
授業開始前学習	英語絵本の教材化の事前準備として、図書館などで「英語の絵本」や子どもたちが好きな「日本語の絵本」をたくさん読んでおくこと。また、「英語コミュニケーションⅠ」で学習した内容を復習しておくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：オリエンテーション、歌・マザーグース①：Lomdon Bridge、インタビュービンゴ
自分自身についての発表のプレインストロミング
予習：シラバスを読み、全体の授業の流れ、授業内容を理解する
復習：自分自身についての発表内容を考える
- 2
授業：歌・マザーグース②：The Finger Song、英語絵本 'Yo! Yes?! 'を感情移入して読む、
英語絵本の選択と扱い方
予習：絵本の読み聞かせの仕方を調べておく
復習：英語絵本の選択と扱い方のポイントをまとめる
- 3
授業：歌・マザーグース③：Eency Weency Spider、
絵本の融合的な指導（Brown Bear, Brown Bear, What do you see?）
予習：数、色、動物、体の部位などを指導するのに適した、歌、ゲーム・アクティビティ、絵本について調べる
復習：絵本の融合的な指導についてのレッスンプランを作成する
- 4
授業：自分自身についての発表（グループ1）、歌・マザーグース④：Open, Shut Them、
会話場面①「登園の受け入れ」（グループワーク）
予習：自分自身についての発表の練習をする、会話場面①の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：会話場面①を読み返し、本文や語彙を覚える
- 5
授業：自分自身についての発表（グループ2）、歌・マザーグース⑤：Eenie, Meenie, Minie, Moe、
会話場面②「午前中のクラス遊び」（グループワーク）
予習：会話場面②の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：会話場面②を読み返し、本文や語彙を覚える
- 6
授業：自分自身についての発表（グループ3）、歌・マザーグース⑥：Mary Had a Little Lamb、
会話場面③「手洗い場面」（グループワーク）
予習：会話場面③の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：会話場面③を読み返し、本文や語彙を覚える
- 7
授業：自分自身についての発表（グループ4）、歌・マザーグース⑦：Twinkle Twinkle Little Star、
会話場面④「子どもの喧嘩」（グループワーク）
予習：会話場面④の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：会話場面④を読み返し、本文や語彙を覚える

8	<p>授業：自分自身についての発表（グループ5）、歌・マザーグース⑧：Rain Rain Go Away、 会話場面⑤「昼食」（グループワーク）</p> <p>予習：会話場面⑤の語彙等を調べ内容を理解しておく 復習：会話場面⑤を読み返し、本文や語彙を覚える</p>
9	<p>授業：歌・マザーグース⑨：Row, Row, Row your boat、 会話場面⑥「午睡」（グループワーク）</p> <p>予習：会話場面⑥の語彙等を調べ内容を理解しておく 復習：会話場面⑥を読み返し、本文や語彙を覚える</p>
10	<p>授業：歌・マザーグース⑩：The Muffin Man、 会話場面⑦「午後の自由遊び」（グループワーク）</p> <p>予習：会話場面⑦の語彙等を調べ内容を理解しておく 復習：会話場面⑦を読み返し、本文や語彙を覚える</p>
11	<p>授業：歌・マザーグース⑪：Ring-a-Ring O'roses、 会話場面⑧「降園時」（グループワーク）</p> <p>予習：会話場面⑧の語彙等を調べ内容を理解しておく 復習：会話場面⑧を読み返し、本文や語彙を覚える</p>
12	<p>授業：歌・マザーグース⑫：Sally Go Around the Sun、 英語絵本を使った模擬レッスン（グループ1）</p> <p>予習：模擬レッスンの練習をする 復習：模擬レッスンの振り返りを記録する</p>
13	<p>授業：歌・マザーグース⑬：Hichory, Dickory, Dock、 英語絵本を使った模擬レッスン（グループ2）</p> <p>予習：模擬レッスンの練習をする 復習：模擬レッスンの振り返りを記録する</p>
14	<p>授業：歌・マザーグース⑭：Pease Pudding Hot、 英語絵本を使った模擬レッスン（グループ3）</p> <p>予習：模擬レッスンの練習をする 復習：模擬レッスンの振り返りを記録する</p>
15	<p>授業：歌・マザーグース⑮：If You're Happy, and You Know it、 模擬レッスンのフィードバックとディスカッション、小テスト</p> <p>予習：これまでの授業で学んだ語句や表現を振り返る 復習：最終レポートを作成、提出する</p>

テキスト・教材	金澤延美著『保育の英語（仮題）』（明文書林） その他、適宜授業中に資料を配付する
---------	---

参考書	・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） ・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） ・松川礼子（監修）『50 English Songs』（文溪堂）
-----	--

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○○○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○○○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	

b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇
課題のフィードバック	自分自身についての発表及び模擬レッスンは、授業内で講評する。提出課題は、コメントを付け返却する。
評価の基準と方法	自分自身についての発表及び模擬レッスン（40%）、小テスト（30%）、授業中の応答・課題提出（30%）
関連科目	英語コミュニケーション I
その他	学生の主体性に期待し、双方向的な授業を進める。従って、自分の考えや意見を述べるできるよう、資料には事前に目を通し、積極的な態度で授業に臨んでほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	体育	科目分類	A78 両-1
担当教員	三辻 浩子	授業区分	講義・実技
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>運動不足・過剰摂取・高齢社会・少子化の問題を抱える日本の中で、1人1人が“健康”を意識し知識を持つことは非常に重要なことである。この授業では、エアロビクス（有酸素運動）に音楽を用いることにより、楽しく心肺持久力を向上させ、心と身体を健康に導く方法を模索していきます。楽しく効果的で誰でも行える安全性の高いエアロビクスダンスは、健康体力作りに適しているだけでなく、コミュニケーションを図る事も出来る素晴らしいエクササイズである。実技では体力向上を目指し、協調性を高め、運動の素晴らしさを学んでいく。講義では、日本の健康問題を取り上げ現状を知る事で、健康の大切さや運動の重要性を考えていく。また女性である自分の身体を大切にすることを学ぶ。</p>		
到達目標	<p>1 レッスンを通して全身持久力・筋持久力が向上するようになる 2 基本的な STEP を習得することで楽しく動けるようになる 3 32 カウントの創作やキューイングを学び作品が作れるようになる</p>		
授業開始前学習	『エアロビクス』が生まれた背景を調べておく。ケネス・H・クーパー、ジャッキー・ソーレンセン、ジーン・フォンダの3人物を調べておく。		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>1 授業：オリエンテーション、運動・スポーツを行う上での諸注意 予習：『エアロビクス』が生まれた背景を調べてくる 復習：自己プレゼンテーションを記入してくる</p> <p>2 授業：エアロビクスとは 実技1 【前半クラス実技開始】 予習：『エアロビクスダンス』について調べてくる 復習：本日のステップを合致させる（march,walk,step touch など）</p> <p>3 授業：ウォームアップについて 実技2 予習：『ウォームアップ』の役割について調べてくる 復習：本日のステップを合致させる（V step,grapevine など）</p> <p>4 授業：メインエクササイズについて 実技3 予習：『メインエクササイズ』について調べてくる 復習：本日のステップを合致させる（box step,step turn など）</p> <p>5 授業：筋肉強化エクササイズについて 実技4 予習：『レジスタンスエクササイズ』について調べてくる 復習：スクワット、プッシュアップ、カールアップを行う</p> <p>6 授業：クールダウンについて 実技5 予習：『クールダウン』の役割について調べてくる 復習：ストレッチのパターンを復習する</p> <p>7 授業：創作の仕方（1）ステップのコンビネーション 実技6 予習：個人創作の内容を考えてくる 復習：創作の内容を復習する</p> <p>8 授業：創作の仕方（2）アームス導入 実技7 予習：自分の作品を練習してくる 復習：アームスをつけて創作内容を復習する</p> <p>9 授業：創作の仕方（3）フォーメーション導入 実技8 予習：自分の作品を練習してくる 復習：重心移動（方向）をつけて創作内容を復習する</p> <p>10 授業：まとめ 実技9 【前半クラス実技終了】 予習：自分の作品を練習してくる 復習：キューイングを入れて創作内容を復習する</p>			

11
授業：オリエンテーション（体験エアロビクス） 実技 1【 後半クラス実技開始 】
予習：エアロビクスが生まれた背景を調べてくる
復習：自己プレゼンテーションを記入してくる

12
授業：エアロビクスとは 実技 2
予習：『エアロビクス』について調べてくる
復習：本日のステップを合致させる（march,walk,step touch など）

13
授業：ウォームアップについて 実技 3
予習：『ウォームアップ』の役割について調べてくる
復習：本日のステップを合致させる（V step,grapevine など）

14
授業：メインエクササイズについて 実技 4
予習：『メインエクササイズ』について調べてくる
復習：本日のステップを合致させる（box step,step turn など）

15
授業：筋肉強化エクササイズについて 実技 5
予習：『レジスタンスエクササイズ』について調べてくる
復習：スクワット、プッシュアップ、カールアップを行う

16
授業：クールダウンについて 実技 6
予習：『クールダウン』の役割について調べてくる
復習：ストレッチのパターンを復習する

17
授業：創作の仕方（1）ステップのコンビネーション 実技 7
予習：個人創作の内容を考えてくる
復習：創作の内容を復習する

18
授業：創作の仕方（2）アームス導入 実技 8
予習：自分の作品を練習してくる
復習：アームスをつけて創作内容を復習する

19
授業：創作の仕方（3）フォーメーション導入 実技 9
予習：自分の作品を練習してくる
復習：重心移動（方向）をつけて創作内容を復習する

20
授業：まとめ 実技 10【 後半クラス実技終了 】
予習：自分の作品を練習してくる
復習：キューイングを入れて創作内容を復習する

21
授業：運動と健康【 講義開始 】
予習：WHO 前文 健康の定義を調べてくる
復習：学んだ内容：運動と健康（ノート）をまとめる

22
授業：環境と健康
予習：日本人の死因ベスト 10 を調べてくる
復習：学んだ内容：環境と健康（ノート）をまとめる

23
授業：メタボリックシンドローム
予習：血圧の測定をしてくる
復習：ここまで学んだ内容を復習し、小テストに備える

24
授業：小テスト（小論文 2 題目）
予習：小テストに備えノートを見て内容をまとめてくる
復習：小テストの内容を再度ノートで確認する

25
授業：女性と健康① 体脂肪率とBMI
予習：自分の体脂肪率とBMI（体格指数）を把握してくる
復習：学んだ内容：女性と健康①（ノート）をまとめる

26
授業：女性と健康② 生理の周期

予習 : 生理の周期について調べてくる 復習 : 学んだ内容 : 女性と健康② (ノート) をまとめる 27 授業 : スポーツと生理 予習 : 一週間の歩行の歩数を記入してくる 復習 : 学んだ内容 : スポーツと生理 (ノート) をまとめる 28 授業 : スポーツとトレーニングと効果 予習 : トレーニングの原則を調べてくる 復習 : 学んだ内容 : トレーニングと効果 (ノート) をまとめる 29 授業 : スポーツと栄養 予習 : 一日の食事の内容を書いてくる 復習 : 学んだ内容 : スポーツと栄養 (ノート) をまとめる 30 授業 : レクリエーション 予習 : 今後できそうな余暇活動を調べてくる 復習 : テストに備え授業内容全てをまとめておく	
テキスト・教材	プリント配布
参考書	授業において適宜紹介する
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点 (感覚) とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものころが動くような環境 (体験) を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	学んだ Step を組み合わせ創作を行う。Step Sheet (Step・Arms・方向・キューイングを記入) の通り創作を発表し、用紙を提出する。それに対してコメント (フィードバック) を行う。

評価の基準と方法	前後期通じての総合評価とする。実技（50%）、講義内容に関する筆記試験（50%）
関連科目	子どものからだと保健
その他	実技の際には、T シャツ等運動着、靴下、運動靴（外履き不可）にて臨むこと。運動を行うために適していないと判断される服装の場合、シューズがない場合には受講を認めない。また、筆記用具および水分補給のための飲み物を持参すること。講義では筆記用具・テキスト・ノートを用意すること。
予習・復習の所要時間	実技 40 時間のみ
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	体育	科目分類	A78 両-1
担当教員	丸山 麻子	授業区分	講義・実技
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>生涯にわたり健康的な生活を送る上で、自分自身の身体に関する知識・関心を持つことは重要である。そして、心身の健康を維持・増進するためには、運動を取り入れることが望ましい。しかし、誤った方法での運動は効果がないばかりか、心身を害することもあるため、正しい運動の実施方法を理解し、修得することが必要である。</p> <p>本授業では、様々な種類のスポーツを行うことにより、生涯を通して続けられるようなスポーツ・運動を見つけ、上達する方法を探究する。</p>		
到達目標	<p>運動・スポーツと健康の関わりや各ライフステージでの具体的な運動・スポーツの実践方法等について理解すること、および実際に様々な運動を運動を体験し、理解することにより、生涯を通じて健康を維持・増進できる力を身につけることを目標とする。</p>		
授業開始前学習	<p>日ごろから体を動かす習慣をつくり、自らの体をよく知ること。また、受講前に、授業で行うスポーツを見るなどして事前にルール等の知識を得てから受講すること。</p>		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業 : オリエンテーション、運動・スポーツを行う上での諸注意
 予習 : 実施予定のスポーツについて調べる
 復習 : 運動・スポーツを行う上での諸注意をノートに整理する
- 2
 授業 : ニュースポーツ 1 (ピロポロなど) : 前半
 予習 : ニュースポーツ 1 (ピロポロなど) のルールを調べる
 復習 : ニュースポーツ 1 (ピロポロなど) のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
- 3
 授業 : ドッジボール (球技系スポーツ 1) : 前半
 予習 : ドッジボールのルールを調べる
 復習 : ドッジボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
- 4
 授業 : 卓球 (シングルス) (ラケット系スポーツ 1) : 前半
 予習 : 卓球 (シングルス) のルールを調べる
 復習 : 卓球 (シングルス) のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
- 5
 授業 : 卓球 (ダブルス) (ラケット系スポーツ 2) : 前半
 予習 : 卓球 (ダブルス) ルールを調べる
 復習 : 卓球 (シングルス) のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
- 6
 授業 : バドミントン (シングルス) (ラケット系スポーツ 3) : 前半
 予習 : バドミントン (シングルス) のルールを調べる
 復習 : バドミントン (シングルス) のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
- 7
 授業 : バドミントン (ダブルス) (ラケット系スポーツ 4) : 前半
 予習 : バドミントン (ダブルス) のルールを調べる
 復習 : バドミントン (ダブルス) のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
- 8
 授業 : バスケットボール (球技系スポーツ 2) : 前半
 予習 : バスケットボールのルールを調べる
 復習 : バスケットボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
- 9
 授業 : バレーボール (球技系スポーツ 3) : 前半
 予習 : バレーボールのルールを調べる
 復習 : バレーボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
- 10
 授業 : レクリエーションスポーツ 1 (バドボンなど) : 前半
 予習 : レクリエーションスポーツ (バドボンなど) のルールを調べる
 復習 : レクリエーションスポーツ (バドボンなど) のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
- 11
 授業 : オリエンテーション、ニュースポーツ 2 (ピロポロなど) : 後半

予習：ニュースポーツ 2（ピロポロなど）のルールを調べる
 復習：ニュースポーツ 2（ピロポロなど）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
 12
 授業：バスケットボール（球技系スポーツ 4）：後半
 予習：バスケットボールのルールを調べる
 復習：バスケットボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
 13
 授業：バドミントン（シングルス）（ラケット系スポーツ 5）：後半
 予習：バドミントン（シングルス）のルールを調べる
 復習：バドミントン（シングルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
 14
 授業：バドミントン（ダブルス）（ラケット系スポーツ 6）：後半
 予習：バドミントン（ダブルス）のルールを調べる
 復習：バドミントン（ダブルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
 15
 授業：バドミントン（団体戦）（ラケット系スポーツ 7）：後半
 予習：戦略を考える
 復習：バドミントン（団体戦）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
 16
 授業：ドッジボール（球技系スポーツ 5）：後半
 予習：ドッジボールのルールを調べる
 復習：ドッジボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
 17
 授業：卓球（シングルス）（ラケット系スポーツ 8）：後半
 予習：卓球（シングルス）のルールを調べる
 復習：卓球（シングルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
 18
 授業：卓球（ダブルス）（ラケット系スポーツ 9）：後半
 予習：卓球（ダブルス）のルールを調べる
 復習：卓球（ダブルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
 19
 授業：レクリエーションスポーツ 2（バドボン等）：後半
 予習：レクリエーションスポーツ（バドボン等）のルールを調べる
 復習：レクリエーションスポーツ（バドボン等）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
 20
 授業：バレーボール（球技系スポーツ 6）：後半
 予習：バレーボールのルールを調べる
 復習：バレーボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
 21
 授業：運動・スポーツと健康
 予習：自らのこれまでの運動・スポーツの経験と健康状態について考える
 復習：キーワード（健康、運動、スポーツ、身体活動など）の確認とノートへの整理
 22
 授業：健康のために必要な身体活動量とその把握方法
 予習：自らの身体活動量を把握する
 復習：キーワード（基礎代謝、エネルギー消費、DIT など）の確認とノートへの整理
 23
 授業：健康関連体力を向上させるための運動 1（全身持久力）
 予習：これまでに行ってきた有酸素運動について考える
 復習：キーワード（全身持久力、ウォーキング、心拍数など）の確認とノートへの整理
 24
 授業：健康関連体力を向上させるための運動 2（筋力・柔軟性）
 予習：これまでに行ってきたストレッチングや筋力トレーニングについて考える
 復習：キーワード（筋肉の種類、筋収縮、ストレッチングなど）の確認とノートへの整理
 25
 授業：中高齢者の健康と運動（ロコモティブシンドローム）
 予習：身近な中高齢者の方の健康状態について観察する
 復習：キーワード（加齢、関節、バランス能力、骨密度など）の確認とノートへの整理
 26
 授業：中高齢者の健康と運動（メタボリックシンドロームと生活習慣病）
 予習：身近な中高齢者の方の健康状態についてインタビューする
 復習：キーワード（血圧、脂質、血糖など）の確認とノートへの整理

27 授業：子どもの健康と運動 予習：自身の幼少期の運動や体力について考える 復習：キーワード（体力、学力、親子の生活習慣など）の確認とノートへの整理	
28 授業：女性の健康と運動（若年期） 予習：自身の月経周期などを把握する 復習：キーワード（女性ホルモン、月経、基礎体温など）の確認とノートへの整理	
29 授業：女性の健康と運動（中高齢期） 予習：身近な中高齢女性の健康状態についてインタビューする 復習：キーワード（更年期、骨粗鬆症、閉経など）の確認とノートへの整理	
30 授業：運動実施時の注意点とその対策 予習：これまでに運動によって生じた怪我や症状についてまとめる 復習：キーワード（熱中症、スポーツ傷害、RICES など）の確認とノートへの整理	
テキスト・教材	授業内で適宜紹介する
参考書	授業中に適宜紹介する
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	毎授業において回収するレポートに対しては、理解度の確認および適宜個別にコメントし、授業内にて全体の講評等を行う。
評価の基準と方法	前後期通じての総合評価とする。実技（50%）、講義内容に関する筆記試験（50%）

関連科目	子どものからだと保健
その他	実技の際には、ジャージ等の運動着、靴下、運動靴（外履きは不可）にて臨むこと。運動を行うに適していないと判断される服装の場合には、受講を認めない。また、筆記用具および水分補給のために飲み物を持参すること。
予習・復習の所要時間	実技 40 時間のみ
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	保育原理		科目分類	B37 保-1
担当教員	市野 繁子		授業区分	講義
研究室	16-302	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:30～12:00	
授業のテーマ・内容	<p>子どもを取り巻く環境は大きく変化している。本授業では、いつの時代にも変わらない保育における不易なもの(真)と、社会の状況によって変化するもの(真)について考えて行く。その上で、保育における社会的、文化的、歴史的な視点を持ちながら保育の原理(基礎)を学修していく。</p> <p>授業の方法としては、毎回の授業の初めに前回の復習を行う。さらに予習を確認するためにグループ内でのディスカッションを通して発表を行う方法で予習を確認していく。この方法を毎回繰り返すことで、学習内容を確実に習得できることを目指す。</p>			
到達目標	<p>1 保育とは何かを理解することにより、子どもや保育の場のイメージを形成することができる。</p> <p>2 保育に関する法令・制度、思想や歴史を学び、社会の流れを理解し、保育の基礎知識を身につけることができる。</p>			
授業開始前学習	<p>常に子どもや保育の場に関心を持ち、できるだけ多く子どもと触れる機会や保育の場に参加する機会をもつこと。また、積極的に子どもや保育に関する新聞記事や書籍を読んでおくこと。</p>			

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1.

授業：保育とはなにか (テキスト pp.11-24)

予習：教科書第 1 章を読み、分からない語句などについて調べておく

復習：本授業授業のテーマ・内容、到達目標を確認し、これからの授業で学びたいことをまとめる。
2.

授業：現代社会と子どもの育ち (テキスト pp.25-37)

予習：教科書第 2 章を読み、分からない語句などについて調べておく

復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
3.

授業：保育が行われる場を知る (テキスト pp.38-55)

予習：教科書第 3 章を読み、分からない語句などについて調べておく

復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
4.

授業：保育者に求められる資質と専門性 (テキスト pp.56-71)

予習：教科書第 4 章を読み、分からない語句などについて調べておく

復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
5.

授業：世界の保育の歴史に学ぶ (テキスト pp.72-85)

予習：教科書第 5 章を読み、分からない語句などについて調べておく

復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
6.

授業：日本の保育の歩み-日本の保育の歩みを支えた人物と思想を知る- (テキスト pp.88-99)

予習：教科書第 6 章を読み、分からない語句などについて調べておく

復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
7.

授業：日本の保育の歩みⅡ-明治・大正・昭和の保育内容と戦後の保育の歩みを学ぶ- (グループワーク)

予習：教科書第 6 章を読み、分からない語句などについて調べておく

復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
8.

授業：保育に求められる子ども観・発達観 (テキスト pp.100-113)

予習：教科書第 7 章を読み、分からない語句などについて調べておく

復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
9.

授業：保育所保育指針における保育の基本 (テキスト pp.114-125)

予習：教科書第 8 章を読み、分からない語句などについて調べておく

復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
10.

授業：保育の目的と内容 (テキスト pp.126-141)

予習：教科書第 9 章を読み、分からない語句などについて調べておく

復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む

11.	授業：保育の方法と進め方（テキスト pp.142-156） 予習：教科書第 10 章を読み、分からない語句などについて調べておく 復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
12.	授業：保育の計画と振り返り・評価（テキスト pp.157-165） 予習：教科書第 11 章を読み、分からない語句などについて調べておく 復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
13.	授業：子育て支援と地域連携（テキスト pp.166-176） 予習：教科書第 12 章を読み、分からない語句などについて調べておく 復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
14.	授業：諸外国の保育に目を向ける（テキスト pp.177-188） 予習：教科書第 13 章を読み、分からない語句などについて調べておく 復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取り組む
15.	授業：保育をめぐるこれからの課題について（テキスト pp.189-202） 予習：14 回までの授業内容を確認し、プリントやノートを整理する 復習：授業の振り返りと自身の課題を見つける

テキスト・教材	豊田和子編『実践を創造する 保育原理 第 2 版』(株)みらい 適宜プリントを配布する。
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（フレーベル館） その他、授業内で指示する。

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
--------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	毎回の授業の課題を確認し、適宜授業内にて質問事項への回答や講評を行う
評価の基準と方法	ミニテスト（30%）課題提出物（10%）試験（60%）
関連科目	教育原理、保育者論、子ども家庭支援論、幼児教育制度論、保育内容総論、保育・教育課程論
その他	授業には教科書と初回授業オリエンテーション内で指示するファイルを必ず持参すること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	教育原理	科目分類	B37 両-1
担当教員	古屋 真	授業区分	講義
研究室	16-313	オフィスアワー	前期 金曜日 12:10～16:10 後期 金曜日 12:10～16:10
授業のテーマ・内容	教育という文化的事象は、教育を規定する時代や社会、あるいは文化の要請に応えなければならない。しかしながら、教育は、ただ単にそれらに即応すべきものではなく、それらを批判し、改善していくような固有の理論をもつ必要がある。そのため、本授業では、乳幼児期の教育の意義や目的、基礎理論、代表的な教育思想やその歴史的展開、学校教育制度など、教育に携わる者として身につけるべき基礎知識を学びながら、今日の教育問題（いじめ、不登校、小1プロブレム、虐待、子どもの貧困など）や保育者の専門性について考察する。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の5点を挙げる。 1.教育の意義や目的を理解し、保育職に対する使命感をもつ 2.教育実践の様々な取り組みから教育実践の基礎理論を理解することができる 3.教育の歴史や思想に関する基礎知識を理解・説明できる 4.学校教育制度に関する基礎知識を理解・説明することができる 5.生涯学習社会における教育課題を踏まえ、保育者に求められる資質や能力について考えることができる		
授業開始前学習	保育職の志望動機や、自身の目指す保育者像、育てたい子ども像（子どもがどのような人間に育ってほしいか）について考える。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：教育の意義と目的を学ぶ（テキスト P.1-3）
予習：テキスト第1章第1節を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：「人格の完成」の意味をノートにまとめる
- 2
授業：教育の基礎理論（構成要素・機能）を学ぶ（テキスト P.3-8, P.39-52）
予習：テキスト第1章第2-4節・第4章を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：教育の構成要素と実践方法をノートにまとめる
- 3
授業：教育の思想①：教育の代表思想（コメニウス、ロック、ルソーなど）を学ぶ（テキスト P.9-21）
予習：テキスト第2章を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：代表的な教育実践家の教育思想をノートにまとめる
- 4
授業：教育の思想②：教授の原理（直観教授、段階教授法など）を学ぶ（テキスト P.71-73）
予習：テキスト第5章第2節1-2項（P.71-73）を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：教師中心主義（教える）の教育方法についてノートにまとめる
- 5
授業：教育の思想③：学習の原理（問題解決学習、プログラム学習など）を学ぶ（テキスト P.73-77）
予習：テキスト第5章第2節3-6項（P.73-77）を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：児童中心主義（学ぶ）の学習方法についてノートにまとめる
- 6
授業：教育の思想④：乳幼児期の子どもにとっての家族の意味（子ども観や家族観など）を学ぶ（テキスト P.26-27, P.31-32）
予習：テキスト第3章第1節3項(4)・第2節1項(2)を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：子ども観や家族観の変遷についてノートにまとめる
- 7
授業：教育の歴史①：欧米における教育の展開（古代～中世）を学ぶ（テキスト P.23-25）
予習：テキスト第3章第1節1-2項を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：欧州における古代～中世の教育の特徴をノートにまとめる
- 8
授業：教育の歴史②：欧米における教育の展開（ルネサンス～近代）を学ぶ（テキスト P.25-30）
予習：テキスト第3章第1節3-4項を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：欧州におけるルネサンス～近代の教育の特徴をノートにまとめる
- 9
授業：教育の歴史③：日本における教育の展開（古代～中世）を学ぶ（テキスト P.31-32）
予習：テキスト第3章第2節1項を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：日本における古代～中世の教育の特徴をノートにまとめる
- 10
授業：教育の歴史④：日本における教育の展開（近世～近代）を学ぶ（テキスト P.32-38）
予習：テキスト第3章第1節2-3項を要約し、疑問点をノートにまとめる

<p>復習：日本における近世～近代の教育の特徴をノートにまとめる</p> <p>11</p> <p>授業：学校教育制度の基礎（諸外国の教育制度を含む）を学ぶ（テキストP.85-106）</p> <p>予習：テキスト第6章を要約し、疑問点をノートにまとめる</p> <p>復習：日本や諸外国の学校体系の特徴をノートにまとめる</p> <p>12</p> <p>授業：教育行政と教育法規を学ぶ（テキストP.107-116）</p> <p>予習：テキスト第7章第1節・第2節を要約し、疑問点をノートにまとめる</p> <p>復習：国（文部科学省）や地方自治体（教育委員会）の教育機関の役割をノートにまとめる</p> <p>13</p> <p>授業：現代の教育問題（いじめ、不登校、小1プロブレム、虐待、子どもの貧困）を学ぶ（テキストP.139-145）</p> <p>予習：テキスト第10章を要約し、疑問点をノートにまとめる</p> <p>復習：現代の子どもたちが抱える問題とその対策についてノートにまとめる</p> <p>14</p> <p>授業：生涯学習社会における乳幼児期の教育の課題（特別支援教育、幼保一元化、保幼小接続）を学ぶ</p> <p>予習：子ども・子育て支援新制度の概要を要約し、疑問点をノートにまとめる</p> <p>復習：現在の幼児教育に対する社会の要請をノートにまとめる</p> <p>15</p> <p>授業：保育者の専門性（役割）を考える（テキストP.123-137）</p> <p>予習：テキスト第9章を要約し、疑問点をノートにまとめる</p> <p>復習：保育者の専門性についてノートにまとめる</p>	
テキスト・教材	平野智美監修，中山幸夫・田中正浩編著『新・教育学のグランドデザイン』（八千代出版） この他、適宜、授業内にてプリントを配付する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○○○○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○○○○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○
c3 子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○○
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	○
課題のフィードバック	講義毎に小レポートを課す（翌週の講義内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	講義毎の小レポート（30%）、中間試験（10%）、定期試験（60%）
関連科目	保育原理、教育方法
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

子ども家庭福祉

科目名称	子ども家庭福祉	科目分類	B36 保-1 (J)
担当教員	上出 香波	授業区分	講義
研究室	16-311	オフィスアワー	前期 火曜日 12:30～14:30 水曜日 14:40～15:40 後期 木曜日 11:30～14:30
授業のテーマ・内容	急速に進む少子高齢化の現在、社会の変化に伴い、子どもや家庭を取り巻く環境も変化し、脆弱化した家庭、不適切な養育、子どもの貧困など、様々な問題や課題を抱えている現代社会の実態を把握する。子どもの健全育成を担う保育士として、子ども家庭福祉分野の広がりや理解し、子どもの人権擁護、法制度、政策、社会資源等、子ども家庭支援に必要な基礎的知識を学修する。		
到達目標	1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解できるようになる 2 子どもの権利や発達を保证するための子ども家庭福祉における仕組み、法制度や実施体系等について理解できるようになる 3 子ども家庭福祉の現状と課題について理解し、展望も含めて説明できるようになる		
授業開始前学習	子ども家庭福祉に関連するトピックスを新聞記事やニュース情報等から把握しておく		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：ガイダンス 現代社会と子ども家庭福祉
予習：テキスト（p.1～7）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、「子ども観」について整理し、ノートにまとめる
- 2
授業：子ども家庭福祉の理念と概念
予習：テキスト（p.8～13）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、少子化と女性の働き方について整理し、ノートにまとめる
- 3
授業：子ども家庭福祉の歴史的変遷
予習：テキスト（p.17～22）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子ども家庭福祉の歩み（歴史）について整理し、ノートにまとめる
- 4
授業：児童福祉施設の歩みと動向
予習：テキスト（p.22～29）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、各児童福祉施設の歩み（歴史）について整理し、ノートにまとめる
- 5
授業：子どもの人権擁護の歴史的変遷・子どもの権利条約、現代社会における現状と課題
予習：テキスト（p.33～42）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、人権擁護の歴史と子どもの権利条約について整理し、ノートにまとめる
- 6
授業：子ども家庭福祉の制度と法体系・児童福祉法の改正
予習：テキスト（p.43～46）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子ども家庭福祉の法体系について整理し、ノートにまとめる
- 7
授業：子ども家庭福祉の実施体系
予習：テキスト（p.47～61）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子ども家庭福祉の実施体系について整理し、ノートにまとめる
- 8
授業：児童福祉施設と専門職
予習：テキスト（p.63～72）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、児童福祉施設と専門職について整理し、ノートにまとめる
- 9
授業：母子保健と子どもの健全育成
予習：テキスト（p.91～111）を読み、内容と自分の母子手帳を確認しておく
復習：授業内容を振り返り、母子保健サービスについて整理し、ノートにまとめる
- 10
授業：ひとり親家庭の現状と課題
予習：テキスト（p.211～225）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、ひとり親家庭の現状と家庭支援について整理し、ノートにまとめる
- 11
授業：少年非行の現状と対応

予習：テキスト（p.152～169）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：授業内容を振り返り、少年非行への対応について整理し、ノートにまとめる	
12	
授業：子どもの貧困（子どもの居場所、子ども食堂等） 予習：テキスト（p.225～233）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：授業内容を振り返り、子どもの貧困の現状と支援について整理し、ノートにまとめる	
13	
授業：子どもの虐待とDV（ドメスティックバイオレンス） 予習：テキスト（p.115～137）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：授業内容を振り返り、子どもの虐待とDVについて整理し、ノートにまとめる	
14	
授業：特別な配慮が必要な子どもへの支援と課題（障害を有する子ども） 予習：テキスト（p.141～151、180～194）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：授業内容を振り返り、発達障害、医療的ケア児について整理し、ノートにまとめる	
15	
授業：まとめ（子ども家庭福祉の動向と展望） 予習：テキストや配布資料、記入したノートの内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：授業内容を振り返りについて整理し、ノートにまとめる	
テキスト・教材	坂本健・佐久間美智雄 編著『実践に活かす子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房
参考書	必要に応じて授業内において適時提示する
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○○○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○○○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	
c3 子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○○
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○○
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○○○
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	○
課題のフィードバック	提示した課題については、授業内で適時講評をおこなう。

評価の基準と方法	課題レポート（50%）、授業への取り組み（課題小レポート提出、小テスト、グループワークなどにおける参加度）（50%）
関連科目	
その他	授業に関連した興味ある内容を自主的に調べ学習をおこない、自ら子ども福祉の内容を深めることを望む
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	小児医療や児童発達支援の臨床現場における保育経験を活かし、実際の子どもの保育および家族の相談支援における実践事例の内容も関連づけ、子ども家庭福祉の理解に繋がる授業をおこなう

科目名称	社会福祉		科目分類	B36 保-1
担当教員	今井 大二郎		授業区分	講義
研究室	16-310	オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	
授業のテーマ・内容	現代社会における社会福祉の意義について、日常生活との関連づけを意識して学習を深める。社会福祉の歴史の変遷を概観し、社会福祉の基礎知識として法制度体系、福祉政策の仕組み等について学び、社会福祉のニーズと様々な課題に対して思考を深めることを目指す。併せて保育士に求められる社会福祉の知識、あるいは相談援助技術を含めたソーシャルワークの基礎を習得していく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の歴史の変遷を踏まえ、現代社会における社会福祉の意義について知り、子ども家庭福祉との関連を理解できるようになる 2 社会福祉の制度や実施体系等について理解できるようになる 3 社会福祉における相談援助について理解する 4 社会福祉の動向と課題について理解する 			
授業開始前学習	社会福祉に関連するトピックスを新聞記事やニュース情報等から把握しておく。			

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業：オリエンテーション（社会福祉を学ぶ意義）
 予習：テキスト（p.1～12）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめる
 復習：授業内容を振り返り、社会福祉の意義について整理し、ノートにまとめる
- 2
 授業：社会福祉の理念と歴史
 予習：テキスト（p.13～31）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめる
 復習：社会福祉の歴史の変遷から、現在の福祉制度の成り立ちを理解し、重ねて支援の基盤を成す理念についてノートにまとめる
- 3
 授業：社会保障制度と社会福祉の法制度
 予習：テキスト（p.32～47）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめる
 復習：「生存権」に基づく社会保障制度の概要についてまとめる
- 4
 授業：社会福祉の行財政と実施機関
 予習：テキスト（p.48～59）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめる
 復習：日本の社会福祉の行財政と実施機関について整理し、ノートにまとめる
- 5
 授業：社会福祉の施設と専門職
 予習：テキスト（p.61～65）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめる
 復習：社会福祉施設及び児童福祉施設、及び各施設に配置がある専門職についてノートにまとめる
- 6
 授業：社会福祉の実施体系
 予習：テキスト（p.55～68）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめる
 復習：授業内容を振り返り、社会福祉の行政機関と民間機関・団体について整理し、ノートにまとめる
- 7
 授業：子ども家庭福祉
 予習：テキスト（p.78～89）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめる
 復習：子ども家庭福祉の現状と課題、関連法規と実施体系についてノートにまとめる
- 8
 授業：母子・女性福祉
 予習：テキスト（p.90～93）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめる
 復習：ひとり親家庭への支援をはじめ、DV防止の対応や女性福祉の相談機関についてノートにまとめる
- 9
 授業：障害福祉①
 予習：テキスト（p.94～99）を読み、「障害」の定義や分類についてノートにまとめる
 復習：授業内容を振り返り、それぞれの障害特性についてノートにまとめる
- 10
 授業：障害福祉②
 予習：テキスト（p.99～115）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめる
 復習：障害児・者福祉に関連する法制度と現状についてノートにまとめる
- 11

授業：高齢者福祉
 予習：テキスト（p.116～132）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：高齢者福祉の現状や実施体制、介護保険制度について整理し，ノートにまとめる

12
 授業：貧困と福祉
 予習：テキスト（p.133～152）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：生活保護や子どもの貧困について整理し，ノートにまとめる

13
 授業：社会福祉における相談援助①
 予習：テキスト（p.147～162）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：バ이스ティックの7原則について整理し，ノートにまとめる

14
 授業：社会福祉における相談援助②
 予習：対人援助における傾聴技法について調べノートにまとめる
 復習：授業内容を振り返り，具体的な傾聴技法についてノートにまとめる

15
 授業：まとめ（社会福祉の動向と課題）
 予習：テキスト（p.175～185）を読み，疑問点をノートにまとめる
 復習：共生社会の実現に向けた包括的支援体制について整理し，ノートにまとめる

テキスト・教材	『改訂はじめて学ぶ社会福祉』〔第2版〕松本峰雄 小野澤昇編著 建帛社 2022（令和4年）5月20日改訂第2版
参考書	『社会福祉の支援活動ソーシャルワーク入門』北川清一/久保美紀編著 ミネルヴァ書房 2008年3月

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇

課題のフィードバック	提示した課題については、授業内で適時講評をおこなう。
評価の基準と方法	試験（50%）、授業内での課題〔小レポート、小テスト、演習課題等〕（50%）
関連科目	
その他	講義資料を適宜配布する。この科目のファイルを用意する等して、講義資料をまとめ、毎回講義に持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	子育て支援	科目分類	B36 保-2 (J)
担当教員	上出 香波	授業区分	演習
研究室	16-311	オフィスアワー	前期 火曜日 12:30～14:30 水曜日 14:40～15:40 後期 木曜日 11:30～14:30
授業のテーマ・内容	子育てへの不安や悩みを抱えたり、子育てが困難な状況にある等、多様化する子育て家庭のニーズや課題に対して、保育士に求められる知識や技術の獲得を目的とする。また、保育士の専門性を活かしておこなう相談・助言のほか、情報提供など子育て支援に対する理解を深め、実践的対応力を養う。		
到達目標	1 子育て家庭の現状と子育て支援の基本を踏まえたうえで、保育士の専門性に基づいた保護者に対する保育相談支援の特性と展開方法について理解できるようになる 2 保育の様々な場や対象における実践事例を通して支援の内容と方法および技術を具体的に理解できるようになる		
授業開始前学習	自分の居住地における地域子育て支援について、調べ把握しておくことが望ましい		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業：ガイダンス 子育て支援とは
 予習：テキスト（p.1～7）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、子育て支援の「子育て」「親育ち」「親子関係」「子育て環境」について整理し、ノートにまとめる
- 2
 授業：保育士の行う子育て支援の特性
 予習：テキスト（p.7～15）、保育所保育指針第4章を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、保育士の専門性における相談支援について整理し、ノートにまとめる
- 3
 授業：現代社会における子育て家庭の現状における支援のニーズと対応
 予習：テキスト（p.16～25）、保育所保育指針第4章を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、子育て家庭の現状と支援のニーズと対応について整理し、ノートにまとめる
- 4
 授業：社会資源の活用①自治体の調べ学習(グループワーク)
 予習：テキスト（p.39～47）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、居住地と近隣地域の社会資源について調べ学習し、ノートにまとめる
- 5
 授業：社会資源の活用②自治体、関係機関との連携と協働について調べ学習(グループワーク)
 予習：テキスト（p.48～50）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、居住地と近隣地域の子育て支援の関わる関係機関について調べ学習し、ノートにまとめる
- 6
 授業：社会資源の活用③調べ学習の発表、振り返り評価、課題(グループワーク)
 予習：調べ学習の内容を整理し、発表に向け準備をおこなう
 復習：授業内容を振り返り、各自治体の社会資源について整理し、ノートにまとめる
- 7
 授業：子育て支援計画の立案(グループワーク)
 予習：テキスト（p.26～37）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、子育て支援計画の立案について整理し、ノートにまとめる
- 8
 授業：保育所・地域の子育て支援事業における支援の役割と実際①実践内容の計画(グループワーク)
 予習：テキスト（p.72～93）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、保育所等における子育て支援について整理し、ノートにまとめる
- 9
 授業：保育所・地域の子育て支援事業における支援の役割と実際②実践内容の準備・制作(グループワーク)
 予習：テキスト（p.72～93）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく、支援の事例を計画する
 復習：授業内容を振り返り、保育所等における子育て支援の実践内容を整理し、ノートにまとめる
- 10
 授業：保育所・地域の子育て支援事業における支援の役割と実際③実践内容の準備・制作(グループワーク)
 予習：テキスト（p.72～93）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく、支援の事例を計画する
 復習：授業内容を振り返り、保育所等における子育て支援の実践内容を整理し、ノートにまとめる
- 11
 授業：保育所・地域の子育て支援事業における支援の役割と実際④実践発表(グループワーク・プレゼンテーション)

予習：テキスト（p.72～93）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく。支援事例の実践内容を発表できる準備を行う
 復習：授業内容を振り返り、ノートにまとめる

12
 授業：保育所・地域の子育て支援事業における支援の役割と実際⑤実践発表の振り返り評価、課題(グループワーク・プレゼンテーション)
 予習：テキスト（p.72～93）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく。支援の事例を実践発表内容について振り返り、疑問点を確認しておく
 復習：授業内容を振り返り、子育て支援計画の実施、評価について整理し、ノートにまとめる

13
 授業：要保護児童等の家庭に対する支援、多様な支援ニーズを抱える家庭の理解と支援(グループワーク)
 予習：テキスト（p.118～126, p.138～146）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、多様な支援ニーズを抱える家庭への子育て支援および要保護児童等の必要な家庭への子育て支援について整理し、ノートにまとめる

14
 授業：特別な配慮を要するその家族に対する支援、諸外国の子育て支援(グループワーク)
 予習：テキスト（p.106～116）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく。諸外国の子育て支援について、文献やインターネットで調べ、確認しておく
 復習：授業内容を振り返り、特別な配慮を要するその家族への子育て支援および諸外国の子育て支援について整理し、ノートにまとめる

15
 授業：まとめ（保育士と子育て支援）
 予習：テキストや配布資料、記入したノートの内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返りについて整理し、ノートにまとめる

テキスト・教材	太田光洋 編著『シードブック 子育て支援演習』建帛社
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 その他、必要に応じて授業内において適時提示する"

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる		〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる		
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる		
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇〇〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる		〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる		〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる		〇〇〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	提示した課題ワークやグループ発表等については、授業内で適時講評をおこなう。
評価の基準と方法	課題レポート（50%）、授業への取り組み（課題ワーク提出、小テスト、グループワークなどにおける参加度）（50%）
関連科目	子ども家庭支援論、子ども家庭福祉、社会福祉
その他	グループディスカッションや発表をおこなう演習授業である。各学生が積極的に意見を述べ、授業の内容を発展させていくことを望む
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	〇
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	小児医療や児童発達支援の臨床現場における保育経験を活かし、実際の子どもの保育および家族への子育て相談支援の実践事例の内容も含め、子育て支援の実践力に繋がる授業をおこなう

科目名称	社会的養護 I	科目分類	B36 保-1 (J)
担当教員	今井 大二郎	授業区分	講義
研究室	16-310	オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30
授業のテーマ・内容	<p>わが国では、子ども一人ひとりの健全な成長発達と自己実現を果たしていくことが保障されている。その子どもの健全な成長発達の基盤を支える一義的な環境となるのが家庭であるが、様々な事情により家庭で生活することが困難な子どもがいる。そういった子どもや家庭の自立を支援するための法制度、実施体系、養護実践等を総称して社会的養護という。</p> <p>本講義では、社会的養護の理念や指針、法制度、あるいは対象と支援内容、現状と課題等について学ぶ。さらに社会的養護に関連した根深い問題であるマルチトメントについて、焦点を当てて学び、子どもの権利擁護、あるいは健全な成長発達への影響と関連付けて理解し、保育者としての基本的視点を養う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解できるようになる。 2 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について身に着けることができる。 3 社会的養護の法制度や実施体系について説明することができる。 4 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について説明することができる。 5 社会的養護についての理解を深め、保育者として視野を広げることができる。 		
授業開始前学習	子ども虐待に関する著書等の文献を読み理解を深めておくこと。また、里親制度や児童福祉施設の種類、支援内容等について関連する科目の学習とつなげて学んでおくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業 : 現代社会における社会的養護の意義～子育てを取り巻く社会問題と支援活動への取り組み～
 予習 : テキスト p13-20 を読み、子育てを取り巻く諸問題についてノートにまとめる
 復習 : 支援活動の特性についてノートにまとめる
- 2
 授業 : 子どもの人権擁護の重要性～子どもの権利と発達の保障～
 予習 : テキスト p21-28 を読み、子どもの権利についてノートにまとめる
 復習 : 子ども権利とは何かについてノートにまとめる
- 3
 授業 : 社会的養護の法制度と実施体系① (行政機関と措置制度)
 予習 : テキスト p29-41 を読み、社会的養護に関する行政機関や措置制度についてノートにまとめる
 復習 : それぞれの法律と講義で取り上げた条文についてノートにまとめる
- 4
 授業 : 社会的養護の法制度と実施体系② (社会的養護と家庭養護)
 予習 : 児童福祉施設の種類について調べる
 復習 : 我が国の社会的養護の方針と家庭養護・施設養護についてまとめる
- 5
 授業 : 対象の理解 (子ども虐待とは)
 予習 : 子ども虐待とは何か調べる
 復習 : 子ども虐待の現状やしつけとの違いについてノートにまとめる
- 6
 授業 : 子ども虐待が及ぼす心身への負の影響
 予習 : 前回講義の配布資料をよく読みノートにまとめる
 復習 : トラウマの影響についてノートにまとめる
- 7
 授業 : 施設養護 (乳児院①)
 予習 : テキスト p42、43 を読み、乳児院の支援内容についてノートにまとめる
 復習 : 配布したレジメや動画から学んだ内容をノートにまとめる
- 8
 授業 : 施設養護 (乳児院②)
 予習 : 環境の変化が与える子どもへの影響についてノートにまとめる
 復習 : 通過施設としての乳児院の取り組みについてノートにまとめる
- 9
 授業 : 施設養護 (児童養護施設)
 予習 : 児童養護施設の職員配置についてまとめ、配置理由について考える
 復習 : 自立支援の柱について講義内容をノートにまとめる
- 10
 授業 : 養護系施設のまとめ
 予習 : 子どもが社会自立する上で必要な力について考え、ノートにまとめる

復習	：映像から学んだことをまとめる	
11		
授業	：更生保護/児童自立支援施設・自立援助ホーム	
予習	：更生保護について調べノートにまとめる	
復習	：要保護児童の社会自立の課題についてノートにまとめる	
12		
授業	：障害がある子どもへの支援①（自己肯定感を育む支援①）	
予習	：発達障害（ADHD、LD）について調べノートにまとめる	
復習	：プラスの経験を積む支援方法についてノートにまとめる	
13		
授業	：障害がある子どもへの支援②（自己肯定感を育む支援②と障害受容）	
予習	：保護者の障害受容について調べノートにまとめる	
復習	：保護者支援に必要な支援者の留意点についてノートにまとめる	
14		
授業	：社会的養護の展望（家庭養護優先とその課題）	
予習	：里親制度と養子縁組についてノートにまとめる	
復習	：学習内容のキーワードについて説明できるようにする	
15		
授業	：授業のまとめ	
予習	：各回を振り返り、学習のポイントをノートにまとめる	
復習	：指示した講義のまとめに関する課題に取り組む	
テキスト・教材	中山正雄監修 『よりそい支える社会的養護 I』(教育情報出版)、その他レジメを適宜配布する。	
参考書	西澤 哲『子どものトラウマ』（講談社現代新書） 小木曾 宏『Q&A 子ども虐待問題を知るための基礎知識』【第2版】（明石書店） 厚生労働省『新しい社会的養育ビジョン』	
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1	学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇
a2	保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇
a3	様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4	物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5	現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇
a6	状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1	物事をこころに深く感じることができる	〇
b2	子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇
b3	子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	
b4	自分の思いや考えを豊かに表現することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1	「子どもの遊び」の本質を理解している	
c2	子どもと一緒に楽しむことができる	
c3	子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	
c4	子どもが遊び出したくなるように促すことができる	
c5	子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1	社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇
d2	積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇
d3	信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇
d4	他者と協働して物事を進めることができる	〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	適宜リアクションペーパーの提出を求める。(講義内において講評、振り返りを行う)。
評価の基準と方法	試験(60%) + 提出物及び講義への参加姿勢(40%)
関連科目	社会的養護Ⅱ、保育実習指導Ⅰ(施設)、保育実習Ⅰ(施設)
その他	講義テーマごとにレジメや資料を配布する。専用のクリアファイル等を用意して整理し、テキストと一緒に毎回持参すること。掲出する資料以外の口頭での説明等も積極的にメモをとり、復習に活用することが肝要である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	児童指導員
実務経験を活かした教育内容	ケアワーカー、ファミリーソーシャルワーカーの経験から、施設生活の日常生活支援におけるケアワークやソーシャルワークにおける支援者の留意点、あるいは当事者の子どもや保護者、里親の実態について具体的に解説する。

科目名称	保育者論	科目分類	B37 両-2 (J)
担当教員	佐藤 晶子	授業区分	講義
研究室	16-309	オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:40 後期 火曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10
授業のテーマ・内容	これまでの実習で体験的に学んできた保育者の職務や役割について整理しながら、保育者の意義や法的位置づけ、倫理や専門性について解説する。また、実際に保育現場で求められている園児や保護者との対話、自己研鑽の姿勢、社会人としての人間関係構築のあり方を理解するために、事例を用いながら対話力・省察力・判断力を高めていく。学生自身がお互いに学び合い、自己の追い求める保育者像や保育の仕事に向き合う堅実な姿勢について考える機会となることを目指す。		
到達目標	1 現代に求められている保育者の役割や普遍的倫理を十分に理解し、説明することができる 2 自己のライフプランとキャリア形成を意識し、追い求める保育者像を明確にすることができる		
授業開始前学習	幼稚園教育要領解説及び保育所保育指針解説を読み、保育者の役割について要点をまとめ、自分が目指す保育者像について考える。		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1 授業：保育者の定義と社会的意義（グループワーク） 予習：テキストP.9-12を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：現時点での自己の子ども観、保育観、保育者像を整理する			
2 授業：保育士・幼稚園教諭の法的位置づけと役割 予習：テキスト第2章・第3章（P.20-46）を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理する			
3 授業：保育者の倫理と専門性 予習：テキストP.33、第5章（P.60-80）を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：テキストP.76の全国保育士会倫理綱領を再読し、理解する			
4 授業：保育の先駆者たちの思想・実践論 予習：テキストP.12-19を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理する			
5 授業：保護者との対話のあり方①ー書いて伝える技術ー 予習：テキスト第9章（P.118-130）を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：連絡ノートを想定したワークシートに取り組む			
6 授業：保護者との対話のあり方②ー話して伝える技術ー（グループワーク） 予習：テキスト第9章を再読し、課題ワークシートに取り組む 復習：他者の意見や考え方をワークシートに記録し整理する			
7 授業：保育におけるカウンセリングマインド 予習：カウンセリングマインドとは何か調べる 復習：授業プリントを整理する			
8 授業：保育者同士の連携と職場の人間関係（グループワーク） 予習：テキスト第7章（P.100-105）を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：各グループごとに事例研究を進める			
9 授業：園内研修・職員会議のあり方（グループワーク） 予習：各グループごとに事例研究を進める 復習：各グループで事例研究した内容を基に、発表会用スライド資料を作成する			
10 授業：園内研修を実践してみよう①ー保育者間の学び合いの視点ー（プレゼンテーション） 予習：事前ワークシートを準備する 復習：他グループの意見や考え方をワークシートに記録し整理する			
11 授業：園内研修を実践してみよう②ー自己の視点の再考ー（プレゼンテーション） 予習：事前ワークシートを準備する 復習：他グループの意見や考え方をワークシートに記録し整理する			

12	授業：子どもの命と権利について 予習：テキスト P.109-111 を読み、子どもの権利条約について復習しておく 復習：授業プリントを整理する
13	授業：子どもと共に育つ保育者とその使命 予習：配布資料を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：PTSD について調べ理解を深める
14	授業：保育者の現代的課題とキャリア形成・新任の心得 予習：テキスト P.105-107 を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：今後のライフプランと保育者としての目指すキャリアをノートに書く
15	授業：倉橋惣三の保育者論と自己の保育者像 予習：テキスト第 10 章（P.131-140）を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：授業開始時の自己の子ども観、保育観、保育者像の変容をノートにまとめる

テキスト・教材	浅見均・田中正浩編著『現代保育者論』（大学図書出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） 倉橋惣三著『育ての心 上・下』（フレーベル館）、その他随時紹介する

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる		〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる		〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる		〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる		〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる		〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる		〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる		〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる		〇〇〇〇
課題のフィードバック	授業内でワークシートを課す。授業内において、適宜、講評する。	

評価の基準と方法	最終レポート課題 60%、授業内課題・グループ発表・授業への参加度 40%
関連科目	
その他	授業内において、グループで発表会（プレゼンテーション）を実施する。保育者にとって必要不可欠である積極的な対話と協力し合う姿勢を意識して参加することを強く望む。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭
実務経験を活かした教育内容	幼稚園における年少、年中、年長、未就園児（2 歳児）のクラス担任の経験を活かし、保育の具体的な事例や実践を取り入れ、指導計画の立案や保育実践力向上につながる授業を展開していく。

科目名称	幼児教育制度論	科目分類	B37 両-2
担当教員	猪熊 弘子	授業区分	講義
研究室	16-303	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>保育者になるために必要な知識のひとつに、保育の制度や歴史がある。他のアジア諸国に先駆けて 1876（明治 9）年に初めての幼稚園が開園されて以来、現在まで変遷を重ねてきた日本の保育制度とその歴史を学ぶことで、保育者として必要な理論体系の基礎を築くことができる。この授業では、日本の幼児教育の成り立ちから、幼児教育の制度に関わる法令や制度の変遷、現行制度について学ぶ。同時に諸外国の幼児教育制度や現状についても学ぶことで、幼児教育の意義について理解を深めていく。また、少子化や多様性など昨今の子どもや保育に関わる社会的な状況や、子どもの命を守る制度など、社会の中での保育の位置づけや重要性についても学ぶ。ディスカッション等を行いながら自分の意見をしっかりと持ち、幼児教育に対して前向きな思いを抱けるようにする。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本における幼児教育・保育の成り立ちや歴史を理解する 2 幼児教育・保育の制度の成り立ちにや変遷について理解する 3 少子化や多様性、子どもの安全を守る制度など、社会の中での保育のあり方について理解する 4 保育をめぐる状況について関心を持ち、積極的に知ろうという気持ちを抱くようになる 5 保育者として必要な基本的な保育制度に関する知識を身につける 		
授業開始前学習	<p>日々報道される、子ども、保育者、保育現場を取り巻くさまざまなニュースについて、関心のある問題をノートにまとめておく</p>		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業：イントロダクション-「保育」とは何か？
 予習：「少子化」に関して最近報道されたトピックを調べておく。
 復習：なぜ社会の中で「保育」が重要なのか、その意義について振り返る
- 2
 授業：保育のはじまり～脱家族化・社会化と「保育」の始まり
 予習：世界史や日本史で学んだことを振り返り、なぜ「保育」が必要になったのかについて考えておく
 復習：保育の始まりについて学んだことをノートにまとめ、読み直す
- 3
 授業：日本における幼稚園のはじまりと変遷（1945 年まで）
 予習：子どもの頃に通っていた幼稚園や実習園の歴史について調べておく
 復習：各地の幼稚園の歴史や流れについて、学んだことをノートにまとめておく
- 4
 授業：日本における保育所のはじまりと変遷（1945 年まで）
 予習：子どもの頃に通っていた保育所や実習園の歴史について調べておく
 復習：さまざまな状況で生まれた保育所、認定こども園について、学んだことをノートにまとめる。
- 5
 授業：幼稚園・保育所の設置・運営の基準—その由来と違いについて
 予習：「幼稚園設置基準」「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」の条文を読んでおく
 復習：幼稚園・保育所の設置・運営基準についてその違いを明確にし、課題を含めてノートにまとめる
- 6
 授業：「措置」から子ども・子育て支援新制度へ①—現在までの保育・幼児教育制度について（1945 年～現在まで）
 予習：「児童福祉法」の中の保育に関する部分について読んでおく
 復習：現在までの保育所への入所制度の変遷についてノートにまとめる
- 7
 授業：「措置」から子ども・子育て支援新制度へ②—現在までの保育・幼児教育制度について（1945 年～現在まで）
 予習：内閣府・文部科学省・厚生労働省『子ども・子育て支援新制度 なるほど Book』を読んでおく
 復習：子ども・子育て支援新制度についてわかったことをノートにまとめる
- 8
 授業：幼保一元化をめぐる課題—国民幼稚園から認定こども園へ
 予習：認定こども園の 4 つの種類について調べておく
 復習：幼保一元化の歴史と現在の認定こども園の課題について、学んだことをノートにまとめる
- 9
 授業：待機児童と少子化—日本の保育をめぐる問題
 予習：インターネットで「待機児童」についての報道を探し、どういものか調べておく
 復習：急速な少子化のなかで保育・幼児教育に求められることについてまとめておく

10 授業：保育の市場化と「保育サービス」 予習：「サービス」という言葉の意味について辞書や辞典でしらべておく 復習：日本の福祉制度の中で保育がどのように制度をかえてきたかについてまとめておく	
11 授業：保育事故を防ぐために～子どもの主体性と保育の安全 予習：起こりやすい子どもの事故にはどんなものがあるか、インターネットで調べておく 復習：子どもの安全を守るために保育者にとって必要なことをノートにまとめる	
12 授業：世界の保育制度①—欧米の保育・幼児教育の現状について 予習：自分が興味を持っている欧米の保育・幼児教育の現状についてインターネット等で調べておく 復習：OECD「Starting Strong」からわかる欧米の保育について学んだことをノートにまとめる	
13 授業：世界の保育制度②—アジアの保育・幼児教育の現状について 予習：自分が興味を持っているアジアの保育・幼児教育の現状についてインターネット等で調べておく 復習：授業で習ったアジアの保育・幼児教育の現状についてノートにまとめる	
14 授業：子どもの権利について学ばー「児童憲章」「国連子どもの権利条約」 予習：「児童憲章」「国連子どもの権利条約」を読んでおく 復習：「国連子どもの権利条約」の中で、特に保育者にとって大切にしたいことについてノートにまとめる	
15 授業：「保育の質」とは何か？ 予習：「保育の質」とは何かについて、インターネットや図書館で資料を探し、調べてまとめておく。 復習：保育の評価の方法やあり方についておさらいし、自分が考える「保育の質」についてノートにまとめる	
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配付する
参考書	文部科学省編『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省編『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇
c4 子どもが遊び出したくなるように促すことができる	〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇

d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	毎回の講義終了後に、リアクションペーパーを課し、次回講義時に全体講評する
評価の基準と方法	課題（70%）、期末レポート（30%）
関連科目	日本国憲法
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	保育の心理学	科目分類	B14 両-1 (J)
担当教員	田口 禎子	授業区分	講義
研究室	16-307	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10
授業のテーマ・内容	命を授かった瞬間から人はどのように発達していくのか。本授業では、子どもの発達について神経学的、心理学的理論を学び、保育実践とどうつながっていくのかを考えていく。また、子どもの知覚や認知、感情と社会性、言語や運動などの発達過程を理解し、子どもの育ちを支える保育のあり方について、発達心理学の理論に基づいて学んでいく。さらに、子どもの主体的活動を支える保育方法や環境の意義について理解を深めていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの発達に関する基礎理論を理解し、保育への応用を考えることができる。 2 子どもの主体的な学びを支える多様な経験や環境の意義について、理論をもって説明することができる。 3 知覚や認知、感情や社会性、言語など乳幼児期の発達過程や特徴を説明することができる。 		
授業開始前学習	これから出会う子どもの行動や言葉、感情表現等を観察し、その意味について自分なりに考察してみてください。		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1	<p>授業：ガイダンス(授業目的、到達目標、成績評価方法)、子どもの発達を理解することの意義 予習：シラバスをよく読み、授業内容と到達目標を理解する。教科書 (P.6～17) を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 1 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>		
2	<p>授業：認知発達理論と子ども観 予習：教科書(P.18～31)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 2 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>		
3	<p>授業：健康な心と体—子どもの身体機能と運動機能の発達 予習：教科書(P.32～46)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 3 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>		
4	<p>授業：自立心—社会情動的スキルの発達 予習：教科書(P.47～59)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 4 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>		
5	<p>授業：協同性—社会性の発達 予習：教科書(P.60～75)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 5 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>		
6	<p>授業：道徳性・規範意識の芽生え—道徳・正義感の発達 予習：教科書(P.7～87)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 6 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>		
7	<p>授業：社会生活との関わり—社会適応能力の発達 予習：教科書(P.88～98)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 7 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>		
8	<p>授業：思考力の芽生え—乳幼児の学びと理論 予習：教科書(P.100～111)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 8 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>		
9	<p>授業：自然との関り・生命尊重—子どもの発達と環境 予習：教科書(P.112～133)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 9 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>		
10	<p>授業：数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚—認知・学習の発達 予習：教科書(P.122～133)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 10 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>		

11 授業：言葉による伝えあいー言葉の発達 予習：教科書(P.134~147)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 11 を整理し、理解できなかった内容を確認する	
12 授業：豊かな感性と表現ー感性と創造性の発達 予習：教科書(P.148~160)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 12 を整理し、理解できなかった内容を確認する	
13 授業：乳幼児期の学びを支える保育 予習：教科書(P.162~170)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 13 を整理し、理解できなかった内容を確認する	
14 授業：乳幼児期の発達の遅れと発達を支える保育ー支援と連携 予習：教科書(P.172~185)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 14 を整理し、理解できなかった内容を確認する	
15 授業：乳幼児期の子どもを持つ保護者を支える 予習：教科書(P.186~196)を読み、疑問点についてノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 14 を整理し、理解できなかった内容を確認する	
テキスト・教材	片桐正敏・藤本愉・川口めぐみ編「保育の心理学ー育てほしい10の姿」中山書店
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	
課題のフィードバック	提示した課題は、適宜授業内で講評を行うと共に、提出物には個別にコメントを記しフィードバックを行う。
評価の基準と方法	授業内で行う課題（60%）、レポート（40%）
関連科目	子ども家庭支援の心理学、子どもの理解と援助、子育て支援、教育相談
その他	周囲と意見を交換し合う時間が多くあります。思いや考えを自由に表現してほしいと思います。 また、授業内での疑問点や深く知りたいと思うことがある場合は、授業内で積極的に発言して構いません。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	臨床心理士、公認心理師
実務経験を活かした教育内容	臨床心理士として学校や医療機関で勤務してきた経験から、具体的な事例や実践を示して乳幼児期の子どもの発達やそれに関する心理的な問題についての理解を促す授業を展開する。

科目名称	子ども家庭支援の心理学	科目分類	B14 両-2 (J)
担当教員	田口 禎子	授業区分	講義
研究室	16-307	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10
授業のテーマ・内容	子どもやその家庭の支援に関する包括的な理解を目的とし、(1) 生涯発達、(2) 家族・家庭の理解、(3) 子育て家庭に関する現状と課題、(4) 子どもの精神保健とその課題を中心に、基本的知識を学ぶ。また、グループ討論やロールプレイなど主体的活動を通して、子ども一人一人の発達や特性、家庭や保護者など子どもが育つ環境を理解する視点を獲得し、発達課題に応じた具体的援助方法や関わり方について学びを深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 人が生涯にわたって発達していく過程を、各時期の特徴や課題から理解し説明することができる 2 親子関係や家族関係についての基礎理論（愛着理論や情動調律）を学び、家族・家庭の機能とその発達について説明することができる 3 現代社会における家庭や子育ての現状と課題を学び、家庭に対する支援について理解している 4 子どもの心の健康について、環境との関連や、障害や疾患の基本的な内容を理解して支援方法を考えることができる 		
授業開始前学習	『保育の心理学』の教科書やノートを復習しておく		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：ガイダンス（授業目的、到達目標、成績評価方法）生涯発達とライフサイクル
予習：シラバスをよく読み、本授業の目的と到達目標を理解する
復習：ノートと配布資料 1 を整理し、理解できなかった内容を確認する
- 2
授業：生涯発達①乳幼児期から学童期前期にかけての発達
予習：教科書(P.28～45)を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：ノートと配布資料 2 を整理し、理解できなかった内容を確認する
- 3
授業：生涯発達②学童期後期から青年期にかけての発達
予習：教科書(P.46～65)を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：ノートと配布資料 3 を整理し、理解できなかった内容を確認する
- 4
授業：生涯発達③成人期から老年期にかけての発達
予習：教科書(P.66～79)を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：ノートと配布資料 4 を整理し、理解できなかった内容を確認する
- 5
授業：家族・家庭の理解①家族・家庭の意義と機能
予習：教科書(P.80～92)を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：ノートと配布資料 5 を整理し、理解できなかった内容を確認する
- 6
授業：家族・家庭の理解②親子関係・家族関係の理解
予習：教科書(P.94～113)を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：ノートと配布資料 6 を整理し、理解できなかった内容を確認する
- 7
授業：家族・家庭の理解③子育ての経験と親としての育ち
予習：教科書(P.114～119)を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：ノートと配布資料 7 を整理し、理解できなかった内容を確認する
- 8
授業：子育て家庭に関する現状と課題①ライフコースと仕事・子育て
予習：教科書(P.119～127)を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：ノートと配布資料 8 を整理し、理解できなかった内容を確認する
- 9
授業：子育て家庭に関する現状と課題②多様な家族形態とその理解
予習：教科書(P.128～143)を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：ノートと配布資料 9 を整理し、理解できなかった内容を確認する
- 10
授業：子育て家庭に関する現状と課題③特別な配慮を必要とする家庭 1（貧困家庭、外国籍家庭など）
予習：教科書(P.144～161)を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：ノートと配布資料 10 を整理し、理解できなかった内容を確認する

11	<p>授業：子育て家庭に関する現状と課題④特別な配慮を必要とする家庭 2（ステップファミリー、虐待など）</p> <p>予習：教科書(P.144～161)を読み、疑問点をノートにまとめる</p> <p>復習：ノートと配布資料 11 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>
12	<p>授業：子どもの精神保健とその課題①発達支援の必要な子ども</p> <p>予習：教科書(P.162～173)を読み、疑問点をノートにまとめる</p> <p>復習：ノートと配布資料 12 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>
13	<p>授業：子どもの精神保健とその課題②子どもの生活・成育環境とその影響</p> <p>予習：教科書(P.176～188)を読み、疑問点をノートにまとめる</p> <p>復習：ノートと配布資料 13 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>
14	<p>授業：子どもの精神保健とその課題③子どもの心の健康にかかわる問題</p> <p>予習：配布資料 14 を読み、疑問点をノートにまとめる</p> <p>復習：ノートと配布資料 14 を整理し、疑問点をノートにまとめる</p>
15	<p>授業：まとめ（子ども観、家族観、発達観）</p> <p>予習：前回の授業内で提示した課題についてノートに考えをまとめる</p> <p>復習：ノートと配布資料 15 を整理し、理解できなかった内容を確認する</p>
テキスト・教材	青木紀久代編『子ども家庭支援の心理学』みらい
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	
関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇

d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	
課題のフィードバック	提示した課題は、適宜授業内で好評を行うとともに、提出物を通してフィードバックを行う。
評価の基準と方法	レポート提出（50%）、授業内で行う確認課題（50%）
関連科目	保育の心理学 I、子育て支援、子ども家庭支援論、教育相談、子どもの理解と援助
その他	グループワークや演習を行います。思いや考えを自由に表現してほしいと思います。 授業内での疑問点や深く知りたいと思うことがある場合は、授業内で積極的に発言してください。適宜授業内レポートを実施しますので、そちらに記入してもらっても構いません。返却時にフィードバックします。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	臨床心理士、公認心理師
実務経験を活かした教育内容	臨床心理士として学校や医療機関で勤務してきた経験から、具体的な事例や実践を示して乳幼児期の子どもの発達やそれに関する心理的な問題についての理解を促す授業を展開する。

科目名称	子どもの理解と援助	科目分類	B14 両-2 (J)
担当教員	市野 繁子	授業区分	演習
研究室	16-302	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:30～12:00
授業のテーマ・内容	子どもを知る、子どもを理解するためには、まず、自分自身がどのような保育者になっていくのかということイメージすることから始める。その上で、実態に応じた子どもの発達や学びの過程、一人一人の発達課題を把握することの意義を理解する。また、子どもたちの生活や遊びの体験から、一人一人の子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。さらに、保育実践の場の具体的なイメージを形成し、子ども理解のための方法を学んでいく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども一人一人の心身の発達や学びの過程を把握することの意義を理解する。 2 一人一人の子どもを理解する上で、子どもの生活や遊びについて基本的な考え方を理解する。 3 保育現場における子どもを理解するための具体的な援助や方法を理解する。 4 子ども理解に基づく保育者の態度や基本姿勢について理解する。 		
授業開始前学習	既習の学修内容を振り返り、子どもの年齢に応じた大まかな発達過程の特徴を理解しておくこと。 教科書の内容を熟読しておくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：授業ガイダンス、保育における「子ども理解」とは
予習：教科書第1章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
- 2
授業：「子ども理解」を深めるために求められるもの
予習：教科書第1章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
- 3
授業：子どもを取り巻く環境の理解①生活と遊びの視点から
予習：教科書第2章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
- 4
授業：子どもを取り巻く環境の理解②発達と学習の視点から
予習：教科書第2章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
- 5
授業：子ども理解における発達の視点①ピアジェ理論と幼児教育
予習：教科書第3章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
- 6
授業：子ども理解における発達の視点②発達観の変容
予習：教科書第3章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
- 7
授業：子ども理解における保育者の姿勢と実際
予習：教科書第4章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
- 8
授業：カウンセリングマインドにもとづく子ども理解
予習：教科書第4章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
- 9
授業：保育現場における観察と記録の実際
予習：教科書第5章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
- 10
授業：記録にもとづく保育カンファレンス
予習：教科書第6章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる

11	<p>授業：保育における個と集団における経験と援助</p> <p>予習：教科書第7章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく</p> <p>復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる</p>
12	<p>授業：特別なニーズの理解と援助</p> <p>予習：教科書第8章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく</p> <p>復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる</p>
13	<p>授業：保育における「保護者」理解</p> <p>予習：教科書第9章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく</p> <p>復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる</p>
14	<p>授業：「子ども理解」のための共同体とは</p> <p>予習：教科書第10章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく</p> <p>復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる</p>
15	<p>授業：子どもの理解と援助に関する今後の課題</p> <p>予習：これまでの授業内容を振り返る</p> <p>復習：配布資料や教科書の内容を整理し、学びを振り返る</p>

テキスト・教材	高嶋景子、砂上史子編著『新しい保育講座3 子ども理解と援助』ミネルヴァ書房 適宜プリントを配布する。
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） 青木久子、間藤侑、河邊貴子著『子ども理解とカウンセリングマインドー保育臨床の視点からー』明文書林

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○○○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○○
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	○○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	
課題のフィードバック	授業内における質問や課題については、適宜授業内で講評を行う。課題提出物については、確認後評価し、返却を行う。
評価の基準と方法	レポート課題(60%)、授業内課題(30%)、学習態度等(10%)
関連科目	保育の心理学、子ども家庭支援の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養
その他	自己中心的な行動は慎み、積極的に授業に参加して欲しいと考えます。協同のもとに授業を運営していきましょう。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	子どものからだと保健		科目分類	B49 両-1
担当教員	木下 茂昭		授業区分	講義
研究室	16-304	オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	
授業のテーマ・内容	子ども一人ひとりの発育・発達には個人差がみられるものである。その個人差を理解するためにも、子どもの身体・生理機能・運動機能及び精神機能などの発育・発達を理解し、健康増進を図る保健活動は重要となる。また、子どもの健康状態を把握するためにも、子どもが罹患する感染症や疾病とその予防法、ケガの処置の仕方について理解しておくことも、保育現場では必要になってくる。そこで、本講義では子どもの発育・発達、子どもの疾病、園での保健・衛生管理・健康状態の把握などについて理解していくことを目的としている。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの身体・生理機能・運動機能及び精神機能などの発育・発達を理解し、子ども一人ひとりの健康管理ができる。 2 子どもが罹患する感染症や疾病とその予防法、ケガの処置の仕方について理解し、実践でき、保護者と協力し子どもの健康の管理・増進ができる。 			
授業開始前学習	自己の予防接種歴や既往症、その他の健康情報、疾病情報を調べる。			
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)				
<p>1 授業：生命の保持と子どもの保健の意義と保健活動 予習：人体の構造、人の成長、保育所・幼稚園・認定こども園の機能について調べる 復習：受精、成長、健康の概念、地域保健活動についてまとめる</p> <p>2 授業：人体について（1）（骨格・骨格筋・消化器） 予習：人の骨格、筋肉、消化器の種類について調べる 復習：骨格、筋肉の働き、消化器の種類についてまとめる</p> <p>3 授業：人体について（2）（呼吸器・循環器・血液） 予習：消化、呼吸器、血液の機能について調べる 復習：消化・呼吸器、血液についてまとめる</p> <p>4 授業：人の発育・発達（1）（遺伝・出生・身体の変化） 予習：遺伝、血液型、乳幼児期の子どもの身体の変化について調べる 復習：遺伝、血液型、乳幼児期の子どもの身体の変化についてまとめる</p> <p>5 授業：人の発育・発達（2）（身体の変化） 予習：体重、身長などの発達曲線について調べる 復習：脳の働き、発育指数についてまとめる</p> <p>6 授業：生理機能の発達（1）（体温・呼吸・循環） 予習：体温測定、呼吸数測定の方法について調べる 復習：体温、呼吸、循環の変化についてまとめる</p> <p>7 授業：生理機能の発達（2）（消化・尿・睡眠） 予習：消化器、泌尿器、睡眠について調べる 復習：栄養、睡眠についてまとめる</p> <p>8 授業：運動機能の発達（1）（手・足の運動、体力） 予習：乳幼児期の子どもの手・足の動きの発達について調べる 復習：子どもの発達と遊びや運動との関連性についてまとめる</p> <p>9 授業：子どもの精神保健 予習：子どもの精神活動について調べる 復習：家庭、保育現場での精神保健についてまとめる</p> <p>10 授業：小児の主な疾病と予防法（1）乳幼児の疾病 予習：感染症について調べる 復習：法定伝染病についてまとめる</p>				

11	<p>授業：小児の主な疾病と予防法（2） 予防接種と免疫 予習：予防接種について調べる 復習：予防接種、抗原抗体反応、免疫についてまとめる</p>
12	<p>授業：応急処置（1）ケガの処置法 予習：乳幼児期の子どものケガについて調べる 復習：ケガなどの処置の方法についてまとめる</p>
13	<p>授業：応急処置（2）（心肺蘇生講義） 予習：心肺蘇生法の種類について調べる 復習：A E Dを用いた心肺蘇生法についてまとめる</p>
14	<p>授業：応急処置（3）（心肺蘇生実技） 予習：A E Dを用いた心肺蘇生法について調べる 復習：A E Dを用いた心肺蘇生法についてまとめる</p>
15	<p>授業：集団保育における健康（グループワーク） 予習：保育現場における感染症やアレルギーについて調べる 復習：保育現場における衛生管理についてまとめる</p>

テキスト・教材	授業内で適宜紹介する
参考書	福本陽平他『病気がみえる（1～15）』（メディックメディア） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、授業中適宜紹介する

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1	学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2	保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3	様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4	物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇
a5	現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇
a6	状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1	物事をこころに深く感じることができる	〇〇
b2	子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇〇
b3	子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇
b4	自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1	「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇
c2	子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇
c3	子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇
c4	子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇
c5	子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1	社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇
d2	積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3	信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4	他者と協働して物事を進めることができる	〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	乳児の栄養について、レポートを課す（授業内で、講評する）。
評価の基準と方法	レポート（10%）、試験（90%）
関連科目	子どもの健康と安全
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	子どもの健康と安全	科目分類	B49 保-1 (J)
担当教員	佐川 八千代	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本であり、一人一人の子どもが健康に安全に過ごせる環境作りや衛生管理並びに安全管理が求められている。</p> <p>本授業では、保健的観点から踏まえた保育環境及び子どもの健康管理・安全管理を学び、子どもの体調不良や事故が発生した場合に、適切な保健的対応や応急手当・救急処置が実践できる、基礎的知識や技術を授業で習得する。</p> <p>また、授業では、保健指導ではグループ発表、救急処置の演習子どもの養護演習ではロールプレイを行う。</p>		
到達目標	<p>本授業の到達目標として、以下の4点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育環境における衛生管理・安全管理の方法を、具体的に理解する。 2 子どもの健康状態を把握し、体調不良等の症状に応じた適切な保健的対応ができる。 3 感染症予防を理解し、感染症対策について具体的な対応ができる。 4 保育における事故防止と事故発生時の対応を学び、応急処置・緊急時の救急処置ができる。 		
授業開始前学習	<p>乳幼児の発育・発達、流行している疾病などについて書物や新聞などで情報を得ておく。</p> <p>自分の母子手帳の内容を確認しておく。</p>		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1

授業： 望ましい保育環境と安全対策①：室内外の保育環境・衛生管理・安全対策（テキスト P11-P40）

予習： 子どもを守るためには、どのような保育環境が望ましいのか調べる。

復習： 望ましい保育環境・衛生管理・安全対策をノートにまとめる。
- 2

授業： 望ましい保育環境と安全対策②：危機管理・災害への備え・午睡時の安全対策（テキスト P41-P51 P198-P201）

予習： SIDS について調べる

復習： 危機管理・災害への備え・午睡時の安全対策をノートにまとめる
- 3

授業： 子どもの健康観察と健康管理（テキスト P149-P180）

予習： 自分の体温・脈拍（1 分間）・呼吸（1 分間）を測定する

復習： 子どもの健康観察のポイントと、健康管理をノートにまとめる
- 4

授業： 子どもの体調不良などへの対応①：発熱・下痢・嘔吐・咳など（テキスト P52-P61）

予習： 自分自身や家族が発熱・下痢・嘔吐・咳などの体調不良時、どのような手当をしたかまとめる

復習： 発熱・下痢・嘔吐・咳などの体調不良時の対応をノートにまとめる
- 5

授業： 子どもの体調不良などへの対応②：発疹・腹痛・けいれん・脱水 など（テキスト P62-P77）

予習： 自分自身や家族が発疹・腹痛などの体調不良時、どのように手当をしたかまとめる

復習： 発疹・腹痛・けいれん・脱水などの体調不良時の対応をノートにまとめる
- 6

授業： 感染症の予防と感染症対策（テキスト P119-P148）

予習： 自分の母子手帳を参考にワークシート③を作成する

復習： 感染症の予防と感染症対策をまとめ、ワークシート③を完成させ提出する
- 7

授業： 個別配慮を必要とする子どもへの対応①：食物アレルギー・アナフィラキシーの対応とエビペン演習（P214-P222）

予習： 食物アレルギーを起こす食品を調べる

復習： 子どもの食物アレルギー児の対応についてノートにまとめる
- 8

授業： 個別配慮を必要とする子どもへの対応②：気管支喘息・アトピー性皮膚炎などの対応（テキスト P223-P227）

予習： 気管支喘息やアトピー性皮膚炎を起こす原因を調べる

復習： 気管支喘息の発作時の対応をノートにまとめる
- 9

授業： 保育における応急手当と救急処置（テキスト P83-P101）

予習： 自分自身や家族がケガをした時の対応を、思い出しまとめる

復習： 応急手当と救急処置及び保護者対応をノートにまとめる
- 10

授業： 保育における応急手当と救急処置の演習：包帯法・救急処置（ロールプレイ）

予習： テキストの P102-P118 を読み、包帯法・救急処置について調べる

復習： 応急手当と救急処置のポイントをノートにまとめる

11	授業：子どもの養護と教育①：抱き方・背負い方・災害時の背負い方など（ロールプレイ） 予習：テキスト P6-P10 を読み、抱き方・背負い方を調べる 復習：抱き方・背負い方についてまとめ「演習のまとめ」を提出する
12	授業：子どもの養護と教育②：おむつ・服の着せ方（ロールプレイ） 予習：テキスト P182-P189 を読み、おむつ・服の着せ方を調べる 復習：おむつ・服の着せ方についてまとめ「演習のまとめ」を提出する
13	授業：子どもの養護と教育③：沐浴（ロールプレイ） 予習：テキスト P190-P193 を読み、沐浴について調べる 復習：沐浴についてまとめ「演習のまとめ」を提出する
14	授業：子どもの保健活動計画（テキスト P247-P248 P121-P122 P194-P197） 予習：テキスト P247-P248 を読み、保健活動計画を調べる 復習：保健活動計画についてノートにまとめる
15	授業：子どもの保健活動計画の演習：手洗い指導・歯みがき指導など（グループ発表） 予習：子どもに伝えたい健康教育を調べる 復習：子どもの健康活動計画のポイントをノートにまとめる

テキスト・教材	鈴木美枝子編著『これだけはおさえて！保育者のための・こどもの健康と安全』（創成社）
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成 23 年 3 月、厚生労働省）、「保育所における感染症対策ガイドライン」（2018 年改訂版）、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成 28 年 3 月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
--------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇
c3 子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	ワークシートの作成を課題と課す授業がある。(コメントし学生に返却する) 演習終了後は演習レポートの提出を課す。(演習内で、適宜、講評する)
評価の基準と方法	試験 60% 提出課題 40%
関連科目	子どものからだと保健Ⅰ・Ⅱ、生活
その他	授業中の私語、携帯電話の使用は禁じる。 実習室入室時は、手洗いをし、マスク・頭髪をまとめ・エプロンを使用する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	病院看護師・保育園看護師
実務経験を活かした教育内容	保育現場での具体的な事例や実践を取り入れ、子どもの健康や安全を守るための、適切な保健的対応や応急手当・緊急処置が実践出来る様に授業を展開していく

科目名称	子どもの食と栄養 I	科目分類	B49 保-1
担当教員	宮寺 里香	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基本となる。また、この時期の栄養は子どもの健やかな心身の発達に欠かすことのできないものである。そのため保育者自身もその重要性を十分に理解する必要がある。</p> <p>本講座では正しい栄養の知識と乳幼児期の哺乳と摂食機能の発達、またその発達に応じた食事の摂取方法をその特徴及び問題点を含めて学ぶ。</p>		
到達目標	<p>1 子どもの『食べる力』の基礎について理解し適用することができる</p> <p>2 小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康な生活の基礎であることを理解する</p> <p>3 望ましい食生活や食文化を伝えることができるようになる</p>		
授業開始前学習	<p>「子どもの保健」の領域から子どもの成長・発育の過程を確認する。</p> <p>「食物」と「栄養」に関係のある書物や記事など見つけて目を通し、子どもの食生活について考える。</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>1</p> <p>授業：授業説明、導入プリント</p> <p>予習：食物と栄養に関係のある書物や記事を1つ取り上げ、ノートにまとめる</p> <p>復習：配布プリントを見直し、分からない箇所に印をつけておく</p> <p>2</p> <p>授業：離乳期の食生活と栄養</p> <p> 離乳の定義と必要性</p> <p> 食べる機能の発達（咀嚼、嚥下）</p> <p> 離乳の開始、5～6ヵ月</p> <p>予習：テキスト p.89～p.90 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習：配布プリントを見直し、分からない箇所に印をつけておく</p> <p>3</p> <p>授業：7～8ヵ月、9～11ヵ月、12～18ヵ月、離乳の完了</p> <p>予習：予習：テキスト p.91～p.97 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習：配布プリントに7～8ヵ月頃、9～11ヵ月頃、12～18ヵ月頃の食生活と栄養、離乳の完了についてまとめる</p> <p> 「子どもの日」とその行事食について調べる（課題）</p> <p>4</p> <p>授業：「こどもの日の行事食」についてグループディスカッション</p> <p> 離乳食作りと与え方、ベビーフード</p> <p>予習：テキスト p.98～p.103 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習：配布プリントに12～18ヵ月頃の食生活と栄養、離乳食の実際についてまとめる</p> <p>5</p> <p>授業：幼児期の食生活（前期、後期）</p> <p>予習：テキスト p.110～p.111、p.116～118 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習：配布プリントに幼児期の食生活の特徴についてまとめる</p> <p>6</p> <p>授業：幼児期の食事上の問題</p> <p>予習：テキスト p.112～p.115 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習：配布プリントに幼児期の食事上の問題についてまとめ対応策を考える</p> <p>7</p> <p>授業：保育所給食</p> <p>予習：テキスト p.123～p.125、p.129 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習：配布プリントに保育所給食の意義と留意点についてまとめる</p> <p>8</p> <p>授業：特別な配慮を要する子どもの食事と栄養</p> <p> アレルギーへの対応</p> <p>予習：テキスト p.172～186 を読み、疑問点をまとめる</p> <p>復習：配布プリントにアレルギーについてまとめる</p> <p>9</p> <p>授業：幼稚園での食にまつわる出来事について情報交換</p> <p>予習：実習中の出来事について振り返る</p> <p>復習：情報交換した内容をまとめる</p>			

10	
授業：乳児期の食生活と栄養 食べる機能（哺乳） 乳汁期の栄養 母乳栄養① 母乳分泌の仕組み 予習：テキスト p.36～p.37、p.71～75 を読み、疑問点をまとめる 復習：配布プリントに乳児の哺乳反射、母乳分泌の仕組みについてまとめる	
11	
授業：乳児期の食生活と栄養 乳汁期の栄養 母乳栄養② 母乳の成分、母乳の利点、問題点 予習：テキスト p.75～p.81 を読み、疑問点をまとめる 復習：配布プリントに母乳の成分、利点、問題点についてまとめる	
12	
授業：乳児期の食生活と栄養 乳汁期の栄養 人工栄養 予習：テキスト p.82～p.86 を読み、疑問点をまとめる 復習：配布プリントに粉ミルクの成分、種類、液体ミルクについてまとめる	
13	
授業：乳児期の食生活と栄養 乳汁期の栄養 混合栄養、調乳 予習：テキスト p.87～89 を読み、疑問点をまとめる 復習：配布プリントに混合栄養の方法、調乳についてまとめる	
14	
授業：消化と吸収 予習：テキスト p.45 を読み、疑問点をまとめる 復習：消化と吸収について、子どもに伝える分かりやすい方法を考え、リアクションペーパーにまとめる	
15	
授業：乳児期、幼児期の食生活と栄養についての確認 予習：課題プリントを解く 復習：課題プリント、これまでの教科書を見直し、分からない箇所は調べる	
テキスト・教材	岩田章子・寺嶋昌代編『新・子どもの食と栄養』（株式会社みらい）
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） その他、授業の中で紹介する
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇
c4 子どもが遊び出したくなるように促すことができる	〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇

D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○○
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	○○
課題のフィードバック	「こどもの日」とその行事食について課題を課す。授業内において、講評する。
評価の基準と方法	試験（70%） 課題・リアクションペーパー（30%）
関連科目	子どもの食と栄養Ⅱ、子どものからだと保健Ⅰ、乳児保育Ⅰ
その他	毎回配布の記入プリントは整理していつでも提出できるようにしておく。 課題は提出期限を守ること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	子どもの食と栄養Ⅱ	科目分類	B49 保-2
担当教員	宮寺 里香	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基本となる。また、この時期の栄養は子どもの健やかな心身の発達に欠かすことのできないものである。そのため保育者自身もその重要性を十分に理解する必要がある。</p> <p>本講座では「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ乳児期・離乳期・幼児期の食生活と食育の実践について学修する。また、栄養と食品に関する基礎的知識について学び、望ましい食生活とはどうあるべきか考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ内容を使い食育を行う実践力を身につける 2 授乳期・離乳期、幼児期の食生活を理解し保護者の支援ができるようになる 3 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解し適用することができる 4 栄養、食品に関する基礎知識を身につけ、健全な食生活とはどうあるべきか述べることができる 		
授業開始前学習	「食物」と「栄養」に関係のある書物や記事を見つけて目を通し、好ましい食生活について考える。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業: 朝食
予習: テキスト p.19～p.21 を読み、疑問点をまとめる
復習: 普段の朝食を振り返り、好ましい朝食メニューを考えてみる
課題: 1 週間の食事記録をつける
- 2
授業: 乳汁栄養(母乳、ミルク)の成分
予習: テキスト p.77～81、p.86～88 を読み、疑問点をまとめる
復習: 調乳実習に備えて手順などを整理する
- 3
授業: 調乳(調理実習・グループワーク)
予習: テキスト p.90 を読み、イメージトレーニングしておく
復習: ミルクの違い、気付いたこと等レポートにまとめる
- 4
授業: 離乳食のすすめ方 離乳期の DVD を鑑賞し離乳食について理解を深める
予習: 「子どもの食と栄養Ⅰ」離乳期の食事のプリントを見直し、発達の流れを整理しておく
復習: 離乳食実習に備えて手順などを整理する
- 5
授業: 離乳食 米粥(調理実習・グループワーク)
予習: テキスト p.104～p.105 を読む
復習: 咀嚼発達による離乳食の変化についてレポートにまとめる
- 6
授業: 取り分け離乳食(調理実習・グループワーク)
予習: テキスト p.104～p.105 を読む
復習: 大人の食事からつくる離乳食についてレポートにまとめる
- 7
授業: 望ましい食事
予習: テキスト p.209～216 を読み、疑問点をまとめる
復習: 以前行った 1 週間食事記録にて食生活を見直す
- 8
授業: 食育 1 食育の基本
予習: テキスト p.216～230 を読み、疑問点をまとめる
復習: 配布したプリントに食育についてまとめる
- 9
授業: 食育 2 食育の実践
予習: 校外実習で体験した給食や食育活動についてまとめる
復習: 他学生の体験談を聞いて、食育の実践についてまとめる
- 10
授業: 幼児期の食事(調理実習・グループワーク)
予習: テキスト p.119～121 を読み、疑問点をまとめる
復習: 間食についてレポートにまとめる

11	授業：食品添加物、輸入食品 予習：テキスト p.23～p.25 を読み、疑問点をまとめる 復習：身近な食品の添加物について調べる
12	授業：行事食 クリスマスケーキ（調理実習・グループワーク） 予習：子どもと一緒に楽しめる行事食について調べる 復習：調理実習レポートにまとめる
13	授業：伝統食 雑煮（調理実習・グループワーク） 予習：日本各地の雑煮について調べる 復習：雑煮実習レポートについてまとめる
14	授業：行事食、食材の旬 予習：テキスト p.130 を読み、疑問点をまとめる 復習：年間の行事食を調べる
15	授業：障がいを持った子どもの食生活 予習：テキスト p.170～177 を読み、疑問点をまとめる 復習：障害を持った子どもの食生活の特徴をまとめる

テキスト・教材	岩田章子・寺嶋昌代 編 『新版子どもの食と栄養』（株式会社みらい）
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、小川雄二『保育園・幼稚園ですすめる食育の理論と実践』（芽ばえ社） その他、授業の中で紹介

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる		〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇〇〇
c3 子どものところが動くような環境（体験）を用意することができる		〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる		〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる		〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる		〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる		〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる		〇〇〇

d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる		〇〇〇
課題のフィードバック	1 週間食事記録、実習（調乳、離乳食、間食、行事食、伝統食）後レポート、食品添加物について課題を課す（次授業内にて講評する）。	
評価の基準と方法	課題提出（70%）、リアクションペーパー・グループ調理実習の取組姿勢（30%）	
関連科目	子どもの食と栄養Ⅰ、子どものからだと保健Ⅱ、乳児保育Ⅱ	
その他	課題は提出期限を守る事。	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間	
実務経験の有無		
実務経験の内容		
実務経験を活かした教育内容		

科目名称	子ども家庭支援論	科目分類	B36 保-2 (J)
担当教員	上出 香波	授業区分	講義
研究室	16-311	オフィスアワー	前期 火曜日 12:30～14:30 水曜日 14:40～15:40 後期 木曜日 11:30～14:30
授業のテーマ・内容	<p>少子高齢化や核家族化が進み、地域社会とのつながりが希薄になるなど、社会の変化とともに家庭のあり方も変化している。その中で子育て家庭も多様化していることにより、子どもとその保護者は様々な問題も抱えている。現代社会における子育て家庭の現状と課題を把握し、家庭支援の必要性や目的、支援のあり方について、事例検討等も含めた学びから理解を目指す。また、保育者としての具体的な支援方法等についても学び、実践力を養う。</p>		
到達目標	<p>1 子ども家庭支援の意義と役割とともに保育士として専門性に基づく支援の意義と基本について理解できるようになる 2 子育て家庭を取り巻く社会状況や支援体制について説明することができるようになる 3 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と現状における課題について理解できるようになる</p>		
授業開始前学習	<p>子育て支援施策、子どもと家族、家庭の問題、地域の取り組みに関連する新聞記事やニュース情報に日頃より関心を持ち、トピックス等について自ら調べ内容を確認しておくこと</p>		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業：ガイダンス「家庭」とは、
 予習：テキスト（第1章 p.12～13）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、子どもの育ちと家庭について整理し、ノートにまとめる
- 2
 授業：子ども家庭支援の意義と必要性
 予習：テキスト（第1章 p.13～23）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、家庭の子育ての状況について整理し、ノートにまとめる
- 3
 授業：子ども家庭支援の目的と機能
 予習：テキスト（第2章 p.24～36）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、保育所保育指針にみる子ども家庭について整理し、ノートにまとめる
- 4
 授業：保育士による子ども家庭支援①－保育の専門性と子ども家庭支援－（グループワーク）
 予習：テキスト（第3章 p.38～49）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、子ども家庭支援における保育士の役割について整理し、ノートにまとめる
- 5
 授業：保育士による子ども家庭支援②－保護者と子どもの育ちの共有と相互理解－
 予習：テキスト（第4章 p.50～61）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、保護者と子どもの育ちを共有する意義について整理し、ノートにまとめる
- 6
 授業：保育士による子ども家庭支援③－支援に求められる基本的態度－
 予習：テキスト（第5章 p.72～81）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、保育士と保護者の信頼関係構築について整理し、ノートにまとめる
- 7
 授業：保育士による子ども家庭支援④－子ども発達、家庭の状況に応じた支援－
 予習：テキスト（第7章 p.82～91）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、子どもの発達段階別家庭の状況について整理し、ノートにまとめる
- 8
 授業：子育て家庭に対する支援体制①－フォーマル・インフォーマルな社会資源－
 予習：テキスト（第9章 p.104～113）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、社会資源について整理し、ノートにまとめる
- 9
 授業：子育て家庭に対する支援体制②－子育て支援施策の現状と推進－（グループワーク）
 予習：テキスト（第10章 p.114～124）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、子ども・子育て支援制度と支援事業について整理し、ノートにまとめる
- 10
 授業：多様な支援の展開①－保育所等を利用する子育て家庭の支援－（グループワーク）
 予習：テキスト（第12章 p.136～145）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、保育所等における家庭支援について整理し、ノートにまとめる
- 11
 授業：多様な支援の展開②－地域の子育て家庭に対する支援－（グループワーク）

予習：テキスト（第 13 章 p.146～155）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、地域の子育て支援事業について整理し、ノートにまとめる

12
 授業：特別な配慮が必要な子どもと家族への対応①障がいをもつ子ども(グループワーク)
 予習：テキスト（第 14 章 p.166～167）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、障がいをもつ子どもを養育する家庭と保育士の支援について整理し、ノートにまとめる

13
 授業：特別な配慮が必要な子どもと家族への対応②医療的ケア児
 予習：医療的ケア児について、文献やインターネットで調べ、確認しておく
 復習：授業内容を振り返り、医療的ケア児を養育する家庭と保育士の支援について整理し、ノートにまとめる

14
 授業：子ども虐待への予防と支援・要保護児童等の家庭に対する支援(グループワーク)
 予習：テキスト（p.156～165）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返り、子どもの虐待、要保護児童等の必要な家庭への支援について整理し、ノートにまとめる

15
 授業：まとめ（子ども家庭支援における現状と課題）
 予習：テキスト（第 15 章 p.168～179）や配布資料、記入したノートの内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
 復習：授業内容を振り返りについて整理し、ノートにまとめる

テキスト・教材	守巧 編著『子ども家庭支援論 保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす』明文書林
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 その他、必要に応じて授業内において適時提示する"

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる		
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる		〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる		〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる		〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる		〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる		〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる		〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる		〇〇

課題のフィードバック	提示した課題ワークやグループ発表等については、授業内で適時講評をおこなう
評価の基準と方法	課題レポート（50%）、授業への取り組み〔課題ワーク提出、小テスト、グループワークなどにおける参加度〕（50%）
関連科目	子ども家庭福祉、子育て支援、社会福祉
その他	グループディスカッションや発表を多くおこなう授業である。各学生が積極的に意見を述べ、授業の内容を発展させていくことを望む
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	小児医療や児童発達支援の臨床現場における保育経験を活かし、実際の子どもの保育および家族の相談支援における実践事例の内容も含め、子ども家庭支援の理解および実践力に繋がる授業をおこなう

科目名称	教育相談	科目分類	B14 両-2 (J)
担当教員	田口 禎子	授業区分	講義
研究室	16-307	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10
授業のテーマ・内容	子どもの発達臨床や保護者支援について専門的知識をもち、多面的で柔軟的な対応を行うことは保育者として重要である。本授業では、臨床心理学の基礎理論と保育・教育相談の原理や意義と役割を学び、子どものさまざまな行動に対するアセスメント方法や対象理解の具体的方法について実践的に学んでいく。		
到達目標	1 子どもや保護者の臨床的問題を知り、相談や支援方法の基礎理論について理解できるようになる 2 乳幼児期の問題行動につながる発達の要因や背景を理解し、考えられる援助方法について理論をもって具体的に説明できるようになる 3 カウンセリングマインドの姿勢が重要であると理解し、臨床に必要な基本的スキルを修得する		
授業開始前学習	相手の心を理解するにはどのような視点をもつといいのか。誰かと会話をするとき、人から相談を受けるときなど、さまざまな場面で考えてみてください。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1

授業：ガイダンス(授業目的、到達目標、成績評価方法)、教育相談とは

予習：シラバスをよく読み、授業目的と到達目標を理解する

復習：ノートと配布資料 1 を整理し、理解できなかった内容を確認する

2

授業：園・学校における連携と協働

予習：園と学校における連携と協働に関する配布資料を読み、疑問点について自分なりに調べてノートにまとめる

復習：ノートと配布資料 2 を整理し、理解できなかった内容を確認する

3

授業：子どもの心と行動の理解①児童虐待への理解と対応

予習：児童虐待について調べ、疑問点をノートにまとめる

復習：ノートと配布資料 3 を整理し、理解できなかった内容を確認する

4

授業：子どもの心と行動の理解②不登校(園)の子どもへの理解と対応

予習：不登校(園)について調べ、疑問点をノートにまとめる

復習：ノートと配布資料 4 を整理し、理解できなかった内容を確認する

5

授業：子どもの心と行動の理解③いじめの被害者・加害者への理解と対応

予習：いじめについて調べ、疑問点をノートにまとめる

復習：ノートと配布資料 5 を整理し、理解できなかった内容を確認する

6

授業：子どもの心と行動の理解④危機介入と心のケア

予習：災害時の子どもの心のケアについて調べ、疑問点をノートにまとめる

復習：ノートと配布資料 6 を整理し、理解できなかった内容を確認する

7

授業：子どもの心と行動の理解⑤非行問題への理解と対応

予習：非行について調べ、疑問点をノートにまとめる

復習：ノートと配布資料 7 を整理し、理解できなかった内容を確認する

8

授業：カウンセリングの基礎理論と技法①カウンセリングの基本を学ぶ(グループワーク)

予習：カウンセリングについて調べ、疑問点について自分なりに調べてノートにまとめる

復習：ノートと配布資料 8 を整理し、理解できなかった内容を確認する

9

授業：カウンセリングの基礎理論と技法②カウンセリング演習(ロールプレイング)

予習：前回学んだカウンセリングの技法についてノート、配布資料を確認する

復習：ノートと配布資料 9 を整理し、理解できなかった内容を確認する

10

授業：乳幼児期、児童期・思春期の発達とアセスメント

予習：乳幼児期・児童期・思春期の発達に関する配布資料を読み、疑問点について自分なりに調べてノートにまとめる

復習：ノートと配布資料 10 を整理し、理解できなかった内容を確認する

11	授業：心理療法①認知行動療法など 予習：保護者に対する心理的支援について調べ、疑問点をノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 11 を整理し、理解できなかった内容を確認する
12	授業：心理療法②グループセラピーなど 予習：保護者に対する心理的支援について調べ、疑問点をノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 12 を整理し、理解できなかった内容を確認する
13	授業：保育者と教師のメンタルヘルス 予習：保育者や教師のメンタルヘルスについて調べ、疑問点をノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 13 を整理し、理解できなかった内容を確認する
14	授業：保育・教育現場で役立つワーク 予習：臨床心理学におけるグループワークについて調べ、疑問点をノートにまとめる 復習：ノートと配布資料 14 を整理し、理解できなかった内容を確認する
15	授業：保育における臨床心理学の意義 予習：前回の授業内で提示した課題について、ノートに考えをまとめる 復習：これまでのノートや資料を整理しながら学びを振り返る

テキスト・教材	適宜、授業内にてプリントを配布する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
--------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇
c3 子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	
課題のフィードバック	提示した課題は、適宜、授業内で講評を行う。
評価の基準と方法	授業内で行う課題(30%), レポート(50%), 提出物(20%)
関連科目	特別支援教育、保育の心理学、子ども家庭支援の心理学
その他	グループワークなど主体的活動場面では、自分の考えや思いを自由に表現してほしいと思います。また、わからないことは授業内で積極的に発言して構いません。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	臨床心理士、公認心理師
実務経験を活かした教育内容	臨床心理士として学校や医療機関で勤務してきた経験から、具体的な事例や実践を示して子どもの心理的な問題とそのケアについての理解を促す授業を展開する。

科目名称	保育・教育課程論	科目分類	B37 両-2
担当教員	古屋 真	授業区分	講義
研究室	16-313	オフィスアワー	前期 金曜日 12:10～16:10 後期 金曜日 12:10～16:10
授業のテーマ・内容	<p>乳幼児期の保育は、5 領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）や養護の観点から、子どもの姿に応じて総合的に展開しなければならない。特に、子どもの成長や発達を見通し、計画的に保育を展開することは、子どもの育ちを保障する上で重要である。</p> <p>本授業では、保育実践の骨子となる保育・教育課程の意義や目的、これまでの変遷や編成の原理を学び、実際に、指導計画や保育・教育課程を作成する（グループワーク）。また、計画に基づく保育実践後の振り返りの重要性も踏まえ、保育記録（要録も含む）や評価の在り方についても学修する。</p>		
到達目標	<p>本授業の到達目標として、以下の4点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保育・教育課程の意義や目的を理解する。 2.保育・教育課程の変遷や編成の原理を理解した上で、基礎的なカリキュラム編成ができる。 3.子どもの姿に応じた指導計画（日案）を作成することができる。 4.計画に基づく保育実践の重要性を理解し、保育の評価・改善を考えることができる。 		
授業開始前学習	<p>幼稚園・保育所・認定こども園などにおける保育・教育課程や指導計画（年間計画、期の計画、月の計画、週の計画、日の計画）について調べる。</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>1</p> <p>授業：保育・教育課程の意義と目的を学ぶ 予習：これまでの経験から、計画した場合としなかった場合の事例を挙げ、そのメリットとデメリットをノートに書き出す 復習：保育・教育課程の意義と目的をノートにまとめる</p> <p>2</p> <p>授業：保育・教育課程の変遷①：日本におけるカリキュラムの変遷を学ぶ 予習：日本の教育・保育目標の変遷をまとめた配付プリントを要約し、疑問点をノートに書き出す 復習：現在までの教育目標の変遷と「生きる力」や「21世紀型能力」の意味をノートにまとめる</p> <p>3</p> <p>授業：保育・教育課程の変遷②：幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容の変遷を学ぶ 予習：保育内容の変遷をまとめた配付プリントを要約し、疑問点をノートに書き出す 復習：幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の誕生と保育内容の変遷をノートにまとめる</p> <p>4</p> <p>授業：保育・教育課程の編成の原理①：カリキュラムの種類と編成の基本要件を学ぶ 予習：カリキュラムの類型と基本要件をまとめた配付プリントを要約し、疑問点をノートに書き出す 復習：カリキュラムの類型と基本要件（子どもの実態・家庭や地域の実情を踏まえた計画）をノートにまとめる</p> <p>5</p> <p>授業：保育・教育課程の編成の原理②：カリキュラムの構成要素と編成手順を学ぶ 予習：東京都就学前教育カリキュラムを読み、その特徴をノートに書き出す 復習：カリキュラムの構成要素（スコープとシーケンスの意味）と編成手順をノートにまとめる</p> <p>6</p> <p>授業：カリキュラムの編成の実際①：カリキュラムの柱となるスコープを考える（グループワーク） 予習：これまでの実習経験から、保育者の願い（育てたい子ども像）と子どもに必要な経験をノートに書き出す 復習：グループ活動で挙げられた保育者の願いの集合体（スコープ）を考え、カリキュラムプリントに書き出す</p> <p>7</p> <p>授業：カリキュラムの編成の実際②：カリキュラムの順序を示すシーケンスを考える（グループワーク） 予習：グループ活動で共有した子どもに必要な経験を、経験するのに適切な年齢ごとに並べ替える 復習：編成されたカリキュラムを振り返る</p> <p>8</p> <p>授業：保育・教育課程（全体的な計画）と保育実践：長期と短期の計画の意味とその関連性を学ぶ 予習：教育実習（幼稚園）の実習園から週の計画プリントを入手する 復習：年間計画・期の計画・月の計画・週の計画・日の計画の意味と関連性をノートにまとめる</p> <p>9</p> <p>授業：指導計画の作成①：指導計画の作成手順と留意事項（テキストP.50-58） 予習：テキスト第5章と幼稚園教育要領第3章を要約し、疑問点をノートに書き出す 復習：指導計画の作成手順と「指導計画の作成に当たった留意事項」をノートにまとめる</p>			

10	<p>授業：指導計画の作成②：保育の一日の流れを踏まえた大まかな計画を考える（テキスト P.9-23）</p> <p>予習：テキスト第 1 章・第 2 章を要約し、疑問点をノートに書き出す</p> <p>復習：幼稚園や保育園、認定こども園の一日の流れをパーツに分解し、主な活動のねらいと内容をノートにまとめる</p>
11	<p>授業：指導計画の作成③：子どもの発達や今の姿に応じた具体的なねらいと内容を考える（テキスト P.38-49）</p> <p>予習：テキスト第 4 章を要約し、疑問点をノートに書き出す</p> <p>復習：事例に応じて考えたねらいと内容を見直す</p>
12	<p>授業：指導計画の作成④：メインの活動の展開と環境構成を考える（テキスト P.59-72）</p> <p>予習：テキスト第 6 章を要約し、疑問点をノートに書き出す</p> <p>復習：必要な経験ができる活動の流れと環境の構成を見直す</p>
13	<p>授業：指導計画の作成⑤：予想される子どもの姿と保育者の援助を考える（テキスト P.73-85）</p> <p>予習：テキスト第 7 章を要約し、疑問点をノートに書き出す</p> <p>復習：活動中の予想される子どもの姿と保育者の援助の連続性を見直す</p>
14	<p>授業：保育の省察と改善：保育記録から実践と計画を評価する方法（カリキュラム・マネジメント）を学ぶ</p> <p>予習：実習時に作成した指導計画（案）を振り返り、実践課題をノートに書き出す</p> <p>復習：作成した保育記録を用いて振り返った実践課題をノートに書き出す</p>
15	<p>授業：子どもの育ちの連続性：乳幼児期の保育・教育の先に続く保育・教育課程を考える</p> <p>予習：幼稚園教育指導要録・保育所児童保育要録・幼保連携型認定こども園園児指導要録を読み、疑問点をノートに書き出す</p> <p>復習：保幼小接続を見据えた保育・教育課程の在り方をノートにまとめる</p>

テキスト・教材	片山紀子編著、荒木美知子・西村美佳著『新版 保育実習・教育実習の設定保育』（朱鷺書房） この他、適宜、授業内にてプリントを配付する
参考書	田中耕治編『よくわかる教育課程』（ミネルヴァ書房） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる		〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる		〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したくなるように促すことができる		〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇〇〇

d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇
課題のフィードバック	・講義毎に授業内課題を実施する（講義内にて、適宜、講評する） ・指導計画（日案）の作成を課す（講義内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	講義毎の小レポート（40%）、指導計画（案）（20%）、定期試験（40%）
関連科目	実習、保育内容系科目、教育方法
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	保育内容総論		科目分類	B37 両-2 (J)
担当教員	綾野 鈴子		授業区分	演習
研究室	16-312	オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 12:10～13:00 木曜日 10:40～13:00	
授業のテーマ・内容	保育現場では 5 領域が相互に絡み合い、一人ひとりの発達や特性に応じた指導が行われ、遊びを通しての総合的な保育が展開されている。本講義では生活、遊び、環境を通して行われる保育実践の全体像を捉え、遊びを中心とした保育内容や総合的に指導する視点について理解を深め、子ども理解に基づいた保育計画が具体的にデザインできるよう学ぶ。			
到達目標	1 保育・幼児教育実践の基本となる理念や理論について理解する 2 保育・幼児教育における 5 領域の内容を理解した上で、それらの総合的な展開について説明することができる 3 子ども理解を深め、乳幼児の自発的な活動の基盤となる環境構成、教材準備、保育者の援助の基本を理解し、養護と教育が一体的に展開する保育を考えることができる			
授業開始前学習	履修済みの保育内容各論を復習する			

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業：保育の基本及び保育の全体構造
 予習：「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」第 1 章総則を読んでおく
 復習：授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む
- 2
 授業：子どもの主体性を尊重する保育（グループワーク）
 予習：テキストの第 7 章 p.80～p.85 を読み、要点・疑問点をまとめる
 復習：授業プリントを振り返り、内容を整理する
- 3
 授業：保育内容の歴史の変遷とその社会的背景
 予習：事前に配布したワークシートに取り組む
 復習：授業プリント、テキストの第 4 章 p.38～p.43 を振り返り、流れを理解する
- 4
 授業：子どもの発達や生活に即した保育内容 ①乳児・3 歳児未満の事例から
 予習：「保育所保育指針」第 2 章を読んでおく
 復習：授業プリントを整理し、ワークシートに取り組む
- 5
 授業：子どもの発達や生活に即した保育内容 ②3 歳児・4 歳児・5 歳児の事例から
 予習：「幼稚園教育要領」第 2 章を読んでおく
 復習：授業プリントを整理し、ワークシートに取り組む
- 6
 授業：養護と教育が一体的に展開される保育
 予習：「保育所保育指針」第 1 章を再読する
 復習：授業プリントを振り返り、内容を整理する
- 7
 授業：環境を通して行う保育
 予習：テキストの第 8 章 p.94～p.97 を読み、要点・疑問点をまとめる
 復習：授業内容を振り返り、要点をまとめる
- 8
 授業：生活や遊びによる総合的な保育 ①乳幼児の遊びの特徴（グループワーク）
 予習：テキストの第 9 章 p.106～p.109 を読んでおく
 復習：授業内容を振り返り、多様な保育の展開についてまとめる
- 9
 授業：生活や遊びによる総合的な保育 ②遊びの中で経験する内容（グループワーク）
 予習：テキストの第 9 章 p.110～p.111 を読んでおく
 復習：授業内容を振り返り、多様な保育の展開についてまとめる
- 10
 授業：個と集団の発達をふまえた保育
 予習：テキストの第 10 章 p.118～p.121 を読み、要点・疑問点をまとめる
 復習：授業プリントを整理し、ワークシートに取り組む

11	授業：保育における観察と記録 予習：事前に配布したプリントを読んでおく 復習：授業プリントを整理し、ワークシートに取り組む
12	授業：家庭や地域等との連携をふまえた保育・長時間の保育 予習：テキストの第11章 p.130～p.135を読み、要点・疑問点をまとめる 復習：授業内容を振り返り、要点をまとめる
13	授業：小学校との連携・接続をふまえた保育 予習：「幼稚園教育要領」第1章を再読する 復習：授業内容を振り返り、要点をまとめる
14	授業：特別な配慮を要する子どもの保育 予習：テキストの第14章 p.168～p.173を読み、要点・疑問点をまとめる 復習：授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む
15	授業：多文化共生の保育 予習：テキストの第15章 p.180～p.183を読み、要点・疑問点をまとめる 復習：全体の授業の振り返りと自身の課題を整理する

テキスト・教材	石川昭義編『新保育基本シリーズ14 保育内容総論』（中央法規） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル）
---------	---

参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、授業内で適宜紹介する。
-----	--

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○○○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○○○
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	○○○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○○○
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○○○○

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇
課題のフィードバック	授業で取り組む課題は次の授業冒頭でフィードバックし、提出物は教員が添削し、適宜講評する。
評価の基準と方法	提出課題及びレポート（70%）、グループワークなどにおける参加度、ワーク課題提出（30%）
関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭・保育士
実務経験を活かした教育内容	幼稚園教諭として年少・年中・年長を保育してきた経験から、子ども理解に基づく総合的な保育展開について事例を示し、保育の現場が具体的にイメージできるような授業を行う。

科目名称	子どもと健康	科目分類	B49 両-2 (J)
担当教員	木下 茂昭・佐藤 晶子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>乳幼児期の子どもにとって、遊びや運動は身体的・精神的発達のためには欠かすことのできないものである。また、子どもは遊びを通して、創意工夫・試行錯誤・危機回避などについて学び、意欲的に体を動かし遊ぶ過程の中で満足感や達成感を得る。このように、子どもにとっての遊びや運動は、発育・発達と密接に関係しており、非常に価値のあるものである。</p> <p>そこで、本授業では、子どもの遊びや運動を実践すると共に、安全な遊び方や運動の仕方、環境設定などについて学修し、保育者として実践できるようになることを目的とする。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児期の子ども達にとって、遊びや運動は身体的・精神的発達などのためには欠かすことのできないものであることを理解する 2 遊びを通して、創意工夫・試行・危険回避、成功することによって満足感・達成感を得られることを理解する 3 子ども達の遊びや運動を実践すると共に、安全な遊び方や運動の仕方、補助の仕方などについて学習し、実践できる 		
授業開始前学習			
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>1 授業：乳幼児の健康に関する現代的課題と幼児期運動指針について 予習：健康とは何か語句の意味を調べ、自身の健康の課題について考える 復習：授業プリントを整理し、本授業の流れと目的を明確しておく</p> <p>2 授業：子どもの心身の発達と健康 予習：前回の授業プリントの要点と疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理し、領域「健康」のねらいと内容を理解する</p> <p>3 授業：子どもの運動遊びの意義 予習：前回の授業プリントの要点と疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理する</p> <p>4 授業：運動遊びにおける保育者の関わり・遊び環境と運動遊びの指導（体験学習） 予習：前回の授業プリントの要点と疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理する</p> <p>5 授業：運動遊びの指導計画－立案①子どもの実態とねらい－（グループワーク） 予習：前回の授業プリントの要点と疑問点をまとめる 復習：課題（運動遊びのリスト作成等）に取り組む</p> <p>6 授業：運動遊びの指導計画－立案②保育者の援助・環境設定－（グループワーク） 予習：課題（指導案の作成）に取り組む 復習：グループで実践発表の準備を進める</p> <p>7 授業：運動遊びの指導計画－実践－（模擬保育発表会） 予習：作成した指導案に基づき、模擬保育の練習を行う 復習：模擬保育（指導案）の振り返りをする</p> <p>8 授業：運動遊びの指導計画－振り返りと評価－（グループワーク） 予習：模擬保育（指導案）の反省点を書きだしておく 復習：他者視点の評価をふまえ、指導案の修正を行う</p> <p>9 授業：日常生活における身体活動－動きを引き出す環境の工夫－ 予習：幼稚園（教育実習）における子どもの健康への関わりを書きだしておく 復習：授業プリントを整理する</p> <p>10 授業：小型遊具を用いた運動遊び①－ボール遊び－ 予習：ボール遊びの特性について調べる 復習：ボールの投げ方、蹴り方、ボールを使う遊びの指導法についてまとめる</p>			

11	授業：小型遊具を用いた運動遊び②—器械体操・マット— 予習：保育現場で行われている器械体操について調べる 復習：器械体操（マット）の指導方法についてまとめる
12	授業：大型遊具を用いた運動遊び—器械体操・跳び箱— 予習：保育現場で行われている器械体操について調べる 復習：器械体操（跳び箱）の指導法についてまとめる
13	授業：固定遊具を用いた運動遊び①—鉄棒— 予習：保育現場の園庭の固定遊具の実態について調べる 復習：鉄棒の指導法についてまとめる
14	授業：固定遊具を用いた運動遊び②—水遊び— 予習：着衣泳、水難救助について調べる 復習：着衣泳の指導法、水難救助についてまとめる
15	授業：遊びとしての運動指導の重要性・小学校への接続 予習：前回の授業プリントの要点と疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理する

テキスト・教材	授業内で適宜紹介する。
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、授業内にて適宜紹介する

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	授業内でワークシートを課す。添削した後、返却する。
評価の基準と方法	提出課題 70% 授業への参加度（グループワーク・模擬保育発表会） 30%
関連科目	
その他	子どもの健康に関する事に関心を持ち、新聞記事やニュース等から情報収集しておくこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭 小学校教諭
実務経験を活かした教育内容	幼稚園教諭・小学校教諭の経験を活かし、保育現場と小学校それぞれにおける子どもの「健康」への関わりをイメージできるようにし、幼小接続についての理解の深まりを目指した授業を展開する。

科目名称	子どもと人間関係	科目分類	B37 両-2
担当教員	古屋 真	授業区分	演習
研究室	16-313	オフィスアワー	前期 金曜日 12:10～16:10 後期 金曜日 12:10～16:10
授業のテーマ・内容	<p>本講義では、まず、領域「人間関係」の育ちの中核である「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識」に関して、発達心理学・教育心理学・社会心理学の諸理論を学修する。次に、それらが活用されている実践事例を参考にしながら、保育環境や遊びを構想し、グループ模擬保育を実施する。</p> <p>このような活動を通して、様々な人との関わりが子どもの人と関わる力の獲得を促すことや、その後の人生における資質・能力の獲得に影響を与えることについても理解を深め、長期的な視座をもった保育実践力を身に付けてほしい。</p>		
到達目標	<p>本講義では、乳幼児期の子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての理解を深め、保育の構想に活用する実践力を身に付けることを全体目標とする。</p> <p>具体的な到達目標として、以下の3点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.乳幼児期の子どもを取り巻く人間関係の特徴と子どもの育ちとの関連性を理解する。 2.「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識」に関する諸理論を説明できる。 3.「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識」に関する諸理論を活用した保育環境や遊びを構想することができる。 		
授業開始前学習	<p>下記3点の要領・指針における保育内容「人間関係」の「ねらい及び内容」についてノートに書き出し比較する。</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1	<p>授業：乳幼児期の教育・保育における領域「人間関係」のねらいと内容及び現代的課題</p> <p>予習：3つの要領・指針における保育内容「人間関係」の「ねらい及び内容」を比較できるようにノートに書き出す</p> <p>復習：3つの要領・指針における保育内容「人間関係」の「ねらい及び内容」の共通点・相違点をノートにまとめる</p>		
2	<p>授業：自立心（意欲と達成感）の芽生えと発達に関する理論</p> <p>予習：乳幼児期の子どもが自立している姿をノートに書き出す</p> <p>復習：「愛着」「自己制御機能」「内発的・外発的動機付け」「達成動機」の言葉の意味や理論をノートにまとめる</p>		
3	<p>授業：子どもの自立心を育む保育環境の構想</p> <p>予習：乳幼児期の子どもの1日の生活の流れをノートに書き出す</p> <p>復習：子どもが自発的に生活を進めるために工夫された環境構成をノートにまとめる</p>		
4	<p>授業：社会性・協同性（チームワーク）の芽生えと発達に関する理論</p> <p>予習：乳幼児期の子どもが社会性や協同性を発揮している姿をノートに書き出す</p> <p>復習：遊びの「発達段階」「類型」についてノートにまとめる</p>		
5	<p>授業：子どもの社会性・協同性を育む保育実践（模擬保育）：ソーシャル・スキル・トレーニング</p> <p>予習：乳幼児期の子どもを対象としたソーシャル・スキル・トレーニングの流れをノートに書き出す</p> <p>復習：スキルを発揮する場面と言語・非言語面のポイント、トレーニングの振り返りをノートにまとめる</p>		
6	<p>授業：子どもの道徳性・規範意識の芽生えと発達に関する理論</p> <p>予習：子どもの道徳性や規範意識が発揮されている姿をノートに書き出す</p> <p>復習：「役割取得」「道徳性」の言葉の意味や理論をノートにまとめる</p>		
7	<p>授業：子どもの道徳性・規範意識を育む保育実践（模擬保育）：VLFプログラム</p> <p>予習：保育内容「人間関係」の「ねらい及び内容」に関連する絵本・紙芝居を題材に、模擬保育の流れをノートに書き出す</p> <p>復習：題材にした絵本・紙芝居のあらすじとポイント、模擬保育の振り返りをノートにまとめる</p>		
8	<p>授業：乳幼児期の教育・保育における領域「人間関係」の育ちとその後の資質・能力との関連性</p> <p>予習：就学以降の「自立性」「協同性」「道徳性・規範意識」の発達理論を振り返り、疑問点をノートに書き出す</p> <p>復習：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「21世紀型能力」の言葉の意味や理論をノートにまとめる</p>		
テキスト・教材	適宜、授業内にてプリントを配付する		
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）		

	厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることできる	〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	・講義毎に小レポートを課す（講義内にて、適宜、講評する） ・グループによる模擬保育を実施する（講義内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	講義毎の小レポート（25%）、グループ模擬保育（25%）、定期試験（50%）
関連科目	
その他	本講義は、講義時間 16 時間（2 時間×8 週）＋予習・復習時間 8 時間を 1 単位とする
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 7.5 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	子どもと環境	科目分類	B37 両-2 (J)
担当教員	綾野 鈴子	授業区分	演習
研究室	16-312	オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 12:10～13:00 木曜日 10:40～13:00
授業のテーマ・内容	本授業は領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、保育・教育内容に関する知識・技能を身に付ける。特に領域「環境」の基盤となる、現代の子どもを取り巻く環境とその現代的課題、子どもと身近な環境との関わりの発達等について学ぶ。また、子どもが周囲の環境に関り、遊びを展開するために必要な援助について考える。		
到達目標	1 子どもを取り巻く環境と、子どもの発達における環境の重要性や意義を理解する 2 子どもの生物や自然との関わり、数量、図形との関わりの実際を知り、子どもの興味・関心、理解の発達を説明できる 3 保育者として、子どもが周囲の環境との関りを深められるよう、具体的な援助について理解する		
授業開始前学習	自分の周囲にある環境について考える。幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説の領域「環境」に目を通す。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業 : 保育内容の基本的構造と領域「環境」のねらい、内容について
 予習 : 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説の領域「環境」に目を通す
 復習 : 授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む
- 2
 授業 : 乳幼児期の発達における環境との関わり
 ・乳幼児期にふさわしい環境構成の実際について
 予習 : 幼少期に通っていた幼稚園や保育所の保育室や園庭の環境について思い起こし、ワークシートに取り組む
 復習 : 乳幼児期にふさわしい環境構成についてまとめる
- 3
 授業 : 自然環境と関わる保育の実際とその展開 1 (グループワーク)
 ・学内の自然環境を利用し、体験的に学ぶ
 予習 : 事前に配布したワークシートに取り組む
 復習 : 活動を振り返り、体験したことや感じたことをまとめる
- 4
 授業 : 自然環境と関わる保育の実際とその展開 2
 ・自然物を使った遊び
 予習 : 自然物を使った遊びについて調べる
 復習 : これまでの授業を振り返り、興味を持った内容について発表できるように準備する
- 5
 授業 : 自然環境と関わる保育の実際とその展開 3 (グループワーク)
 ・自分の興味のある内容を紹介カードにまとめ発表する
 予習 : 紹介カードの作成と発表準備
 復習 : 他者の発表を聞いた感想をまとめる
- 6
 授業 : 身近な素材を用いた保育の実際
 ・多様な素材について知る
 予習 : 身近な物、廃材 (牛乳パック、トイレットペーパーの芯等) を準備する
 復習 : 身近な素材を用いたおもちゃのアイデアを考える
- 7
 授業 : 文字・標識・数量・図形等に関わる保育の実際 (グループワーク)
 ・子どもの身近にある数量・図形との関わり
 予習 : 子どもの身近な環境の中にある数量に関するもの、図形を調べておく
 復習 : 授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む
- 8
 授業 : 子どもをとりまく環境と課題

<p>・SDG'sの目標から保育実践でできること 予習：SDG'sの目標について調べておく 復習：授業全体を振り返り、ポイントをまとめる</p>	
テキスト・教材	授業内で適宜資料を配布する。
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領解説書』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることできる	〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	授業で取り組む課題は次の授業でフィードバックし、提出物は教員が添削し、適宜講評する。
評価の基準と方法	提出課題及びレポート（60%）、グループワークなどにおける参加度、ワーク課題提出（40%）
関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 7.5 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭・保育士
実務経験を活かした教育内容	幼稚園教諭としての経験から、保育の具体的な実践や事例を取り入れ遊びを展開するために必要な援助について考える授業を展開していく。

科目名称	子どもと言葉	科目分類	B37 両-2
担当教員	伊東 一誉	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>乳幼児期の保育において、言葉についての知見と理解を得ることは、子どもの成長や発達を支援するために重要な諸要素の一つである。</p> <p>本授業では、子どもが豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的な知識を学ぶ。言葉の意義、言葉の発達過程について理解した上で、乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材に触れ、保育を展開するための知識や技能を身につける。</p> <p>また、授業では絵本研究やパネルシアターの制作など、体験的な活動に触れるほか、ディスカッションやグループ発表などのグループワークを行う。</p>		
到達目標	<p>本授業の到達目標として、以下の4点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、説明することができる。 2 子どもの言葉の発達過程について理解し、説明することができる。 3 子どもにとっての児童文化財の意義を理解し、活動に取り組むことができる。 4 言葉に対する感覚を豊かにする保育を実践することができる。 		
授業開始前学習	<p>幼稚園教育要領や保育所保育指針などに記されている領域「言葉」の内容を把握する。</p> <p>子どもの「言葉」について学ぶ意義を考える。</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>1</p> <p>授業：人間にとっての「言葉」について（「言葉」の意義と役割は何かについて理解する）</p> <p>予習：保育者にとって「言葉」を学ぶ目的は何かについて意見を整理する。</p> <p>復習：領域「言葉」を学ぶ意義と役割を見直し、ノートにまとめる。</p> <p>2</p> <p>授業：子どもの「言葉」の獲得について（映像を視聴し、「言葉」を獲得する過程を通して子どもの発達を捉える）</p> <p>予習：自身の経験から、子どもの「言葉」の獲得時期と具体例について内容を整理する。</p> <p>復習：授業で配布したプリントから、子どもの「言葉」の獲得時期と過程をノートに整理する。</p> <p>3</p> <p>授業：子どもの「言葉」の発達過程について（グループディスカッション「年齢に応じた言葉の具体例を考える」）</p> <p>予習：前回の授業で得た内容から、子どもの「言葉」の発達過程について意見をまとめる。</p> <p>復習：グループディスカッションを振り返り、子どもの「言葉」の発達過程に応じた特徴をノートに整理する。</p> <p>4</p> <p>授業：「言葉」に対する感覚について（領域「言葉」の内容を踏まえた、言葉の豊かさを捉える視点を捉える）</p> <p>予習：子どもにとっての「言葉」の意義を見直し、その豊かさを育む保育者の役割を考える。</p> <p>復習：授業で配布したプリントから、「言葉」の豊かな内容・具体例についてノートに整理する。</p> <p>5</p> <p>授業：「言葉」を豊かにするための保育実践（映像を視聴し、保育現場における実践の様子を捉える）</p> <p>予習：前回の授業で得た内容から、実践に対する手順や構成をイメージする。</p> <p>復習：授業プリントと視聴した映像から、保育の現場における工夫点や気が付いた点をノートに整理する。</p> <p>6</p> <p>授業：子どもの「言葉」と児童文化財について（児童文化財の意義と内容を捉える）</p> <p>予習：絵本、紙芝居、エプロンシアター、パネルシアター等、児童文化財に触れた経験についてまとめる。</p> <p>復習：授業で配布したプリントから、保育の現場で用いられる児童文化財の意義と種別についてノートに整理する。</p> <p>7</p> <p>授業：保育に活かされる児童文化財（絵本・紙芝居・パネルシアター等の教材研究）</p> <p>予習：前回の授業で得た内容から、児童文化財を用いた保育実践をイメージする。</p> <p>復習：絵本・紙芝居等の教材研究から、自身の表現題材と内容についてノートに整理する。</p> <p>8</p> <p>授業：児童文化財を用いた実践（プレゼンテーション「手作りパネルシアターの発表・振り返り」）</p> <p>予習：前回の授業で自身が制作した作品を見直し、工夫点や改善点について説明できるようにする。</p> <p>復習：プレゼンテーションと他者作品の鑑賞を通して得た内容をノートに整理する。</p>			
定期試験は実施しない			
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する。		
参考書	幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）		

保育所保育指針（平成29年3月告示，厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇
課題のフィードバック	児童文化に関する制作，パネルシアター，レポートを作成する課題を課す（授業内において，適宜，講評する）。
評価の基準と方法	授業毎の小テスト・提出課題(70%)，最終レポート(30%)
関連科目	
その他	学生の主体的な参加を望む。また，制作においてはハサミと糊を持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 7.5 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	子どもと表現 I	科目分類	B37 両-1
担当教員	阿部 敏行・西村 愛子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	子どもたちの表現は日常生活での経験と深く関わっている。それはひとりひとりが時の流れに伴って変化する環境要素に対してそれぞれ柔軟性に富む関係性を構築しているからである。この関係性の中から独創性にあふれる表現は生まれてくる。保育者はいまこの時にどのような環境要素がふさわしいかを観察し、随時提供していく能力とともに、子どもたちから生まれる表現を自律的に発展させる技術が必要となってくる。この授業ではこのような一連の過程を理論と実践を通して学び、発表会というかたちで示していく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 あそび、コミュニケーションと表現活動の関連性を理解する 2 子ども表現活動を構想することができる 3 子どもたちの表現活動を支える保育者の援助方法を考案できる 4 上記を基盤にグループでの表現活動を創ることができる 		
授業開始前学習	本講座は、1 年次前期開講の保育内容「身体表現」と連動している。当該科目の学修内容を十分に復習しておくこと。		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1	<p>授業：あそびと表現活動の関連性を学ぶ 予習：幼稚園教育要領、保育士保育指針を熟読し要点をノートにまとめる 復習：表現の基盤となる要素をノートにまとめる</p>		
2	<p>授業：保育・教育課程における表現発表会の位置づけについて学ぶ 予習：配付プリントの出題（作品制作における援助の視点について）を考え各自記述する 復習：表現と関係性、同期の関連をノートにまとめる</p>		
3	<p>授業：関係性について学ぶ 予習：配付プリントを読み、要点をノートにまとめる 復習：授業の内容をまとめノートに記述する</p>		
4	<p>授業：関係性と感性との関連を知る①（サウンドスケープとサウンドメイク） 予習：配付プリントを読み、要点をノートにまとめる 復習：授業の内容をまとめノートに記述する</p>		
5	<p>授業：関係性と感性との関連を知る②（色彩とデザイン） 予習：配付プリントを読み、要点をノートにまとめる 復習：授業の内容をまとめノートに記述する</p>		
6	<p>授業：同期（シンクロナイズド）について学ぶ（身体的表現の実戦） 予習：配付プリントを読み、要点をノートにまとめる 復習：授業の内容をまとめノートに記述する</p>		
7	<p>授業：同期（シンクロナイズド）からあそびへの発展を学ぶ 予習：配付プリントを読み、要点をノートにまとめる 復習：授業の内容をまとめノートに記述する</p>		
8	<p>授業：グループでの表現活動の実践①（発表作品の企画）【グループワーク】 予習：発表作品の概要をノートにまとめる 復習：授業の振り返りをノートにまとめる</p>		
9	<p>授業：グループでの表現活動の実践②（舞台美術の制作）【グループワーク】 予習：舞台美術（大道具・小道具）の概要をノートにまとめる 復習：授業の振り返りをノートにまとめる</p>		
10	<p>授業：グループでの表現活動の実践③（音、色彩、動きの関連を実践から学ぶ）【グループワーク】 予習：各場面に使用する音響や照明のタイミングをノートにまとめる 復習：授業の振り返りをノートにまとめる</p>		
11	<p>授業：グループでの表現活動の実践④（アンサンブルの実践）【グループワーク】</p>		

予習：アンサンブルを用いる場面の流れをノートにまとめる 復習：授業の振り返りをノートにまとめる 12 授業：グループでの表現活動の実践⑤（音楽と身体的表現の同期を図る）【グループワーク】 予習：シンクロナイズドを意識する場面の流れをノートにまとめる 復習：作品についての振り返りをノートにまとめる 13 授業：グループでの表現活動の実践⑥（色彩、造形、音、動きの同期を実践する）【グループワーク】 予習：発表作品全体の流れを台本にまとめ、各場面の留意点をノートに書き出す 復習：作品についての振り返りをノートにまとめる 14 授業：グループでの表現活動の実践⑦（発表リハーサル）【グループワーク】 予習：これまでの学修内容を総括し、ノートにまとめる 復習：発表の振り返りをノートにまとめる 15 授業：発表会 予習：これまでの学修内容を総括し、ノートにまとめる 復習：発表の振り返りをノートにまとめる	
テキスト・教材	配付プリントを中心とする。ほかの資料については適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	○○○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○○○
c3 子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	○○○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○○
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○○○
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○○○○
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	○○○
課題のフィードバック	予習として提示される課題は授業内にて、レポート課題は個人宛にフィードバックする。
評価の基準と方法	・グループ活動への取り組み姿勢：50%

	・提出課題：25% ・発表：25%
関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	子どもと表現Ⅱ	科目分類	B37 両-2
担当教員	西村・松本・山本	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	保育内容「表現」における、子どもの実践的な活動を演習形式で学ぶ。造形活動、音楽活動と、それらの包括的な総合表現活動の3つを中心に行い、それぞれの活動を通して、表現活動における環境構成のあり方、保育者の関わり方、活動のねらいの妥当性等について学ぶ。また、子どもの表現活動を支援する上での保育者の専門的な知識・技術を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの造形表現活動を支援するための専門的な知識・技術を身につけることができる 2 子どもの音楽表現活動を支援するための専門的な知識・技術を身につけることができる 3 音楽活動、造形活動の横断的な活動についての知識と実践力を身につけることができる 4 STREAM 教育についての知識と実践力を身につけることができる 		
授業開始前学習	これまで履修した「保育内容「造形表現」」「保育内容「音楽表現」」のノート、作品、授業資料を見返し、子どもと行う表現活動についての復習を行っておく。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1.

授業：表現原論ー子どもの表現活動の原論および支援方法を学ぶー

予習：配布資料およびシラバスを事前に読み、到達目標、授業のテーマについて自身で考えをまとめる。

復習：配布資料を復読し、授業で得た知見と疑問点をまとめる
2.

授業：STREAM 教育①STREAM 教育の原理と実践課題について学ぶ STREAM 教育②Science について学ぶ

予習：配布資料を読み、花火の科学について調べる

復習：授業で得た知見と疑問点をまとめる
3.

授業：STREAM 教育③Art について学ぶ～絵の具を使った活動を通して～

予習：配布資料を読み、色彩学について調べる

復習：授業で得た知見と疑問点をまとめる
4.

授業：STREAM 教育④Art について学ぶ～スタンプなどの表現技法の習得を通して～

予習：配布資料を読み、絵画技法について調べる

復習：授業で得た知見と疑問点をまとめる
5.

授業：STREAM 教育⑤Art について学ぶ～サウンドエデュケーションを通して～

予習：サウンドエデュケーションについてインターネット・図書を用い事前に調べる

復習：授業内で採取した音を、アプリケーションを使い編集をする
6.

授業：STREAM 教育⑥Technology について学ぶ～スクラッチ等、教育プログラミング素材等～

予習：配布資料を読み、プログラミングについて調べる

復習：スクラッチを使い、プログラミングする。
7.

授業：STREAM 教育⑦Engineering について学ぶ～保育現場における ICT 教育実践を通して～

予習：配布資料を読み、保育現場における ICT 教育の実態について理解する

復習：授業で得た知見について資料を使って整理するとともに、発表会の事前準備を行う
8.

授業：STREAM 教育⑧STREAM 教育の省察について学ぶ～発表会を通して～

予習：発表会に向けて、プレゼンテーションの準備をする。

復習：発表会を通して得た知見をまとめる
9.

授業：総合表現プロジェクト①表現活動を通じた環境設定について学ぶ

予習：地域の子どもの交流活動（特に表現分野）についてインターネット・雑誌・新聞等を用いて調べ、自分なりにまとめる

復習：授業で得た知見について資料を使って整理する
10.

授業：総合表現プロジェクト②co-creative な表現活動について学ぶ

予習：総合表現プロジェクトで自身が行いたい表現活動について事前に調べ、教材研究を行う

復習：授業内で学んだことを元に、プロジェクトの計画をたてる
11.

授業：総合表現プロジェクト③地域における保育所の役割と表現活動

予習：総合表現プロジェクトに関する準備物をリストアップしてノートにまとめる

復習：総合表現プロジェクトのスケジュールに沿って準備物を用意する

12.
 授業：総合表現プロジェクト④地域の子ども・家庭との co-creative な表現活動の企画
 予習：授業で行うディスカッションの内容について準備し、ノートにまとめる
 復習：授業内で学んだことを元に、総合表現プロジェクトの準備および練習を行う

13.
 授業：総合表現プロジェクト⑤地域の子ども・家庭との co-creative な表現活動の実践
 予習：これまでのプロジェクトの進捗状況をノートにまとめ、スケジュールの調整を行う
 復習：授業内で学んだことを元に、総合表現プロジェクトの準備および練習を行う

14.
 授業：総合表現プロジェクト⑥プロジェクトの振り返りとまとめ
 予習：総合表現プロジェクトの発表準備を行う
 復習：総合表現プロジェクトの個人としての振り返りを行い、ノートにまとめる

15.
 授業：授業を通じた振り返りと PDCA について学ぶ
 予習：総合表現プロジェクトの計画から実施までを振り返り、改善点をノートにまとめる
 復習：授業で行った学生同士の振り返りと意見交換から得た学びをノートにまとめる

テキスト・教材	なし
---------	----

参考書	・文部科学省編『幼稚園教育要領』（フレーベル館） ・厚生労働省編『保育所保育指針』（フレーベル館） ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
-----	--

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
--------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	○○○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○○○
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	○○○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○○
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○○○
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○○○○
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	○○○

課題のフィードバック	学生は授業内ノートを作成し、教員が適宜フィードバックする。
------------	-------------------------------

評価の基準と方法	グループワークへの取り組み姿勢 50% 授業内課題（発表） 50%
関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

保育内容「健康」

科目名称	保育内容「健康」	科目分類	B37 両-2
担当教員	猪熊 弘子	授業区分	演習
研究室	16-303	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>子どもの成長・発達の過程で健康と安全は最も重要な要素である。まずは『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示された領域「健康」のねらい・内容について学び、しっかり理解する。その上で、子どもが育っていく中で子どもたちが領域「健康」に示されたことをどのように体得し、実現していけばよいかについて、具体的な場面や事例を取り入れながら学んでいく。さらに運動遊びや食育、子どもの安全確保を実際の保育の中でどのように取り入れることができるか、話し合いながら学びを深め、実際の保育の中で具体的に計画し実践できる力を身につける。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 領域「健康」のねらいと内容を理解することができる 2 子どもの心身の発達がどのように進んでいくか、あるいは子どもの病気やケガなどをどのように防ぐかに関する基礎的な知識を理解することができる 3 領域「健康」の内容に沿って、保育活動を具体的に計画し、実践することができる 		
授業開始前学習	<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の原本・解説書をよく読み、保育における環境の意義について考える。テキスト『新・保育内容 健康』を用意し、通して読んでおく。</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1			
授業: この授業で学ぶ「健康」とは何か(授業ガイダンスを含む)			
予習: 自分の子ども時代にどんな遊びをしたか、どんな病気になったか等を思い出しておく			
復習: テキスト第2章「保育内容5領域と領域『健康』の考え方」について読んでおく			
2			
授業: 指針・要領の基本的な構成と領域「健康」の概要(1)0~2歳児に対するねらい・内容			
予習: 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」を読んでおく			
復習: 0~2歳児に対する「健康」のねらいと内容についてノートにまとめる			
3			
授業: 指針・要領の基本的な構成と領域「健康」の概要(2)3~5歳児に対するねらい・内容			
予習: 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」を読んでおく			
復習: 3~5歳児に対する「健康」のねらいと内容についてノートにまとめる			
4			
授業: 人権としての子どもの健康			
予習: テキスト第1章「人権としての子どもの健康」を読み、要点と疑問点をまとめる			
復習: 子どもの健康の大切さについて、学んだこと、考えたことをノートにまとめる			
5			
授業: 子どもの身体の発育			
予習: テキスト第3章「子どもの身体の発育」を読み、要点と疑問点をまとめる			
復習: 子どもの身体の発達について、1~5歳までの年齢ごとに振り返り、大切なことをノートにまとめる			
6			
授業: 子どもの心と身体の健康			
予習: テキスト第4章「子どもの心と身体の健康」を読み、要点と疑問点をまとめる			
復習: 子どもの病気やその症状について、学んだことをノートにまとめる			
7			
授業: 子どもの運動能力と動きの獲得			
予習: テキスト第5章「子どもの運動能力と動きの獲得」を読み、要点と疑問点をまとめる			
復習: 子どもがどのように運動能力を身につけていくのかを振り返り、大切なことをノートにまとめる			
8			
授業: 遊びの種類と養われる多様な運動能力			
予習: テキスト第6章「遊びの種類と養われる多様な運動能力」を読み、要点と疑問点をまとめる			
復習: 実際に保育の中でできそうな遊び、してみたい遊びについてノートにまとめておく			
9			
授業: 基本的生活習慣に関わる指導			
予習: テキスト第7章「基本的生活習慣に関わる指導」を読み、要点と疑問点をまとめる			
復習: 子どもの生活にとって必要な基本的な習慣について、園でどのように指導していけば良いかノートにまとめておく			
10			
授業: 食育に関わる指導			
予習: テキスト第8章「食育に関わる指導」を読み、要点と疑問点をまとめる			
復習: 食育活動として、園の保育で実際にやってみたいことについてノートにまとめておく			

11
 授業：安全指導と安全への配慮
 予習：テキスト第9章「安全指導と安全への配慮」を読み、要点と疑問点をまとめる
 復習：保育の中で安全に関して特に保育者が心がけなければならないことについて、ノートにまとめておく

12
 授業：養護と健康
 予習：テキスト第11章「養護と健康」、保育所保育指針第1章総則「養護」を読み、要点と疑問点をまとめる
 復習：保育所保育指針第1章総則「養護」と領域「健康」との違いを明らかにして整理しておく

13
 授業：「健康」の指導計画案を書いてみよう（1）0～2歳（グループワーク）
 予習：これまで学んだ領域「健康」の内容から、0～2歳の指導案に入れることを考えておく
 復習：1年を通した0～2歳の指導計画について「健康」の項目を整理しておく

14
 授業：「健康」の指導計画案を書いてみよう（2）3～5歳（グループワーク）
 予習：これまで学んだ領域「健康」の内容から、3～5歳の指導案に入れることを考えておく
 復習：1年を通した3～5歳の指導計画について「健康」の項目を整理しておく

15
 授業：まとめ—領域「健康」と子どもの育ち
 予習：テキスト第12章「小学校教育とのつながり」を読み、要点と疑問点をまとめる
 復習：0～5歳の領域「健康」に関する課題レポートに取り組む

テキスト・教材	浮田咲子・町山太郎編著『新・保育内容 健康』（教育情報出版）
参考書	文部科学省編『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省編『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したくなるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	毎回の講義終了後にリアクションペーパーを課し、次回講義時に全体講評する
評価の基準と方法	課題（70%）、期末レポート（30%）
関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

保育内容「人間関係」

科目名称	保育内容「人間関係」	科目分類	B37 両-2 (J)
担当教員	佐藤 晶子	授業区分	演習
研究室	16-309	オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:40 後期 火曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10
授業のテーマ・内容	子どもの人との関わりの発達の過程についての基本的な知識を学ぶ。他の人々と親しみ、支えあって生活する力を乳幼児期から育むために必要な保育者の援助や役割について考察する。子どもの姿をイメージし、事例研究やロールプレイを行うことで、具体的な実践力の習得を目指す。		
到達目標	1 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、説明することができる。 2 子どもの「人の関わり」における発達の過程について理解し、説明することができる。 3 事例研究やロールプレイを通して、「人間関係」の基礎を築いていくための保育者の役割や援助の在り方について考察し、実践することができる。		
授業開始前学習	授業内で事例研究をする際に、子どもの姿をイメージしながら考察する力が必要となる。よって実習園で子どもたちと関わる中で印象に残った場面等について振り返りしておくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：幼児教育・保育の基本 領域「人間関係」と他領域との関係
予習：テキストの第 1 章を読み、要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理し、本授業の流れと目的を明確しておく
- 2
授業：領域「人間関係」のねらいと内容
予習：テキストの第 2 章を読み、要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理し、領域「人間関係」のねらいと内容を理解する
- 3
授業：生活を通して育つ人と関わる力
予習：テキストの第 5 章を読み、要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理する
- 4
授業：人と関わる力を育む保育者の援助①信頼関係を基盤とした自立心の育ち
予習：テキストの第 3 章を読み、要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理する
- 5
授業：人と関わる力を育む保育者の援助②思いやりの心の育ち（グループワーク）
予習：事前に配布したワークシートに取り組む
復習：授業プリントを整理する
- 6
授業：人との関わりの発達と保育①乳児・3 歳未満児
予習：乳児、3 歳未満児の発達段階をまとめる
復習：授業プリントを整理し、乳児、3 歳未満児の“人と関わる力”を育てる保育者の援助を理解する
- 7
授業：人との関わりの発達と保育②3 歳児
予習：3 歳児の発達段階をまとめる
復習：授業プリントを整理し、3 歳児の“人と関わる力”を育てる保育者の援助を理解する
- 8
授業：人との関わりの発達と保育③4 歳児
予習：4 歳児の発達段階をまとめる
復習：授業プリントを整理し、4 歳児の“人と関わる力”を育てる保育者の援助を理解する
- 9
授業：人との関わりの発達と保育④5 歳児
予習：5 歳児の発達段階をまとめる
P.165-174、P.187-192 を読み、要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理し、5 歳児の“人と関わる力”を育てる保育者の援助を理解する
- 10
授業：人との関わりの発達と保育⑤5・6 歳児—協同的な遊び—
予習：事前に配付したワークシートに取り組む
復習：授業プリントを整理し、協同性の発達の過程についてまとめる

11 授業：個と集団の育ち 予習：テキストの第 6 章を読み、要点と疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理する	
12 授業：遊びのなかのひととの関わり・道徳性と規範意識の育ち（グループワーク） 予習：テキストの第 4 章及び P.193-195 を読み、要点と疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理し、事例ワークシートに取り組む	
13 授業：特別なニーズをもつ子どもへの援助・個別の支援計画の作成 予習：これまで学んだ特別支援教育等に関する学びを振り返る 復習：授業プリントを整理する	
14 授業：子ども理解に基づいた「評価」の実施 予習：「評価」のイメージをノートに書き出し、その意味を調べる 復習：授業プリントを整理し、保育における「評価」を理解する	
15 授業：小学校との連携と接続・領域「人間関係」が目指すもの 予習：テキストの第 8 章を読み、要点と疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理する	
テキスト・教材	無藤隆・岩立京子編『事例で学ぶ保育内容<領域>人間関係』（萌文書林）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、授業内で適宜紹介する
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇

d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる		〇〇〇
課題のフィードバック	授業内でワークシートを課す。添削した後、返却する。	
評価の基準と方法	定期試験 60%、提出課題・授業への参加度（グループワーク） 40%	
関連科目		
その他	本授業はグループ討議を多く取り入れている。積極的に自分の意見を発表し、自分とは異なる多様な意見も受け止め、柔軟な思考を常に心がけながら授業に参加することを望む。	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間	
実務経験の有無	○	
実務経験の内容	幼稚園教諭	
実務経験を活かした教育内容	幼稚園における年少、年中、年長、未就園児（2 歳児）のクラス担任の経験を活かし、保育の具体的な事例や実践を取り入れ、指導計画の立案や保育実践力向上につながる授業を展開していく。	

保育内容「環境」

科目名称	保育内容「環境」	科目分類	B37 両-2
担当教員	猪熊 弘子	授業区分	演習
研究室	16-303	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>日本では就学前の子どもに対する保育・幼児教育は「環境」を通して行うこととされている。それは一体どのようなことなのか、どのように保育実践につなげていけば良いのかを学ぶのがこの授業のテーマである。まずは『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示された領域「環境」のねらい・内容について学ぶ。その上で、子どもが育っていく姿を考えながら、保育者としてどのように保育現場の「環境」を整え、充実させて保育を行っていけば良いのか、具体的な場面や事例を取り入れながら学んでいく。また、自然や生き物、文字や数字、数量、標識、動物や人間等、領域「環境」に含まれるさまざまな要素について、実際の保育の中でどのように取り入れることができるかを話し合いながら学びを深めていく。そして、同時に子どもが主体的に自身の好奇心や探究心を育めるような豊かな保育環境の構成方法についても学ぶ。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 指針・要領にある領域「環境」のねらい・内容を実際の保育の指導案の中にしっかりと落とし込める力を身につける 2 「環境」を構成するのに必要な要素一つ一つを具体的に説明することができる 3 子どもが領域「環境」を通してどのように成長していくか、その発達と保育内容の相互関係を理解する 4 子どもの成長・発達を支え、子どもが主体的に周囲の環境に関わることができる環境構成、また保育者がどのように子どもに関わっていくべきかを具体的に理解し、保育者としての基礎的な力を身につける 		
授業開始前学習	<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の原本・解説書をよく読み、保育における環境の意義について考える</p>		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1

授業：この授業で学ぶ「環境」とは何か―「環境」を通して行う保育・幼児教育について（授業ガイダンスを含む）

予習：自分の幼児期に周囲にあった「環境」について思い起こしておく

復習：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」を読む
- 2

授業：指針・要領の基本的な構成と領域「環境」の概要（1）0～2歳児に対するねらい・内容

予習：保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」を読んでおく

復習：0～2歳児に対する「環境」のねらいと内容についてまとめる
- 3

授業：指針・要領の基本的な構成と領域「環境」の概要（2）3～5歳児に対するねらい・内容

予習：保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」を読んでおく

復習：3～5歳児に対する「環境」のねらいと内容についてまとめる
- 4

授業：環境に配慮した園の実際（1）（0～2歳児にふさわしい環境とは）

予習：0～2歳の子どものに必要な環境について考えておく（安全についても含む）

復習：授業内で紹介した園の環境構成を振り返り、0～2歳の保育に必要な環境をノートにまとめる
- 5

授業：環境に配慮した園の実際（2）（3～5歳の成長に必要な環境とは）

予習：3～5歳の子どものに必要な環境について考えておく

復習：授業内で紹介した園の環境構成を振り返り、3～5歳の保育に必要な環境についてノートにまとめる
- 6

授業：環境に配慮した園の実際（3）（子ども主体の保育を実践できる環境とは―グループディスカッション）

予習：「子ども主体」の保育に必要な環境について考えておく

復習：「子ども主体の保育」を実践できる環境について、グループディスカッションで学んだことや考えたことをノートにまとめる
- 7

授業：環境に配慮した園の実際（4）（子どもが思い切りチャレンジできる園庭環境）

予習：子どもの頃に遊んだ園庭や公園の遊具について、どんな風に遊んだか思い出しておく。

復習：チャレンジできる園庭等の環境構成を思い出し、安全への配慮や工夫をノートにまとめる
- 8

授業：環境に配慮した園の実際（5）（子どもが自然とふれあえる環境）

予習：子どもの頃に自然と触れあって遊んだ経験について思い出しておく

復習：子どもが園でどのように自然と触れあう機会を持つことができるか、ノートにまとめる
- 9

授業：伝統文化や地域との関わり（子どもが伝統や文化、地域とふれあえる環境を考える）

予習：子どもの頃に体験した伝統行事や文化、お祭りなどの地域との関わりについて思い出しておく

復習：子どもが園でどのように伝統行事や文化に触れる機会を持てるか、ノートにまとめる

10 授業：身近な動植物との関わり（1）（園での生き物の飼育について考える） 予習：子どもの頃から今まで、飼育してきた昆虫や魚、動物などについて思い出しておく 復習：乳幼児期に自然とかかわることの意味についてノートにまとめる	
11 授業：身近な動植物との関わり（2）（園での植物や野菜の栽培について考える） 予習：子どもの頃にやった植物や自然と触れあう遊びについて思い出し、調べておく 復習：自然とかかわる保育の展開についてノートにまとめる	
12 授業：文字や数量との関わり（文字、数字、数量、標識との関わりについて考える） 予習：保育の中で文字や数量でどんな風に遊べるか考えておく 復習：文字や数字、数量、標識等を使った実際の保育の展開について整理しておく	
13 授業：「環境」の指導計画案を書いてみよう（1）0～2歳[グループワーク] 予習：これまで学んだ「環境」の内容から、0～2歳の指導案に入れることを考えておく 復習：1年を通した0～2歳の指導計画について「環境」の項目を整理しておく	
14 授業：「環境」の指導計画案を書いてみよう（2）3～5歳[グループワーク] 予習：これまで学んだ「環境」の内容から、3～5歳の指導案に入れることを考えておく 復習：1年を通した3～5歳の指導計画について「環境」の項目を整理しておく	
15 授業：まとめー領域「環境」と子どもの育ち 予習：この授業でこれまで学んだ内容を振り返り、整理しておく 復習：0～5歳の保育環境に関する課題レポートに取り組む	
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配付する
参考書	文部科学省編『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省編『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇

d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	毎回の講義終了後にリアクションペーパーを課し、次回講義時に全体講評する
評価の基準と方法	課題（70%）、期末レポート（30%）
関連科目	保育内容総論、保育内容系科目
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	保育内容「言葉」	科目分類	B37 両-1
担当教員	仲本 美央	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型こども園教育・保育要領に示された教育の基本を踏まえた言葉のねらい及び内容や言葉における幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面において保育を構想する方法を身につけていきます。1 コマ毎の授業の前半では講義形式(必要に応じて視聴覚教材、パワーポイントを活用する)、授業後半では受講者のそれぞれの考え・意見を発表し合う形式で授業を展開します。また、授業全体の後半では、ディスカッションなどの学生同士または学生と教員による相互のやりとりを含めたアクティブラーニングを実施します。</p>		
到達目標	<p>1 5 領域のうち、言葉のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を通して保育を構想する方法を身に付けます。 2 子どもの発達の連続性を重視し、各年齢段階における発達課題達成の様相についての視点を絶えず持ちながら、乳幼児理解ができるよう、さまざまな事例を通して、子どもや保育者、保護者の姿を深く捉え、考察する力を身に付けます。</p>		
授業開始前学習	<p>2 年間で正しい言葉が身につくよう、本を読むこと、滑舌よく話すこと、目上の人と話すことを日常的に心がけましょう。また、日常的に児童書（絵本、紙芝居等）に触れておきましょう。</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1	<p>授業：人が言葉を育む過程と保育内容5領域の関連(グループワーク) 予習：シラバスで本授業の目標、内容を確認し、「言葉」の意味を調べる 復習：授業振り返りレポートを記入し、自分なりの本授業の目標を立てる</p>		
2	<p>授業：人間にとっての言葉の働き 予習：保育内容「言葉」の領域を読んでおく 復習：授業振り返りレポートを記入し、自分なりに子どもの育ちにおける言葉の重要性について考える</p>		
3	<p>授業：保育者として、子どもの言葉の育ちを支え、援助する(グループディスカッション) 予習：教科書における子どもの言葉の育ちを支える保育者の援助の分野を読み、わからない語句を調べておく 復習：授業振り返りレポートを記入し、自分なりに子どもの育ちを支える保育者の援助について考える</p>		
4	<p>授業：乳児期の言葉の発達理解 予習：教科書（P.39-49）における乳児期の言葉の分野を読み、わからない語句を調べておく 復習：0～3歳未満児の言葉の獲得について、一覧表を作成する</p>		
5	<p>授業：事例を通して学ぶ乳児期の言葉の発達理解とその援助(グループワーク) 予習：教科書（P.66-69）における乳児期の言葉の分野を読み、わからない語句を調べておく 復習：0～3歳未満児の言葉の獲得について、一覧表を作成する</p>		
6	<p>授業：言葉を豊かに育む保育①視聴覚教材を使って事例から3歳児の言葉の育ちを捉える 予習：3歳児の言葉の発達と保育者の援助について調べ、わからない語句を調べておく 復習：振り返りレポートに授業で紹介した視聴覚教材の中から、気付いたこと、考えたことをまとめる</p>		
7	<p>授業：言葉を豊かに育む保育②事例から3歳児の言葉の育ちを捉える(グループディスカッション) 予習：視聴覚教材において気付いた3歳児の言葉の発達と保育者の援助について教科書にてわからないを調べておく 復習：振り返りレポートに授業で紹介した事例の中から、気付いたこと、考えたことをまとめる</p>		
8	<p>授業：言葉を豊かに育む保育③視聴覚教材を使って事例から4歳児の言葉の育ちを捉える 予習：4歳児の言葉の発達と保育者の援助について調べ、わからない語句を調べておく 復習：振り返りレポートに授業で紹介した視聴覚教材の中から、気付いたこと、考えたことをまとめる</p>		
9	<p>授業：言葉を豊かに育む保育④事例から4歳児の言葉の育ちを捉える(グループディスカッション) 予習：視聴覚教材において気付いた4歳児の言葉の発達と保育者の援助について教科書にてわからないを調べておく 復習：振り返りレポートに授業で紹介した事例の中から、気付いたこと、考えたことをまとめる</p>		
10	<p>授業：言葉を豊かに育む保育⑤視聴覚教材を使って事例から5歳児の言葉の育ちを捉える 予習：5歳児の言葉の発達と保育者の援助について調べ、わからない語句を調べておく 復習：振り返りレポートに授業で紹介した視聴覚教材の中から、気付いたこと、考えたことをまとめる</p>		

11	<p>授業：言葉を豊かに育む保育⑥事例から5歳児の言葉の育ちを捉える(グループディスカッション)</p> <p>予習：視聴覚教材において気付いた5歳児の言葉の発達と保育者の援助について教科書にてわからないを調べておく</p> <p>復習：振り返りレポートに授業で紹介した事例の中から、気付いたこと、考えたことをまとめる</p>
12	<p>授業：乳幼児期の言葉の発達の諸問題とその援助</p> <p>予習：事前配布プリントを読み、わからない語句の意味を調べる</p> <p>復習：授業振り返りレポートを記入し、乳幼児期の言葉の発達に関する諸問題について考える</p>
13	<p>授業：言葉の発達と子どもを取り巻く環境(人・モノ・文化)(グループワーク)</p> <p>予習：子どもの言葉の育ちを支える絵本を10冊読み、そのうちの5冊授業に持参する</p> <p>復習：授業振り返りレポートを記入し、乳幼児期の言葉の育ちにおける絵本などの児童文化財の役割について考える</p>
14	<p>授業：言葉を育てる指導計画(グループワーク、模擬保育)</p> <p>予習：事前配布資料を読み、わからない語句を調べる</p> <p>復習：授業振り返りレポートを記入し、言葉を育てる指導計画について考える</p>
15	<p>授業：幼児期の言葉の育ちを小学校へつなぐ、授業内小テスト</p> <p>予習：事前配布資料を読み、わからない語句を調べる</p> <p>復習：授業振り返りレポートを記入し、幼児期の言葉の育ちを小学校へつなぐことについて考える</p>

テキスト・教材	駒井美智子編『保育者を目指す人のための「言葉」第2版』(みらい)
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』(フレーベル館) 厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(フレーベル館)

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点(感覚)とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる		〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境(体験)を用意することができる		〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したくなるように促すことができる		〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる		〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる		〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる		〇〇〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	提出課題は、全員の前で発表し講評する。振り返りレポートは学生同士ピアチェックし、最終的に担当教員が講評する。
評価の基準と方法	定期試験(60%)、グループワークや模擬保育への取組姿勢・提出課題(20%)、振り返りレポート(20%)
関連科目	保育内容系科目、保育内容総論、児童文化 I・II
その他	授業では常に、受講者に対し、授業で紹介される理論や実践事例に対して考えることを求めます。さらにその成果の提出・発表を適宜求めます。事前学習として、事例問題に取り組む課題を与えます。また、毎回授業の最後には振り返りシートの記入を取り入れます。積極的な参加姿勢を望みます。また、具体的に理解を深めるため、視聴覚資料等を多く取り入れます。自分なりのメモを取りながら内容を整理・理解するよう努めてください。各自の手作りの児童文化財を最終の授業時まで一つ以上作成してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	保育内容「身体表現」	科目分類	B37 両-1
担当教員	人見 はる菜	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	子どもの発達における表現の重要性とその意義について、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容をふまえて、身体表現、特に演劇（ドラマ）表現を中心に理解を深める。また、子どもの表現活動の特性をとらえ、その豊かな表現を保障する環境と保育構成のあり方を、具体的な指導場面を想定した表現体験等の実践的な活動や討議・創作活動などを通して、主体的・対話的に深く学ぶ。		
到達目標	<p>本授業の到達目標として、以下の3点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児教育の基本をふまえ、領域「表現」のねらいと内容を理解する。 2 子どもの発達や小学校の教科への接続もふまえて学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を、主に身体表現を中心として構想する方法を身に付ける。 3 領域「表現」の特性及び幼児の表現活動との関連を考慮し、かつ、情報機器及び教材の活用も工夫した上で、子どものための作品を創作する。 		
授業開始前学習	自身の幼少期における演劇やダンスなどの身体表現活動を振り返るとともに、インターネットや保育雑誌等を用い、今日の子どもたちの身体表現活動の実際について調べる。		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1	<p>授業：ガイダンス。幼児教育の基本、領域「表現」のねらいと内容、授業概要の説明 予習：参考書や各省庁ホームページで公開されている教育要領の領域「表現」のねらい・内容を読み、要点をまとめる。 復習：子どもの身体表現活動の意義について授業内容を踏まえ自身の考えをまとめる。</p>		
2	<p>授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（1）自己表現（グループワーク） 予習：子どもの身体表現活動について調べ学習を行う。 復習：授業内容について振り返り、ミニレポートを作成する。</p>		
3	<p>授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（2）コミュニケーション（グループワーク） 予習：自身が子どものころ他者と関わりながら行っていた身体表現活動について振り返り、まとめる。 復習：授業内容について振り返り、ミニレポートを作成する。</p>		
4	<p>授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（3）遊びにおける身体感覚及び五感の重要性（グループワーク） 予習：子どもの身体表現を受容する保育者の言葉かけについて調べる。 復習：授業内容について振り返り、ミニレポートを作成する。</p>		
5	<p>授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（4）遊びにおける言葉の重要性（グループワーク） 予習：自身が知っているまたは行っていた言葉遊びを振り返り、まとめる。 復習：授業内容について振り返り、ミニレポートを作成する。</p>		
6	<p>授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（5）想像的遊び（グループワーク） 予習：自身が知っているまたは行っていた想像的遊びを振り返り、まとめる。 復習：授業内容について振り返り、ミニレポートを作成する。</p>		
7	<p>授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（6）創造的遊び（グループワーク） 予習：自身が知っているまたは行っていた創造的遊びを振り返り、まとめる。 復習：授業内容について振り返り、ミニレポートを作成する。</p>		
8	<p>授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（7）非認知的能力と表現（グループワーク） 予習：雑誌・文献・インターネットなどで非認知的能力について調べ学習を行う。 復習：授業内容について振り返り、ミニレポートを作成する。</p>		
9	<p>授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（8）絵本から膨らませる劇遊び（グループワーク） 予習：雑誌・文献・インターネットなどで劇遊びについて調べ学習を行う。 復習：授業内容について振り返り、ミニレポートを作成する。</p>		
10	<p>授業：保育内容としての演劇の探求（1）子どものための作品創作（グループワーク） 予習：子どもの頃に読んでいた絵本の、どんなところがおもしろかったかを振り返って考える 復習：どんな風に劇にすれば子どもがおもしろいと思うかを、授業内容を踏まえてまとめる</p>		

11	<p>授業：保育内容としての演劇の探求（２）子どものための作品創作（グループワーク）</p> <p>予習：中間発表会に向けて必要なことを洗い出し準備する</p> <p>復習：中間発表会に向けて、工夫できるところを考え準備する</p>
12	<p>授業：保育内容としての演劇の探求（３）子どものための作品創作（グループワーク）</p> <p>予習：中間発表会へむけて、グループで練習や事前準備を行う。</p> <p>復習：授業内容について振り返り、ミニレポートを作成する。</p>
13	<p>授業：保育内容としての演劇の探求（４）子どものための作品創作（グループワーク）</p> <p>予習：授業内発表本番へむけて、グループで練習や事前準備を行う。</p> <p>復習：授業内容について振り返り、ミニレポートを作成する。</p>
14	<p>授業：保育内容としての演劇の探求（５）子どものための作品の授業内発表（グループワーク/ロールプレイ）</p> <p>予習：授業内発表本番へむけて、グループで練習や事前準備を行う。</p> <p>復習：授業内発表について振り返り、ミニレポートを作成する。</p>
15	<p>授業：授業内発表会を踏まえて、子どもの表現の発達と小学校の教科への接続、授業内外における自分の身体表現を振り返る（表現活動を記録・振り返る映像機器の活用も含む）（グループワーク）</p> <p>予習：これまでの授業内容について、自身の考えをまとめる。</p> <p>復習：これまでの授業内容を踏まえ、子どもの身体表現活動についてミニレポートを作成する</p>
テキスト・教材	授業中に適宜資料を配布する。
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	○○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○○
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○○○

d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる		〇〇
課題のフィードバック	毎時間事に、授業内での活動の振り返り課題を適時評価しフィードバックを行う。演習内容（授業内発表等）の講評を授業内で行う。	
評価の基準と方法	実技内容（40%）、授業への取り組み（40%）、レポート等提出物（20%）	
関連科目	保育内容「音楽表現」、体育、幼児体育Ⅰ・Ⅱ	
その他	動きやすい服装・上履で授業を受講して下さい。	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間	
実務経験の有無		
実務経験の内容		
実務経験を活かした教育内容		

保育内容「音楽表現」

科目名称	保育内容「音楽表現」		科目分類	B37 両-1
担当教員	松本 哲平		授業区分	演習
研究室	16-308	オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 12:00～15:00	
授業のテーマ・内容	本授業では、保育園、幼稚園などにおける子どもの音楽表現について演習形式の授業で学修を行う。 特に、子どもたちが音や音楽への表現や感受を通じた情操を育む過程について理解をするとともに、それらの過程における保育者の援助についての具体的な方法を身につける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育内容「表現」のねらいと音楽表現の具体的内容について理解する。 2 子どもたちに寄り添いながら、ともに音楽表現を楽しむ保育の援助方法を習得し、実践することができる。 3 子どもたちが無理なく器楽合奏に到達するための遊びの過程を理解する。 4 子どもたちの歌の歴史、また、子どもたちと共に歌う際の保育方法について理解する。 5 子どもの音楽活動を支えるための基礎的音楽理論（リズムの理論）を理解する。 			
授業開始前学習	現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針について理解を深めておくこと			

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業：領域「表現」における音楽表現の概要、ねらい、位置づけについて学ぶ
 予習：「子どもと音楽活動を楽しむために大切にしたい事」という内容で、300～400字程度のレポートを書く
 復習：授業で学習したプリントを復習し、要点・疑問点を整理する
- 2
 授業：領域「表現」における保育・指導上の留意点と評価について学ぶ
 予習：保育所保育指針の各年齢における内容・ねらいの中で、音や音楽活動に関連する箇所を読む
 復習：授業内容の要点と疑問点をまとめて記述する。
- 3
 授業：子どもの音感受について学ぶ（1）：サウンドエデュケーションについて学ぶ（フィールドワーク）
 予習：配布プリント「音の日記」を読み、予習を行う
 復習：授業の要点をノートに記述し、ミニレポートを作成する。
- 4
 授業：子どもの歌唱活動について学ぶ（1）子どもの歌の歴史と分類について学ぶ
 予習：インターネットや楽譜を用いて、幼少期に歌った歌唱曲を調べる
 復習：子どもの歌の歴史・分類について復習をし、要点を整理する
- 5
 授業：子どもの歌唱活動について学ぶ（2）子どもの声域と教材分析について学ぶ
 予習：「コードで弾き歌い」の楽譜を読み、最低音と最高音を調べる
 復習：子どもの歌の声域やリズムの特徴について配布プリントを参考にし、要点を整理する
- 6
 授業：身体を使った表現の在り方と指導法（1）：ボディパーカッションを用いた音楽活動
 予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する
 復習：授業での課題を各自復習する
- 7
 授業：身体を使った表現の在り方と指導法（2）：手拍子を用いた音楽活動
 予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する
 復習：授業で取り上げた遊びについて復習する
- 8
 授業：リズムに親しむ音楽表現と指導法（1）リズム楽器を用いた音楽活動の導入（グループワーク）
 予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する
 復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する
- 9
 授業：表現における内容の取扱い（1）ことばを用いたオスティナートについて学ぶ
 予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する
 復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する
- 10
 授業：表現における内容の取扱い（2）リズム楽器を用いた平易な合奏の指導法
 予習：事前配布プリント読み、内容を理解する
 復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する
- 11

<p>授業：リズムに親しむ音楽表現と指導法（２）マーカ－編曲法と指揮法 予習：事前配布プリントを読み、マーカ－編曲法の指導の流れについて予習する 復習：編曲課題に取り組む</p> <p>12</p> <p>授業：音楽表現と他領域との関わり（１）多領域と関わりのある表現活動について学ぶ 予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する 復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する</p> <p>13</p> <p>授業：音楽表現と他領域との関わり（２）保育活動の包括的・横断的なねらいについて学ぶ 予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する 復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する</p> <p>14</p> <p>授業：表現領域における情報機器及び教材の活用と「音楽表現」の指導案作成の方法を学ぶ 予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する 復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する</p> <p>15</p> <p>授業：幼小連携を踏まえた表現領域における音楽活動を学ぶ 予習：配布プリントを読み、疑問点を整理する 復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する</p>

テキスト・教材	授業内配布プリント
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、適宜指示する

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	○○○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○○○
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	○○○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○○○○
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○○○○
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	○○

課題のフィードバック	ミニレポートを用いた振り返りを行い、疑問点や到達度について随時確認しながら授業を進める。 また、授業内で小テストを行う。
評価の基準と方法	定期試験(50%)、授業における演習の取り組み状況(25%)、小テスト(25%)
関連科目	ピアノ演奏法 I・II、音楽指導法 I・II
その他	動きやすい服装で参加すること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

保育内容「造形表現Ⅰ」

科目名称	保育内容「造形表現Ⅰ」		科目分類	B37 両-1
担当教員	西村 愛子		授業区分	演習
研究室	16-314	オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～12:00 後期 木曜日 09:00～12:00	
授業のテーマ・内容	本授業では、「遊びと表現」をテーマに、身近な素材を用いた造形活動によって、子どもの発達段階に応じた素材選びや、道具や材料の準備方法について学修する。また、ダンボール協同制作を通して、子どもの遊びの本質や、表現の意義について学びを深める。これらの活動を通して、自ら表現することを楽しみ、他者の表現を受容し、援助する力を身に付けてほしい。			
到達目標	本授業の到達目標として、以下の4点を挙げる。 1 領域「表現」の目標・ねらい・内容を理解することができる 2 表現することの楽しさや達成感を実感することができる 3 他者の様々な表現を受け止めることができる 4 子どもの発達段階に応じた道具や材料を準備することができる			
授業開始前学習	幼稚園教育要領や保育所保育指針などに記されている領域「表現」について振り返る。			

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：領域「表現」の目標・ねらい・内容について
予習：これまでの学びから子どもの遊びの本質について考える
復習：造形活動に必要な基本的な道具を用意する
- 2
授業：色で表現する活動について
予習：クレヨンの種類について調べる
復習：他の人の作品を鑑賞する
- 3
授業：工作①造形活動における評価の考え方について
予習：身近な素材を用いた造形活動について調べる
復習：活動の製作工程や留意点をノートにまとめる
- 4
授業：工作②造形活動における指導上の留意点について
予習：身近な素材を用いた造形活動について調べる
復習：活動の製作工程や留意点をノートにまとめる
- 5
授業：工作③生活や遊びを通して感性を豊かにすることについて
予習：身近な素材を用いた造形活動について調べる
復習：活動の製作工程や留意点をノートにまとめる
- 6
授業：工作④素材の特徴と材料の準備方法について
予習：身近な素材を用いた造形活動について調べる
復習：活動の製作工程や留意点をノートにまとめる
- 7
授業：工作⑤造形活動における導入について
予習：身近な素材を用いた造形活動について調べる
復習：活動の製作工程や留意点をノートにまとめる
- 8
授業：工作⑥造形活動のねらいについて
予習：身近な素材を用いた造形活動について調べる
復習：活動の製作工程や留意点をノートにまとめる
- 9
授業：子どもの造形的発達について
予習：子どもの造形的発達について調べる
復習：子どもの造形的発達についてノートにまとめる
- 10
授業：造形活動の指導計画について
予習：指導計画と実践した造形活動について振り返る
復習：改善方法を記録する
- 11

授業：ダンボール協同制作①子どもの遊びについて考える（グループワーク） 予習：作品のエスキースを描く 復習：材料や参考資料を集める 12 授業：ダンボール協同制作②安全面の配慮について考える（グループワーク） 予習：ミニチュアをつくる 復習：材料や参考資料を集める 13 授業：ダンボール協同制作③道具の特徴と使用方法を学ぶ（グループワーク） 予習：グループで活動の役割分担を決める 復習：材料や参考資料を集める 14 授業：ダンボール協同制作④素材の特徴と使用方法を学ぶ（グループワーク） 予習：グループで活動の役割分担を決める 復習：材料や参考資料を集める 15 授業：ダンボール協同制作⑤画材の特徴と使用方法を学ぶ（グループワーク） 予習：グループで活動の役割分担を決める 復習：材料や参考資料を集める	
テキスト・教材	授業内で適宜紹介する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） 松家まきこ編集，鈴木範之編集，『実践心ふれあう子どもと表現』（みらい）
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	○○○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○○○
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	○○○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○○○
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○○○○
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○○○○

d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる		〇〇
課題のフィードバック	活動の製作行程や留意点をまとめたノートを作成する（授業内において、評価伝達する）。	
評価の基準と方法	造形ノート 30%、レポート 30%、作品 30%、授業への参加態度 10%	
関連科目	保育内容「造形表現Ⅱ」、造形指導法Ⅰ、造形指導法Ⅱ、造形Ⅰ	
その他	学生が積極的に「表現と遊び」について探究することを期待する。	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間	
実務経験の有無		
実務経験の内容		
実務経験を活かした教育内容		

保育内容「造形表現Ⅱ」

科目名称	保育内容「造形表現Ⅱ」		科目分類	B37 両-2
担当教員	西村 愛子		授業区分	演習
研究室	16-314	オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～12:00 後期 木曜日 09:00～12:00	
授業のテーマ・内容	本授業は、子どもの豊かな感性を育む造形活動について講義形式と演習形式で学ぶ。演習では、絵画技法を通して、色彩感覚を養い、画材の特徴や道具の使い方を学び、応用できる力を身につける。講義では、子どもの絵や造形用語の基礎と海外の保育における造形活動を学ぶ。そして、保育者として、子どもの豊かな感性を育む造形活動を行えるようになることを目指す。			
到達目標	本授業の到達目標として、以下の3点を挙げる。 1 絵画技法を用いた造形活動の準備、計画ができるようになる 2 画材道具について理解し、様々な素材や表現の仕方を工夫することができる 3 造形用語の基礎や、海外の造形活動を理解し、子どもの表現を適切に援助することができるようになる			
授業開始前学習	造形表現活動に必要な基本的な道具・画材を揃えておくこと。			

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：色彩感覚を養うことについて
予習：授業のシラバスと到達目標を確認する。
復習：活動についてノートにまとめる
- 2
授業：色遊びについて
予習：材料と道具を準備する
復習：活動についてノートにまとめる
- 3
授業：色彩学について
予習：材料と道具を準備する
復習：活動についてノートにまとめる
- 4
授業：シュタイナーの造形活動について
予習：材料と道具を準備する
復習：活動についてノートにまとめる
- 5
授業：モンテッソーリの造形活動について①：基礎
予習：材料と道具を準備する
復習：活動についてノートにまとめる
- 6
授業：モンテッソーリの造形活動について②：応用
予習：材料と道具を準備する
復習：活動についてノートにまとめる
- 7
授業：レッジョ・エミリア・アプローチについて①：基礎
予習：材料と道具を準備する
復習：講義についてノートにまとめる
- 8
授業：レッジョ・エミリア・アプローチについて②：応用
予習：材料と道具を準備する
復習：講義についてノートにまとめる
- 9
授業：プロジェクト型保育について①：話し合い
予習：材料と道具を準備する
復習：活動についてノートにまとめる
- 10
授業：プロジェクト型保育について②：計画
予習：幼児の造形作品を鑑賞する
復習：講義についてノートにまとめる
- 11
授業：プロジェクト型保育について③：制作

予習：材料と道具を準備する
復習：活動についてノートにまとめる
1 2
授業：プロジェクト型保育について④：発表
予習：材料と道具を準備する
復習：活動についてノートにまとめる
1 3
授業：卒園制作について①：基礎
予習：材料と道具を準備する
復習：活動についてノートにまとめる
1 4
授業：卒園制作について②：応用
予習：材料と道具を準備する
復習：活動についてノートにまとめる
1 5
授業：子どもの豊かな感性を育む造形活動について
予習：2年間の造形活動を振り返る
復習：講義についてノートにまとめる

テキスト・教材	授業内で適宜紹介する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） 松家まきこ編集，鈴木範之編集，『実践心ふれあう子どもと表現』（みらい）

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	○○○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○○○
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	○○○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○○○
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○○○○
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○○○○
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	○○

課題のフィードバック	グループワークレポート（講評会にてフィードバックする）・作品（造形展にて講評する）
評価の基準と方法	造形ノート 30%、グループワークレポート 30%、作品 30%、授業への参加態度 10%
関連科目	保育内容「造形表現 I」、造形指導法 I、造形指導法 II、造形 I
その他	学生が積極的に「表現と遊び」について探究することを期待する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

乳児保育 I

科目名称	乳児保育 I	科目分類	B37 保-1 (J)
担当教員	市野 繁子	授業区分	講義
研究室	16-302	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:30～12:00
授業のテーマ・内容	<p>社会の状況が変化する中で、乳児保育の需要が高まり、乳児保育の形態も多様化し、保育の質の向上が求められている。本授業では、生涯発達のスタートとなる最も重要な乳児期の子どもを保育する「乳児保育」の基礎的な知識を深めることを目的としている。保育者として、子どもたちの健やかな成長・発達を支援するためには、3 歳未満児の発達の主な特徴を理解し、発達に即した生活や遊びの理解を深めていくことが重要である。また、時代の変化に伴い、「乳児保育」の変遷を学ぶことにより、現代社会における乳児保育のあり方や課題について学んでいく。</p>		
到達目標	<p>本授業の到達目標として以下の 4 点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解できるようになる。 2 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できるようになる。 3 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できるようになる。 4 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できるようになる。 		
授業開始前学習	<p>既習の学習を踏まえて、乳児とは、乳児保育とは、対象年齢や発達について事前に学習しておきましょう。 自分が住んでいる地域では、どのような形態の乳児保育が行われているかを調べておきましょう。</p>		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業：乳児保育とは何か、乳児保育の意義や目的、役割
 予習：教科書第 1 章 1 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
 復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
- 2
 授業：「保育所保育指針」における乳児保育の理念と概要
 予習：『保育所保育指針』をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
 復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
- 3
 授業：乳児保育の歴史と変遷
 予習：教科書第 1 章 3 コマ目の内容や保育原理の教科書を読んでおく
 復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
- 4
 授業：乳児保育の基礎知識（発達理論編）
 予習：教科書第 1 章 4 コマ目や発達に関する資料を読んでおく
 復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
- 5
 授業：0・1・2 歳児のおおまかな発達の特徴と発達過程
 予習：教科書（pp.35-40）をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
 復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
- 6
 授業：0 歳児の保育内容（グループディスカッション）
 予習：教科書第 1 章 5 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
 復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
- 7
 授業：1 歳以上 3 歳未満児の保育内容（グループディスカッション）
 予習：教科書第 1 章 5 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
 復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
- 8
 授業：乳児保育の実施に関わる配慮事項
 予習：教科書第 1 章 6 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
 復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
- 9
 授業：保育所、認定こども園における乳児保育
 予習：教科書第 1 章 7 コマ目、8 コマ目をよく読んでおく
 復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
- 10
 授業：乳児院における乳児保育
 予習：教科書第 1 章 9 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
 復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる

11	<p>授業：乳児保育が行われるその他の乳児保育</p> <p>予習：教科書第1章 10 コマ目、11 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく</p> <p>復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる</p>
12	<p>授業：子育て支援における乳児保育（グループディスカッション）</p> <p>予習：教科書第1章 12 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく</p> <p>復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる</p>
13	<p>授業：乳児保育における保護者との連携・協働（グループディスカッション）</p> <p>予習：教科書第1章 13 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく</p> <p>復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる。</p>
14	<p>授業：乳児保育における職員間・地域の関係機関との連携・協働（グループディスカッション）</p> <p>予習：教科書第1章 15 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく</p> <p>復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる</p>
15	<p>授業：乳児保育の現状と課題</p> <p>予習：教科書第1章 16 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく</p> <p>復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる</p>

テキスト・教材	松本峰雄監修『よくわかる！保育士エクササイズ5 乳児保育演習ブック[第2版]』ミネルヴァ書房 PP 資料・適宜プリントを配布する。
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる		〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる		〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる		〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる		〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる		〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる		〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	提出された課題等については、授業内で講評を行い、疑問や質問等にも答えるようにする。
評価の基準と方法	定期試験（60％）、小テスト（30％）授業内課題及び授業参加状況（10％）
関連科目	乳児保育Ⅱ、保育の心理学Ⅰ、子どもの食と栄養Ⅰ
その他	主体的に学びが深められる授業参加を望む。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	保育所での実務経験から、保育者の役割の重要性や子どもへの援助や配慮について、事例などを通して、保育現場のイメージが膨らむような授業を展開していく。

乳児保育Ⅱ

科目名称	乳児保育Ⅱ	科目分類	B37 保-2 (J)
担当教員	市野 繁子	授業区分	演習
研究室	16-302	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:30～12:00
授業のテーマ・内容	本授業では、乳児保育Ⅰや保育実習Ⅰ（保育所）での実習を踏まえて、3歳未満児の保育について、具体的に低年齢児の保育をイメージしながら実践力を身につけていくことを目的としている。0・1・2歳児の主な発達過程や特徴を捉え、一人一人の子どもに寄り添いながら、養護と教育の一体性を踏まえた、生活の援助や遊びの環境について学びを深めていく。また、乳児保育の具体的な計画の立案や、模擬授業を通して3歳未満児クラスでの実践に向けて、実践力の向上を目指す。		
到達目標	<p>本授業の到達目標として以下の4点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 3歳未満児の発育・発達過程や特徴を踏まえた援助や関わりの方針について理解する。 2 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3 乳児保育における配慮の実践について、具体的に評価・改善を考えることができる。 4 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に作成することができる。 		
授業開始前学習	<p>保育実習Ⅰ（保育所）の実習で得た経験を思い出し、3歳未満児との関わりを課題を考えておきましょう。</p> <p>3歳未満児の主な発達の特徴を捉えるために、さまざまな資料から乳児の姿を見ておきましょう。</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1			
授業：授業ガイダンスと乳児保育Ⅰの振り返り			
予習：1年次の乳児保育の授業の内容を復習しておく			
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる			
2			
授業：6か月未満の子どもの育ちと保育内容①			
予習：教科書17コマ目(pp.134-141)をよく読み、新生児に見られる反射行動について調べておく			
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる			
3			
授業：6か月未満の子どもの育ちと保育内容②			
予習：教科書18コマ目(pp.142-149)をよく読み、6か月未満の子どもの睡眠・栄養摂取・排泄・着替え等について調べておく			
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる			
4			
授業：6か月以上1歳未満児の子どもの育ちと保育内容①			
予習：教科書19コマ目(pp.150-155)をよく読み、乳児期前期から後期までの運動発達、手指の発達、言語発達、対人関係について調べておく			
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる			
5			
授業：6か月以上1歳未満児の子どもの育ちと保育内容②			
予習：教科書20コマ目(pp.156-163)をよく読み、乳児期後期の睡眠と排泄、離乳の開始、衣服と着替え、安全、遊びについて調べておく			
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる			
6			
授業：1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容①			
予習：教科書21コマ目(pp.164-169)をよく読み、1歳以上2歳未満の子どもの身体の育ち、心と言葉の育ちについて調べておく			
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる			
7			
授業：1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容②(ロールプレイ)			
予習：教科書22コマ目(pp.170-175)をよく読み、1歳児の睡眠・食事・排泄(トイレトレーニング)着替え、安全、遊びについて調べておく			
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる			
8			
授業：2歳～3歳の子どもの育ちと保育内容①			
予習：教科書23コマ目(pp.176-183)をよく読み、2歳～3歳の子どもの身体の育ち、心と言葉の育ちについて調べておく			
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる			
9			
授業：2歳～3歳の子どもの育ちと保育内容①			
予習：教科書24コマ目(pp.184-188)をよく読み、2歳児の睡眠・食事・排泄・着替え・安全・遊びについて調べておく			
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる			
10			
授業：乳児保育における指導計画			
予習：教科書25コマ目(pp.192-201)をよく読み、乳児保育における短期指導計画と長期指導計画について調べておく			

<p>復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる</p> <p>11</p> <p>授業：指導計画立案①（グループワーク）</p> <p>予習：グループ内で決めた内容を具体的に立案できるように内容を考える</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる</p> <p>12</p> <p>授業：指導計画立案①（グループワーク）</p> <p>予習：グループ内で決めた内容を具体的に立案できるように内容を考える</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる</p> <p>13</p> <p>授業：指導計画にもとづいた模擬授業（グループ発表）①</p> <p>予習：模擬授業に向けた練習を行う</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる</p> <p>14</p> <p>授業：指導計画にもとづいた模擬授業（グループ発表）②</p> <p>予習：模擬授業に向けた練習を行う</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる</p> <p>15</p> <p>授業：子どもの生活と遊びが豊かになる環境と集団生活における今後の課題</p> <p>予習：半期の学習を振り返り、自身の課題を見直しておく</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる</p>

テキスト・教材	松本峰雄監修『よくわかる保育士エクササイズ乳児保育演習ブック第2版』ミネルヴァ書房 2019
参考書	茶々保育グループ社会福祉法人あすみ福祉会編『養成校と保育室をつなぐ理論と実践—見る・考える・創り出す乳児保育Ⅰ・Ⅱ』明文書林 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○○○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○○○○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	○○○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○○○
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	○○○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○○○
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○○○

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇
課題のフィードバック	提出された課題等については、授業内で講評を行い、疑問や質問等にも答えるようにする。
評価の基準と方法	授業内課題（20%）手作りおもちゃ作成課題（30%）最終レポート（50%）
関連科目	乳児保育Ⅰ、保育の心理学Ⅱ、子どもの食と栄養Ⅱ
その他	主体的に学びが深められる授業参加を望む。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	保育所での実務経験から、保育者の役割の重要性や子どもへの援助や配慮について、事例などを通して、保育現場のイメージが膨らむような授業を展開していく。

特別な支援を要する子どもの理解と支援 I

科目名称	特別な支援を要する子どもの理解と支援 I	科目分類	B36 両-1 (J)
担当教員	田口 禎子	授業区分	演習
研究室	16-307	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10
授業のテーマ・内容	様々なタイプの障害について、生理・病理・心理などの問題を含む発達の観点と教育制度・教育課程・指導法など教育の観点から講義を行う。		
到達目標	近年インクルージョンの理念が世界的に普及し、特別支援教育は重要な教育課題になっている。そのような流れの中で、子どもの教育や保育に関わる者すべてが特別なニーズを持つ子どもについて正しく理解し、適切な対応ができるようになることが求められている。本講義ではそのような要請に応えるべく、障害のある子どもの発達と教育に関する知識を身につける。また、障害の疑似体験や介助方法の実践を通して、インクルーシブ保育を行うための基本的な技能を身につける。		
授業開始前学習	テキストを購読し、適宜、読み進めておくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
 授業：講義の全体内容の説明、特別支援教育の意義と目的
 予習：教科書 P10～19 を読み、要点をノートに整理する
 復習：障害概念の変遷やインクルーシブな社会について説明する
- 2
 授業：子どもの発達と障害
 予習：教科書 P20～29 を読み、自分なりに考えをノートにまとめる
 復習：特別支援教育の概要について、要点をノートに整理する
- 3
 授業：特別支援教育の制度と歴史
 予習：教科書 P30～38 を読み、自分なりに考えをノートにまとめる
 復習：特別支援教育のシステムについて、要点をノートに整理する
- 4
 授業：障害の理解① 視覚障害（ロールプレイ）
 予習：教科書 P39 ～45 を読み、前回提示された問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる
 復習：視覚に関する制約と支援について、要点をノートに整理する
- 5
 授業：障害の理解② 聴覚障害（ロールプレイ）
 予習：教科書 P46～57 を読み、前回提示された問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる
 復習：聴覚に関する制約と支援について、要点をノートに整理する
- 6
 授業：障害の理解③ 運動障害（課題解決学習）
 予習：教科書 P58～65 を読み、前回提示した問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる
 復習：運動機能や健康に関する制約と支援について、要点をノートに整理する
- 7
 授業：障害の理解④ 言語・コミュニケーション障害
 予習：教科書 P66～71 を読み、前回提示した問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる
 復習：言語・コミュニケーションに関する制約への支援について、要点をノートに整理する
- 8
 授業：障害の理解⑤ 病弱・虚弱（課題解決学習）
 予習：教科書 P72～81 を読み、前回提示した問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる
 復習：情緒や健康面の問題について、要点をノートに整理する
- 9
 授業：障害の理解⑥ 知的障害（ロールプレイ）
 予習：教科書 P82～90 を読み、前回提示した問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる
 復習：知的機能の制約について、要点をノートに整理する
- 10
 授業：障害の理解⑦ 発達障害（自閉スペクトラム症）
 予習：教科書 P91～99 を読み、前回提示した問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる
 復習：自閉スペクトラム症について、要点をノートに整理する
- 11
 授業：障害の理解⑧ 発達障害（LD）

予習 : 教科書 P100 ~105 を読み、前回提示した問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる	
復習 : 通常の学級での支援のあり方について、要点をノートに整理する	
12	
授業 : 障害の理解⑨ 発達障害 (ADHD)	
予習 : 教科書 P106 ~111 を読み、前回提示した問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる	
復習 : 特別支援教育におけるアセスメントについて、要点をノートに整理する	
13	
授業 : 障害の理解⑩ 重度重複障害	
予習 : 教科書 P58~65 前回提示した問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる	
復習 : 個別の指導計画と教育支援計画について、要点をノートに整理する	
14	
授業 : 支援リソースとの連携	
予習 : 教科書 P119 ~126 を読み、前回提示した問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる	
復習 : 地域の支援リソースを知り、どのような機能があるかをノートに整理する	
15	
授業 : 全講義の振り返り	
予習 : 前回提示した問いについて、自分なりに考えをノートにまとめる	
復習 : 特別支援教育の考え方を保育の場で活かすにはどうしたらよいか考え、ノートにまとめる	
テキスト・教材	橋本創一ら編著『特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育―』(金子書房)
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』(フレーベル館) 厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(フレーベル館)
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	
関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点(感覚)とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇
c3 子どものこころが動くような環境(体験)を用意することができる	〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇

課題のフィードバック	授業内でワークを実施する（授業内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	授業内テスト（50%）、授業で実施するワーク／課題（50%）
関連科目	特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅱ、保育の心理学
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	臨床心理士、公認心理師
実務経験を活かした教育内容	臨床心理士として学校や医療機関で勤務してきた経験から、具体的な事例や実践を示して特別な支援ニーズのある子どもとその支援についての理解を促す授業を展開する。

特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅱ

科目名称	特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅱ		科目分類	B36 両-2 (J)
担当教員	田口 禎子		授業区分	演習
研究室	16-307	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	
授業のテーマ・内容	<p>以下の5点について療育・教育現場の実践（早期発達支援、学校教育、就労、福祉的支援など）と課題、具体的な内容や方法について概説・演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発達障害児の発達と心理特性 2 発達障害児の心理評価とその方法 3 発達障害児の臨床 4 特別支援教育の支援システム 5 周囲の障害理解（保護者支援含む） 			
到達目標	<p>本講義では、知的・発達障害児者の乳幼児期・児童期・青年成人期の姿を紹介し、どのような支援の場や方法、システムがあるのかについて学び、知識を身につける。特に特別支援教育屋障害児臨床の対象となる子どもと接する意識や態度を自覚する中で、特に保育園・幼稚園・通常学級にいる発達障害のある幼児や児童に最適な支援を行うために、関連する基礎的な知識や障害理解の技術を習得する。そして、発達障害児を取り巻く支援システムや現在の状況・課題についても理解を深める。</p>			
授業開始前学習	<p>特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅰの学修内容や保育実習Ⅰ（施設）での経験を振り返る。</p>			
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)				
1				
授業：講義の全体内容の説明、特別支援教育Ⅰの振り返り				
予習：特別支援教育Ⅰの学修内容を振り返り、特別支援教育の意義と目的を考える				
復習：特別支援教育の意義と目的をノートに整理する				
2				
授業：アセスメント（事例研究）				
予習：乳幼児健診について調べ、ノートにまとめる				
復習：発達のアセスメントのプロセスと具体的な方法について、ノートに整理する				
3				
授業：障害児に対する専門的指導技法①（応用行動分析など）				
予習：事前配布資料1を読み、わからない言葉について調べてノートにまとめる				
復習：講義で学んだ専門的指導技法について、ワークシートを使い整理する				
4				
授業：障害児に対する専門的指導技法②（TEACCHなど）				
予習：事前配布資料1を読み、わからない言葉について調べてノートにまとめる				
復習：講義で学んだ専門的指導技法について、ワークシートを使い整理する				
5				
授業：障害児に対する専門的指導技法演習①（視覚的支援ツールの作成とプレゼンテーション）				
予習：事前配布資料2を読み、視覚的支援の例を園内環境から探しノートにまとめる				
復習：視覚的支援についてノートに整理する				
6				
授業：障害児に対する専門的指導技法演習②（グループワークによる感覚統合療法・スヌーズレン体験）				
予習：事前配布資料3を読み、感覚統合とスヌーズレンについて調べてノートにまとめる				
復習：感覚刺激を活用した指導技法について、その目的と機能をノートに整理する				
7				
授業：発達支援（療育）とは—支援の実際と指導カリキュラム—				
予習：事前配布資料4を読み、疑問点をノートにまとめる				
復習：発達障害児者の療育・教育の実際についてノートに整理する				
8				
授業：支援計画の立案と実施（課題解決学習）				
予習：個別の（教育）支援計画と個別の指導計画について調べ、違いをまとめる				
復習：発達支援・指導技法をノートに整理する				
9				
授業：ユニバーサルデザインと障害理解教育				
予習：街の中にある「障害のある人が使いやすい/暮らしやすくなるもの」を見つけ、ノートにまとめる				
復習：障害理解教育についてノートに整理する				
10				

授業：保護者支援（ロールプレイ）
 予習：障害児の保護者への支援のあり方について学ぶ
 復習：保護者支援についてノートに整理する

11
 授業：生涯発達の見点からの各発達期の発達障害の理解と対応－乳幼児期の発達障害の理解と対応
 予習：乳幼児期の発達障害について調べ、その特徴と対応について学ぶ
 復習：乳幼児期の発達的特徴と障害への理解・対応のあり方をノートに整理する

12
 授業：生涯発達の見点からの各発達期の発達障害の理解と対応－学齢期の発達障害の理解と対応
 予習：学齢期の発達障害について調べ、その特徴と対応について学ぶ
 復習：学齢期の発達的特徴と障害への理解・対応のあり方をノートに整理する

13
 授業：生涯発達の見点からの各発達期の発達障害の理解と対応－青年・成人期以降の発達障害の理解と対応
 予習：青年・成人期の発達障害について調べ、その特徴と対応について学ぶ
 復習：青年・成人期の発達的特徴と障害への理解・対応のあり方をノートに整理する

14
 授業：発達障害と地域社会＜QOLと地域に根ざした生活支援など＞
 予習：「QOLを高める」とはどのようなことか調べ、障害のある人の生活支援について学ぶ
 復習：発達障害児者の地域における生活についてノートに整理する

15
 授業：全講義の振り返り
 予習：幼児期における特別な教育的ニーズのある子どもへの支援を行う際、保育・幼児教育の現場でどのような課題があるかを調べ、現状について学ぶ
 復習：保育士として発達障害児に関わるにあたり知っておくべきこと、気をつけることを自分なりに考え、ノートに整理する

テキスト・教材	指定教材なし（必要に応じて資料を配布する）
参考書	橋本創一・渡邊貴裕・林安紀子・久見瀬明日香・工藤傑史・大伴潔・安永啓司・田口悦津子編著『知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム―遊び活動から就学移行・療育支援まで―』（福村出版） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる		〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる		〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる		〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇〇〇

d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇
課題のフィードバック	授業内でワークを実施する（授業内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	授業内テスト（50%）、授業で実施するワーク／課題（50%）
関連科目	特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅰ、保育の心理学
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	臨床心理士、公認心理師
実務経験を活かした教育内容	臨床心理士として学校や医療機関で勤務してきた経験から、具体的な事例や実践を示して特別な支援ニーズのある子どもとその支援についての理解を促す授業を展開する。

科目名称	社会的養護Ⅱ	科目分類	B36 保-2 (J)
担当教員	今井 大二郎	授業区分	演習
研究室	16-310	オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30
授業のテーマ・内容	社会的養護Ⅱは、社会的養護を必要とする子どもやその家庭への支援内容について具体的に学ぶ授業である。社会的養護施設における日常生活支援や治療的支援の実践をはじめ、家庭復帰や社会自立に向けた保育士としてのソーシャルワーク実践についても、事例分析を通してその留意事項や実践に欠かせない視点を学ぶ。そして具体的な知識や技術を養い、子どもやケースに応じた最善の利益追求の実現に努める保育士としての倫理観や責務を醸成していく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理についての視点を身につけることができる 2 対象となる子どもやその家庭の抱えるニーズや課題について説明することができる 3 自立支援計画を基にアドミッションケア～アフターケアにおける実践やその留意点について理解できる 4 保育士としてのソーシャルワーク実践について理解できる 5 家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉と社会的養護との関連について説明することができる 		
授業開始前学習	1 年次の「社会的養護Ⅰ」について学習内容をよく復習すること。加えて、保育実習Ⅰ（施設）の学習内容を振り返り、学んだ知識やスキルを具体的にまとめておくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：支援活動の特性
予習：保育実習Ⅰ（施設）での具体的な学びを振り返りまとめる
復習：支援活動とは何か。その特性について配布したレジメを参考にノートにまとめる
- 2
授業：保育士等の倫理及び責務Ⅰ～関連発達理論の重要性～
予習：アタッチメントについて調べノートにまとめる
復習：アタッチメントの二つの重要性についてレジメを参考にノートにまとめる
- 3
授業：保育士等の倫理及び責務Ⅱ～関連発達理論とその実際～
予習：エリクソンの発達課題について調べノートにまとめる
復習：乳幼児期の重要性についてその後の発達課題と関連付けてノートにまとめる
- 4
授業：子ども虐待①（加害する親の実際）
予習：加害する親の傾向について調べノートにまとめる
復習：保護者支援に必要な要素についてノートにまとめる
- 5
授業：子ども虐待②（心身に及ぼす深刻な影響）
予習：子ども虐待についてこれまでの学びをノートにまとめる
復習：被虐待児の行動特性と支援者の治療的ケアについてノートにまとめる
- 6
授業：子どものニーズに沿った社会的養護の専門的技術①（問題行動に対する修正的な支援者のかかわり）
予習：「子どもと向き合う」ということは何か、自分の考えをノートにまとめる
復習：向き合うことに必要な具体的要素についてノートにまとめる
- 7
授業：子どものニーズに沿った社会的養護の専門的技術②（プラスの経験を積み重ねるための支援者の実践）
予習：発達障害についてこれまで学んだことをまとめる
復習：課題がある子どもの伴走者として必要な要素について授業内容を参考にノートにまとめる
- 8
授業：アドミッションケア/インケア/リービングケア/アフターケア
予習：テキスト pp12-15、96-103、122-127 を読み、各課程の保育士の留意事項についてノートにまとめる
復習：自立支援計画書に基づいた各課程の課題についてノートにまとめる
- 9
授業：施設退所児童への支援（自立援助ホーム）
予習：自立援助ホームについて調べノートにまとめる
復習：社会的養護施設を退所した者への支援の重要性についてノートにまとめる
- 10
授業：演習①（子どもの権利について考える～保育士の使命～）
予習：社会的養護Ⅰで学んだ「子ども権利」についてノートにまとめる
復習：支援者の子どもの権利を保障する直接的視点についてノートにまとめる
- 11

授業	： 演習②事例分析～乳児院における家庭復帰支援～（グループディスカッション）
予習	： 乳児院の家庭復帰支援や措置延長について社会的養護Ⅰのレジメを復習しノートにまとめる
復習	： 伴走者としての支援者の留意点についてノートにまとめる
12	
授業	： 演習③保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用：～最善の利益追求の指標～（グループディスカッション）
予習	： 「アカウンタビリティ」「アドボカシー」といった福利理念や用語について調べノートにまとめる
復習	： 福祉理念を具体化する上で必要な支援者の倫理観について自分なりにノートにまとめる
13	
授業	： ソーシャルワークにかかる知識と視点（行政機関の具体的な役割）
予習	： 一時保護に関連する児童福祉法の条文についてノートにまとめる
復習	： 児童相談所の機能と役割について調べノートにまとめる
14	
授業	： 社会的養護の課題と展望～子育て支援と社会的養護～
予習	： 要保護児童対策地域協議会について調べノートにまとめる
復習	： 子ども虐待ケースに対する保育現場の具体的な実践についてまとめる
15	
授業	： 社会的養護における家庭支援～赤ちゃんポストのその後について考える～
予習	： 養子縁組について調べノートにまとめる
復習	： 扱った事例についての子どもの真意について考察しノートにまとめる
テキスト・教材	中山正雄監修『よりそい支える社会的養護Ⅱ』（教育情報出版）
参考書	東京都社会福祉協議会児童部会リービングケア委員会編『Leaving care～児童養護施設職員のための自立支援ハンドブック』
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	授業テーマに応じて小レポートを作成する。（授業内において適宜、講評する）

評価の基準と方法	試験（60％）、小レポートと小テスト（40％）
関連科目	
その他	クリアファイル等を用意し、テーマごとに配布するレジメや資料を適宜整理すること。またテキストと一緒に毎回持参すること。講義に参加するにあたり、板書以外の内容も重要なことを多く伝えるので積極的にメモをとることが肝要である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	児童指導員
実務経験を活かした教育内容	福祉理念や理論の実践例について、支援計画の策定から実践までの過程におけるケアワーカー・ソーシャルワーカーの留意点を踏まえ解説する。

科目名称	教育方法	科目分類	B37 両-1
担当教員	古屋 真	授業区分	講義
研究室	16-313	オフィスアワー	前期 金曜日 12:10～16:10 後期 金曜日 12:10～16:10
授業のテーマ・内容	乳幼児期の教育は、「環境を通して行う教育」が基本となる。本授業では、乳幼児期の教育を展開するために必要となる基礎的な知識や技術（保育の営み全般における情報機器及び教材の活用方法も含む）の修得を目指す。保育の循環（子ども理解・計画・実践・評価）にそって、グループによる事例検討を行いながら、子ども理解、指導計画の作成方法、子どもに応じた援助方法や保育の振り返り方について学ぶ。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の4点を挙げる。 1. 子ども理解から始まる保育の基本的な流れを説明することができる 2. 部分実習を見据えた指導計画（案）を作成することができる 3. 子どもの主体的な活動を促す環境構成や言葉かけなどの基礎的な保育技術を身につけることができる 4. 保育記録や要録など、保育を振り返り、記録する意味や方法を理解することができる		
授業開始前学習	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）の第1章第1節「幼児教育の基本」（P.23-48）を読む。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：教育方法（保育方法）の基本的な考え方を学ぶ
予習：『幼稚園教育要領』のP.5を要約する
復習：保育の循環（子ども理解・計画・実践・評価）をノートにまとめる
- 2
授業：子ども理解①：子どもの姿を捉える視点や態度を学ぶ（グループによる事例検討を含む）
予習：子どもの遊びを観察し、遊びの様子をノートに書き出す
復習：遊びや活動から子どもの想いを読み取る視点や態度についてノートにまとめる
- 3
授業：子ども理解②：子どもの発達を見取る視点を学ぶ
予習：「保育の心理学」の学修内容を振り返り、疑問点をノートに書き出す
復習：「身体・運動・習慣」「操作・認知」「言葉・社会性」の観点から、0歳～6歳までの子どもの発達をノートにまとめる
- 4
授業：子ども理解③：個と集団を生かした保育を学ぶ（グループによる事例検討を含む）
予習：子どもの遊びを観察し、一人遊びと集団遊びの様子をノートに書き出す
復習：個と集団の関係性やそれらの活用方法をノートにまとめる
- 5
授業：指導計画の作成①：指導計画の構成要素と作成手順を学ぶ
予習：前時に配付する「指導計画作成の手引き」をよく読み、疑問点をノートに書き出す
復習：指導計画の構成要素と作成手順をノートにまとめる
- 6
授業：指導計画の作成②：「ねらい」と「内容」の関連性を学ぶ（グループによる事例検討を含む）
予習：前時に提示する子どもの姿にそって保育者の願いとメインの活動を考え、素案プリントにまとめる
復習：指導計画における「ねらい」と「内容」の関連性の確認方法をノートにまとめる
- 7
授業：指導計画の作成③：教材研究（パソコン等の情報通信機器や音響・映像機器を活用した教材作成や提示の方法を含む）と活動の展開方法を学ぶ
予習：前時に考えたメインの活動の進め方を導入・展開・まとめの段階別に考え、指導計画（案）プリントにまとめる
復習：指導計画における「導入」「展開」「まとめ」の流れの意味をノートにまとめる
- 8
授業：指導計画の作成④：指導計画における振り返りの視点を考える
予習：前時に計画した活動終了後の子どもの姿を想像し、指導計画（案）プリントにまとめる
復習：保育の循環「子ども理解・計画・実践・評価」を視点に作成した指導計画を振り返る
- 9
授業：保育実践①：子どもの生活や遊びを支える保育を学ぶ（グループによる事例検討を含む）
予習：子どもの遊びを観察し、子どもの学びを5領域ごとにノートに書き出す
復習：遊びを通した総合的な指導の意味をノートにまとめる
- 10
授業：保育実践②：環境構成の技術（子どもが触れる情報環境の在り方と構成方法を含む）を学ぶ
予習：「アフォーダンス理論」の概要をノートに書き出す
復習：環境を通して行う教育の意味と、子どもの主体性を促す環境の要素についてノートにまとめる

11	<p>授業：保育実践③：保育者の言葉かけの技術を学ぶ（グループによる事例検討を含む）</p> <p>予習：保育実習Ⅰ（保育所）において、自分が子どもにかけた言葉かけの場面・内容・意図をノートに書き出す</p> <p>復習：思考を促す言葉かけ（Sustained Shared Thinking）の概要をノートにまとめる</p>	
12	<p>授業：保育実践④：様々な保育主義や保育形態を学ぶ</p> <p>予習：「自由保育」「設定保育」「コーナー保育」の違いをノートに書き出す</p> <p>復習：学修した保育主義や保育形態をノートにまとめる</p>	
13	<p>授業：評価①：保育記録のまとめ方（パソコン等の情報通信機器を用いた保育活動の記録作成の方法を含む）を学ぶ</p> <p>予習：『幼稚園教育要領』のP.5-8を要約する</p> <p>復習：子どもの育ちとそれにかかわる保育者の援助の記録方法をノートにまとめる</p>	
14	<p>授業：評価②：要録のまとめ方を学ぶ</p> <p>予習：幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録について調べ、疑問点をノートに書き出す</p> <p>復習：1年間の保育を要録にまとめる意味についてノートにまとめる</p>	
15	<p>授業：これからの教育方法（保育方法）の在り方を考える：子どもの遊びとアクティブ・ラーニング</p> <p>予習：保育の循環（子ども理解・計画・実践・評価）にそって今までの学修内容をノートに整理する</p> <p>復習：自身の理想とする教育方法（保育方法）をノートにまとめる</p>	
テキスト・教材	特になし	
参考書	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）</p>	
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる		〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇
c3 子どものところが動くような環境（体験）を用意することができる		〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる		〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる		〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる		〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる		〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる		〇

d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇
課題のフィードバック	指導計画（部分案）作成を課す（講義内にて、適宜、講評する） 講義毎に小レポートを課す（翌週の講義内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	講義毎の小レポート（40%）、指導計画（案）（20%）、定期試験（40%）
関連科目	実習、保育の心理学、保育内容系科目、保育・教育課程論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	児童文化 I	科目分類	B37 保-2 (J)
担当教員	伊東 一誉	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>児童文化とは、絵本、児童文学、詩歌、紙芝居、児童演劇など多岐にわたって子どもと関わる文化的活動を指し、乳幼児期の保育において重要な学びの一つである。</p> <p>本授業では、子どもの健やかな成長を支援し豊かな学びを促すために、児童文化の意義と内容を学ぶ。児童文化財を形成するモノ・素材・環境についての基礎的な知識を身につけ、保育の現場を想定した教材やそれを展開するための技能を体験的に学ぶことで、児童文化への理解を深める。</p> <p>また、授業では児童文化にかかわる体験的活動（ブックシアターやペープサート、手作り絵本）に触れるほか、ディスカッションやグループ発表などのグループワークを行う。</p>		
到達目標	<p>本授業の到達目標として、以下の4点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもにとっての児童文化の意義と役割を理解し、説明することができる 2 子どもの発達過程に応じた文化的活動を提案することができる 3 季節や行事・環境等を考慮して、児童文化に触れる活動に取り組むことができる 4 子どもの学びや遊びを豊かにする文化的活動を計画することができる 		
授業開始前学習	<p>テキスト・参考図書等を参考に、指定された持ち物や用具を持参するなど事前準備を行う。</p> <p>児童文化を学ぶ意義について、保育者と子どもの両視点から考える。</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1	<p>授業：保育における児童文化の意義と目的（子どもにとっての児童文化の意義と役割は何かについて理解する）</p> <p>予習：保育者にとって児童文化を学ぶ目的は何かについて意見を整理する</p> <p>復習：授業で配布したプリントから、児童文化を学ぶ意義と役割を見直し、ノートにまとめる</p>		
2	<p>授業：児童文化の歴史と種別について（児童文化のもつ背景や歴史、担ってきた役割や多様な種別を捉える）</p> <p>予習：自身の経験から、保育に用いられる児童文化財の具体例について内容を整理する</p> <p>復習：授業で配布したプリントから、児童文化の歴史と種別についてノートに整理する</p>		
3	<p>授業：子どもの発達過程に応じた児童文化財（グループディスカッション「発達を考慮した具体例を考える」）</p> <p>予習：前回の授業で得た内容から、子どもの発達過程に応じた児童文化財の役割について意見をまとめる</p> <p>復習：グループディスカッションを振り返り、子どもの発達過程に応じた児童文化財の特徴をノートに整理する</p>		
4	<p>授業：ブックシアター実践①（制作「ブックシアターの制作手順を理解し、制作する」）</p> <p>予習：子どもにとっての手遊びの意義を見直し、制作を通じて展開する意義を理解する</p> <p>復習：授業で配布したプリントから、制作の手順と注意点についてノートに整理する</p>		
5	<p>授業：ブックシアター実践②（プレゼンテーション「手作りブックシアターを制作し、発表を行う」）</p> <p>予習：前回の授業における制作手順を見直し、工夫点や注意点について意見をまとめる</p> <p>復習：発表を振り返り、制作活動と他者作品の鑑賞を通じた気づき等をノートに整理する</p>		
6	<p>授業：季節や行事に応じた児童文化財（映像を視聴し、保育の現場における具体事例を捉える）</p> <p>予習：これまでの学びと経験から、保育者として実践する際の疑問点をノートに整理する</p> <p>復習：授業プリントと視聴映像を振り返り、保育の現場の様子から気がついたことについてまとめる</p>		
7	<p>授業：音楽や舞台としての児童文化（音楽や舞台など多方面において展開される児童文化について捉える）</p> <p>予習：自身の経験から、多方面で児童文化に触れた経験についてノートに整理する</p> <p>復習：授業で配布したプリントから、児童文化の多様な展開と具体事例についてノートに整理する</p>		
8	<p>授業：ペープサート実践①（制作・グループワーク「制作の手順を理解し、役割を分担して制作を行う」）</p> <p>予習：音楽や舞台にかかわる児童文化について見直し、制作を通じて展開する意義を理解する</p> <p>復習：授業で配布したプリントから、制作の手順と注意点についてノートに整理する</p>		
9	<p>授業：ペープサート実践②（グループワーク・プレゼンテーション「役割を分担して制作を行い、発表する」）</p> <p>予習：前回の授業における制作手順を見直し、工夫点や注意点について意見をまとめる</p> <p>復習：プレゼンテーションを振り返り、制作と発表に対する改善点をノートに整理する</p>		
10	<p>授業：児童文化財の使用と保管（映像を視聴し、保育の現場における児童文化財の実際や扱い方について捉える）</p>		

予習：これまでに学んだ知識や経験から、保育の現場における児童文化財の使用に関する注意点について意見をまとめる
 復習：授業プリントや視聴した映像を通して、気が付いたことをノートに整理する

11
 授業：絵本実践①（制作「手作り絵本の制作手順を理解し、図案を作成する」）
 予習：これまでに学んだ知識や経験から、子どもにとっての絵本の意義や役割を説明できるようにする
 復習：授業の中で作成した図案をもとに、制作にあたって必要な材料・用具についてノートに整理する

12
 授業：絵本実践②（制作「前回の授業で作成した図案をもとに、手作り絵本の制作を行う」）
 予習：前回の授業で制作した図案を見直し、制作にあたって必要な材料・用具をそろえる
 復習：実際に制作を通して得られた知見から、改善点をノートに整理する

13
 授業：絵本実践③（プレゼンテーション「手作り絵本の発表と他者作品の鑑賞を行う」）
 予習：前回の授業で制作した手作り絵本について、工夫点や改善点を説明できるようにする
 復習：プレゼンテーションを振り返り、手作り絵本の意義や役割についてノートに意見をまとめる

14
 授業：保育における児童文化の展開（幼児期にかかわる児童文化から自然や社会への関りを捉える）
 予習：これまでの学びと経験から、児童文化を通じて豊かになる関係性や体験について意見をまとめる
 復習：授業で配布したプリントから、児童文化による関りの多角的な側面をノートに整理する

15
 授業：児童文化と就学後の展開（映像を視聴し、就学前～就学までの児童文化の展開を捉える）
 予習：これまでの学習を振り返り、子どもの発達過程に応じた児童文化の事例を見直す
 復習：授業で配布したプリントから、子どもにとっての児童文化の意義をノートに整理する

定期試験は実施しない。

テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する。
---------	------------------

参考書	槇英子『保育をひらく造形表現』明文書林 宮地明子著『12か月の製作あそびアイデア Book』ナツメ社 町田里美著『0・1・2歳児のかんたん製作あそび 12か月』ナツメ社
-----	--

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○○○○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	○○○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○○○
c3 子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	○○○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○○○
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○○

d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇
課題のフィードバック	ブックシアター、ペープサート、絵本、レポートを作成する課題を課す（授業内において、適宜、講評する）。
評価の基準と方法	授業毎の小テスト・提出課題(70%)、最終レポート(30%)
関連科目	
その他	学生の主体的な参加を望む。また、制作においてはハサミと糊を持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	児童文化Ⅱ	科目分類	B37 保-2 (J)
担当教員	岡田 哲也	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>子ども達の遊びを育むには、保育者自身がその遊びを理解し、「楽しむ力」が必要である。また自ら遊びを「作り出す力」や、子ども達の見つける遊びに「共感する力」が、多種多様な遊び環境を豊かにする。</p> <p>本授業では様々なジャンルのおもちゃを題材として、また身近な素材を活用した手作りおもちゃの作成を通じて、この3つの力を実践し理解を深め、目の前にいる子どもに合わせて遊びを変えていけるチカラ＝「おもちゃのアレンジ力」を身に付ける。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 自ら遊び、その楽しさを子ども達に伝えることができるようになる 2 遊びの要素を見つけ、作り出す考え方を身に付けることを目標とする 3 色/カタチ/機能などおもちゃの要素から、遊びを作り出す事ができるようになる 4 ブロックや積み木での表現活動を通じて、想像力・創造力を養う 5 遊びを通じて、他者と関わるコミュニケーションを深めることができるようになる 6 おもちゃと絵本のつながりについて理解が深まる 7 身近な材料から、おもちゃを作る技術を習得する 		
授業開始前学習	NPO 法人 芸術と遊び創造協会及び東京おもちゃ美術館の HP から確認しておく。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：オリエンテーション/本講座の流れと授業の進め方について
予習：芸術と遊び創造協会/東京おもちゃ美術館について、HP などを通じて調べておく
復習：授業の内容をレポートにまとめる
- 2
授業：おなじおもちゃをみんなで遊ぶ① - 見立てあそび - (グループワーク)
予習：見立て遊び、ごっこ遊びについて調べ、レポートにまとめる
復習：色々な見立てができる素材はどのようなものか考え、レポートにまとめる
- 3
授業：おなじおもちゃをみんなで遊ぶ② - 変身あそび - (グループワーク)
予習：世の中の顔に見えそうなものを写真に撮る
復習：身の回りの世界を観察し、変身遊びができそうなものを考え、レポートにまとめる
- 4
授業：遊びを広げるヒントについて考える① - おもちゃパフォーマンスを通じて - (ディスカッション)
予習：良いおもちゃとは何か？について考え、ノートに自身の考察をまとめる
復習：遊びを広げるヒントについて考え、レポートにまとめる
- 5
授業：遊びを広げるヒントについて考える② - アナログゲームを通じて - (ディスカッション)
予習：子どもの頃に遊んだボードゲーム・カードゲームを振り返り、レポートにまとめる
復習：ゲームを構成する要素について考え、レポートにまとめる
- 6
授業：手作りおもちゃ実習① - 紙コップを使った手作りおもちゃ - (グループワーク)
予習：手作りおもちゃの良いところについて考え、レポートにまとめる
復習：紙コップを使って、他にどのような遊びを作ることができるか考え、レポートにまとめる
- 7
授業：手作りおもちゃ実習② - 紙皿を使った手作りおもちゃ - (グループワーク)
予習：手作りおもちゃの良いところについて考え、レポートにまとめる
復習：紙皿を使って、他にどのような遊びを作ることができるか考え、レポートにまとめる
- 8
授業：色とカタチから遊びを見つける - チェーン遊び - (ロールプレイ)
予習：課題おもちゃの色・形・機能について考え、レポートにまとめる
復習：他のおもちゃの色・形・機能について考え、レポートにまとめる
- 9
授業：積み木を使った表現遊び - おくことから始まる遊びの世界 - (ロールプレイ)
予習：積み木の特徴について考え、レポートにまとめる
復習：他にどのような種類の積み木があるか調べ、レポートにまとめる
- 10
授業：ブロックを使った表現遊び - 組み合わせから広がるイメージを作る - (ロールプレイ)

予習：ブロックの特徴について考え、レポートにまとめる
 復習：ブロックの活用法について考え、レポートにまとめる

11
 授業：手作りおもちゃ実習③ -江戸時代のカラクリおもちゃを作る-（グループワーク）
 予習：郷土玩具について調べ、レポートにまとめる
 復習：学習した手作りおもちゃの応用を考え、レポートにまとめる

12
 授業：絵本とおもちゃが会ったら -子ども達のそばにあるものがつながる世界-（ディスカッション）
 予習：絵本の良いところについて考え、レポートにまとめる
 復習：手持ちの絵本やおもちゃのつながりについて考え、レポートにまとめる

13
 授業：課題おもちゃで遊びを深める ①（プレゼンテーション）
 予習：遊びを広げるヒントについて考え、レポートにまとめる
 復習：課題おもちゃとつながりを感じる絵本について考え、レポートにまとめる

14
 授業：課題おもちゃで遊びを深める ②（プレゼンテーション）
 予習：課題おもちゃとつながりを感じる絵本について考える
 復習：おもちゃと絵本のつながりについて考え、レポートにまとめる

15
 授業：最終レポート作成 - これまでの授業を振り返って -
 予習：これまで提出したレポートを読み直し、どのような気づきが生まれたかをまとめる
 復習：おもちゃと子ども・大人との関係について考え、レポートにまとめる

テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する
---------	-----------------

参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
-----	--

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇

d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇
課題のフィードバック	毎回予習を用紙にまとめ、授業のはじめに提出をしてもらいます。 確認後、授業の中で講評やディスカッションのテーマとして活用します。 授業終了後に気づきや感じた事等記入をしてもらいます。
評価の基準と方法	課題提出物（30%）、授業内グループ活動への取組姿勢（20%）、最終レポート内容（50%）
関連科目	造形 I・II、保育内容系科目
その他	履修希望者多数の場合は、抽選を行います（最大 50 名）
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	認定 NPO 法人 芸術と遊び創造協会 人材育成部 東京おもちゃ美術館 ディレクター おもちゃコンサルタント
実務経験を活かした教育内容	おもちゃを通じて子ども達と関わるポイントや、手作りおもちゃの指導などを実践的に取り入れ、学生自身が遊びを理解し、子ども達が作り出す遊びに共感できる授業を展開していく。

科目名称	保幼小接続	科目分類	B36 保-2
担当教員	木下 茂昭	授業区分	講義
研究室	16-304	オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30
授業のテーマ・内容	1989年の小学校学習指導要領改訂により、1・2年生の理科と社会科が廃止され、新たに生活科が設置された。そこで、本講義は1・2年生の理科と社会科廃止の理由、生活科新設の背景と学習内容、幼稚園教育との関連性等について理解を深める。また、制作活動などを通して、生活科の具体的な授業内容について理解することを目的とする。さらに、乳幼児期の教育・保育と小学校の生活の差による「小1プロブレム」についても、理解することを目的とする。		
到達目標	1 1・2年生の社会科と理科が廃止され、生活科ができた背景を知り、生活科の目標や授業内容を学ぶと共に、幼稚園や保育園との関連性などを理解する。 2 「小1プロブレム」といわれている小学校1年生の問題点とその解決方法を学び、保育活動に役立てることができるようになる。		
授業開始前学習	春の身近な動植物、幼児の身近な玩具などについて調べておく。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：小学校学習指導要領の変遷
予習：小学校学習指導要領と幼稚園教育要領を読み比べる
復習：指導要領の変遷と教育内容についてまとめる
- 2
授業：低学年の理科と社会
予習：低学年の理科と社会科の学習内容について調べる
復習：低学年の理科と社会科の問題点についてまとめる
- 3
授業：生活科新設の背景
予習：低学年の理科と社会科の問題点について調べる
復習：生活科新設の背景についてまとめる
- 4
授業：生活科の目標（1）1年 小学校学習指導要領（生活編 P.8-22）

予習：生活科の学習内容 1年(自分自身・自然との関わり・社会との関わり)について調べる
復習：生活科1年の目標と学習内容についてまとめる
- 5
授業：生活科の目標（2）2年 小学校学習指導要領（生活編 P.8-22）
予習：生活科の学習内容 2年(自分自身・自然との関わり・社会との関わり)について調べる
復習：生活科2年の目標と学習内容についてまとめる
- 6
授業：生活科の学習内容（1）（学校・家庭・地域と生活） 小学校学習指導要領（生活編 P.23-36）
予習：小学校・家庭・地域生活について調べる
復習：子どもの生活環境と学校についてまとめる
- 7
授業：生活科の学習内容（2）（公共物・公共施設の利用） 小学校学習指導要領（生活編 P.36-41）
予習：子どもを取り巻く公共物・施設について調べる
復習：躰と公共物についてまとめる
- 8
授業：生活科の学習内容（3）（季節の変化と生活） 小学校学習指導要領（生活編 P.41-43）
予習：季節の変化に伴う子どもの生活の変化について調べる
復習：季節の変化と生活の変化についてまとめる
- 9
授業：生活科の学習内容（4）（自然やものを使った遊び） 小学校学習指導要領（生活編 P.41-43）
予習：遊び道具の作り方を調べる
復習：遊び道具の作り方の整理する
- 10
授業：生活科の学習内容（5）（動植物の飼育・栽培） 小学校学習指導要領（生活編 P.43-46）
予習：学校で飼っている動物、栽培している植物を調べる
復習：小動物の飼育・栽培の方法についてまとめる

11	授業：生活科の学習内容（6）（生活や出来事の交流） 小学校学習指導要領（生活編 P.46-48） 予習：幼児の生活、出来事について調べる 復習：幼児、児童の生活と出来事についてまとめる
12	授業：生活科の学習内容（7）（自分の成長） 小学校学習指導要領（生活編 P.49-51） 予習：出生から児童までの自分の歴史を調べる 復習：学童までの自分の歴史をまとめる
13	授業：幼稚園と小学校の1日の比較について話し合う（小1プロブレム）（グループワーク） 予習：幼稚園生活の内容と時間について調べる 復習：幼稚園生活と小学校生活との差異についてまとめる
14	授業：生活科と幼稚園教育の接点について話し合う（小1プロブレム）（グループワーク） 予習：幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の教科レベルの関連性について調べる 復習：幼稚園教育と小学校教育の共通点と違いについてまとめる
15	授業：幼稚園教育と小学校教育の関連性とまとめ 予習：幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の接続（スタートカリキュラム）について調べる 復習：幼稚園教育と小学校教育の接続や一貫性についてまとめる

テキスト・教材	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省著『小学校学習指導要領（生活編）』（日本文教出版）、森隆夫著『せいかつ』（光村図書）
---------	--

参考書	厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） 講義において適宜紹介する。
-----	--

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	幼稚園・保育園と小学校の生活についてのレポートを課す（授業内にて、適宜、講評する）。
評価の基準と方法	レポート（40%）、試験（60%）
関連科目	保育内容系科目、教育制度論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	音楽基礎 I	科目分類	B76 両-1
担当教員	阿部・松本・森・山本	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>昨今、保育現場における子どもの音楽的表現への支援・指導の本質的なあり方が問われている。</p> <p>保育者として、ピアノでの歌唱伴奏に止まらず、子どもの表現に気づき、育むための包括的な音楽的資質を養うことが必要である。本科目ではピアノ演奏・歌唱の基礎を学ぶとともに、伴奏アレンジや初歩的な音楽理論の学修を通じ、保育者として必要な音楽的感性や表現力を身につける。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 コードネームを理解することができる 2 コードネームに従って、自分なりの伴奏アレンジができるようになる 3 子どもたちの感性を育てるために必要な、基礎的音楽理論を身につけることができる 4 保育現場で求められる弾き歌いができるようになる 		
授業開始前学習	童謡・唱歌などの子どもの歌をインターネットなどで調べ、歌詞を読んでくる。		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1	<p>授業：弾き歌いの基礎を学ぶ：保育現場におけるピアノの弾き歌いの実際</p> <p>予習：テキスト 7 ページを予習する</p> <p>復習：日本語音名、イタリア語音名、英語音名とシャープ、フラットについて理解をする</p>		
2	<p>授業：初歩的な弾き歌いの伴奏法を学ぶ：単音伴奏</p> <p>予習：各自、課題曲の練習</p> <p>復習：単音伴奏について復習をする</p>		
3	<p>授業：コードによる伴奏アレンジの基礎を学ぶ①：メジャーコード</p> <p>予習：課題曲の練習、テキスト 14 ページを予習する</p> <p>復習：任意のメジャーコードを鍵盤で捉えることができるようにする</p>		
4	<p>授業：コードによる伴奏アレンジの基礎を学ぶ②：マイナーコード</p> <p>予習：課題曲の練習、テキスト 19 ページを予習する</p> <p>復習：任意のマイナーコードを鍵盤で捉えることができるようにする</p>		
5	<p>授業：歌詞を読み取り、歌のイメージを描く</p> <p>予習：各自、課題曲の練習 歌詞とイメージについて自身の考えをまとめシートに記入する。</p> <p>復習：各自、課題曲の練習 授業内容を踏まえ歌詞とイメージについてシートに記入する。</p>		
6	<p>授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる①（伴奏パターン 1）</p> <p>予習：各自、課題曲の練習 伴奏パターン 1 の練習を行う。</p> <p>復習：各自、課題曲の練習 伴奏パターン 1 の復習を行う。</p>		
7	<p>授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる②（伴奏パターン 2）</p> <p>予習：各自、課題曲の練習 伴奏パターン 2 の練習を行う。</p> <p>復習：各自、課題曲の練習 伴奏パターン 2 の復習を行う。</p>		
8	<p>授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる③（伴奏パターン 3）</p> <p>予習：各自、課題曲の練習 伴奏パターン 3 の練習を行う。</p> <p>復習：各自、課題曲の練習 伴奏パターン 3 の復習を行う。</p>		
9	<p>授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる④（伴奏パターン 4）</p> <p>予習：各自、課題曲の練習 伴奏パターン 4 の練習を行う。</p> <p>復習：各自、課題曲の練習 伴奏パターン 4 の復習を行う。</p>		
10	<p>授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる⑤（伴奏パターン 5）</p> <p>予習：各自、課題曲の練習 伴奏パターン 5 の練習を行う。</p> <p>復習：各自、課題曲の練習 伴奏パターン 5 の復習を行う。</p>		

11	<p>授業：中間発表表（自らのイメージを作品として発表する）</p> <p>予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。</p> <p>復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。</p>
12	<p>授業：高度な和声進行</p> <p>予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。和声について配布プリントを確認し、疑問点をまとめる。</p> <p>復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。和声について授業内容を踏まえ、シートに記入する。</p>
13	<p>授業：借用和音と転調のパターンを学ぶ</p> <p>予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。借用和音と転調のパターンについて配布プリントを確認し、疑問点をまとめる。</p> <p>復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。借用和音と転調のパターンについて授業内容を踏まえ、シートに記入する。</p>
14	<p>授業：和声の展開形を挿入する</p> <p>予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。和声の展開形について配布プリントを確認し、疑問点をまとめる。</p> <p>復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。和声の展開形について授業内容を踏まえ、シートに記入する。</p>
15	<p>授業：弾き歌い演奏発表</p> <p>予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。</p> <p>復習：各自、発表および15回の授業内容および到達度の振り返りを行い、学修の記録を記入する。</p>

テキスト・教材	細田淳子他編『かんたんメソッド コードで弾きたい 改訂版』（カイ出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、適宜指示する。

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1	学修に必要な基礎学力を活用できる	○
a2	保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○
a3	様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○
a4	物事の本質や良し悪しを見極めることができる	
a5	現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	
a6	状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1	物事をこころに深く感じることができる	○○○
b2	子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	○○
b3	子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○
b4	自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1	「子どもの遊び」の本質を理解している	
c2	子どもと一緒に楽しむことができる	○
c3	子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	○
c4	子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	
c5	子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1	社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	
d2	積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○
d3	信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	
d4	他者と協働して物事を進めることができる	
d5	多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○

d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	○
課題のフィードバック	①演奏発表 ②「学習の記録」の記入 ①、②に対して、学習状況や取り組みを踏まえた振り返り、及び講評、指導を授業内で行う。
評価の基準と方法	演奏発表 50%、練習への取り組み 50%（課題曲の完成度 25%、コードの理解 20%、伴奏アレンジ 5%）
関連科目	音楽基礎Ⅱ、音楽指導法Ⅰ・Ⅱ
その他	日常の練習、予習、復習を怠らないこと。 本科目は実技科目です。正しい姿勢、指使いでピアノ演奏ができるよう、手の爪を伸ばしたまま、ふさわしくない靴等で授業に参加しないよう気を付けてください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	音楽基礎Ⅱ	科目分類	B76 両-2
担当教員	阿部・松本・森・山本	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本科目では、様々な童謡・唱歌等の子どもの歌の弾き歌いを演習する。また、個々の演奏技術に応じたアレンジを元に、自分なりの表現を考え、音楽へのイメージを深めるための基礎的な方法を理解し、それらを弾き歌いで実践する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 音や楽曲に対してイメージを深めることができる 2 保育現場で歌われる様々な曲を弾き歌いで演奏できる 3 歌詞や曲想を理解し、自分なりに表現できる 		
授業開始前学習	童謡・唱歌などの子どもの歌をインターネットや楽譜集などで調べ、メロディと歌詞を予習する		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：音の要素からイメージを膨らませる：音楽の三要素の復習・応用
予習：課題曲の練習、音楽の三要素について音楽基礎Ⅰで学修した内容を復習する
復習：課題曲を、子どもが歌うふさわしいテンポを心がけ練習する
- 2
授業：歌詞の情景を演奏で表現する：歌詞と音楽の関連
予習：課題曲の歌詞の内容を自分なりに分析し、情景を想像しながら弾き歌いの練習をする
復習：ワークシートを用いて曲の情景について理解を深める
- 3
授業：アレンジによる曲想の違いを理解する：基礎的編曲法の理解
予習：メジャーコード、マイナーコードの復習を行う
復習：ワークシートを用いて dim コード、aug コードの復習を行う
- 4
授業：楽曲に対して自分なりのイメージを持つ：編曲法の応用
予習：曲想を踏まえて課題曲の練習を行う
復習：学修の記録を用いて、課題曲への自分なりのイメージやそれを踏まえた演奏法について記述する
- 5
授業：楽曲のイメージを他者と共有するための演奏法を学ぶ
予習：課題曲の練習
復習：前回の授業時に記述した自身の課題曲のイメージを共有することを意識して課題曲を練習する
- 6
授業：子どもの歌のレパートリーを増やす①：大譜表の読譜
予習：ト音記号、ヘ音記号の読譜について復習をする
復習：テキスト 108～123 ページの楽曲を練習する
- 7
授業：子どもの歌のレパートリーを増やす②：楽曲の理解
予習：課題曲の楽譜上の音楽用語、記号を調べる
復習：課題曲の練習、音楽記号の役割とその効果について復習する
- 8
授業：楽曲のイメージを他者と共有するための演奏法を実践する①：演奏中間発表会
予習：課題曲の練習
復習：自己評価表の記入、学修到達度の中間フィードバックを行う
- 9
授業：子どもの歌の伴奏法を学ぶ①：歌唱者を意識した演奏
予習：課題曲の練習
復習：伴奏にふさわしいテンポや演奏法について復習する
- 10
授業：子どもの歌の伴奏法を学ぶ②：前奏・後奏の役割
予習：課題曲に前奏と後奏をつけて練習をする
復習：前奏と後奏の編曲法について復習をする
- 11
授業：豊かな音楽表現の為の音楽理論を学ぶ①：リハーモナイゼーション
予習：テキスト 97 ページの法則①～④を予習する

12
 復習：テキスト97ページの法則①～④を用いて課題曲のリハーモナイゼーションをする
 授業：豊かな音楽表現の為の音楽理論を学ぶ②：コード伴奏のアレンジ理論のまとめ
 予習：これまで培った編曲法の理論を復習する
 復習：課題曲をイメージに基づいてアレンジし、練習する
 13
 授業：子どもの歌のアレンジ：歌詞を意識した発声
 予習：課題曲の伴奏アレンジを複数種類考える
 復習：伴奏アレンジによる曲想の変化を感じ、ワークシートにまとめる
 14
 授業：豊かな表現による演奏法について学ぶ：表現の共有の手立て
 予習：課題曲の自身のイメージや思いをワークシートを用いて文章化する
 復習：課題曲の練習、ワークシートを用いて復習をする
 15
 授業：豊かな表現による演奏法を実践する：演奏発表とまとめ
 予習：他者への発表を意識し、課題曲の練習をする
 復習：15回の授業を振り返り自己評価表を完成させる

テキスト・教材	細田淳子他編『かんたんメソッド コードで弾きたい 改訂版』（カワイ出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、適宜指示する。

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○
c3 子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	
d4 他者と協働して物事を進めることができる	
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	○

課題のフィードバック	①演奏発表 ②「学習の記録」の記入 ①、②に対して、学習状況や取り組みを踏まえた振り返り、及び講評、指導を授業内で行う。
評価の基準と方法	演奏発表 50%、練習への取り組み 50%（課題曲の完成度 25%、コードの理解 20%、伴奏アレンジ 5%）
関連科目	ピアノ演奏法Ⅱ、音楽指導法Ⅰ・Ⅱ
その他	日常の練習、予習、復習を怠らないこと。 本科目は実技科目です。正しい姿勢、指使いでピアノ演奏ができるよう、手の爪を伸ばしたまま、ふさわしくない靴等で授業に参加しないよう気を付けてください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	造形基礎 I	科目分類	B72 両-1
担当教員	山田 佐映子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本授業は、子どもの表現に対する理解を深めることを目的として、自らが描きつくることを遊ぶ授業である。実際の保育現場で使用する素材や道具を用いて、「素材と道具の出会い」から「遊びへの展開」を演習形式で学ぶ。その体験を通し、子どもの成長に伴う遊び方の変化や興味に寄り添える保育者としての技能を身に付ける。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 3 点を挙げる。 1 保育現場で実際に扱う材料や用具の特性を説明できるようになる 2 造形活動の表現の多様さを味わい、その楽しみを子どもに伝えられるようになる 3 子どもの発達や育ちを考慮した遊びとしての造形活動を提案できるようになる		
授業開始前学習	子どもの制作を鑑賞する、または書籍などで触れる。実際の保育現場での造形活動を調べる。 日常から様々な事物（季節の移り変わりや好きな事柄など）に意識を向け、感性を磨く。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

- 1
授業：オリエンテーション：授業の説明
予習：子どもの「表現」とはどのようなものか、考えをまとめる
復習：授業内容を理解しノートにまとめる
- 2
授業：素材と道具の出会い①新聞紙で遊ぶ
予習：新聞紙を使った遊びを調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
- 3
授業：素材と道具の出会い②オイルパステルで遊ぶ
予習：オイルパステルの遊びを調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
- 4
授業：素材と道具の出会い③絵の具で遊ぶ
予習：絵の具の遊びを調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
- 5
授業：素材と道具の出会い④粘土で遊ぶ
予習：粘土の遊びを調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
- 6
授業：素材と道具の出会い⑤シールで遊ぶ
予習：シールの遊びを調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
- 7
授業：技法遊び①スクラッチ
予習：スクラッチについて調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
- 8
授業：技法遊び②スタンプング
予習：スタンプングについて調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
- 9
授業：技法遊び③デカルコマニー
予習：デカルコマニーについて調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
- 10
授業：素材と道具の出会い⑥ハサミの導入と慣れるまで
予習：ハサミの渡し方について調べる
復習：活動内容をノートにまとめる

11	授業：素材と道具の出会い⑦ハサミの連続切りと糊に慣れる 予習：構成遊びについて調べる 復習：活動工程をノートにまとめる
12	授業：素材と道具の出会い⑧ステープラー（ホチキス）で遊ぶ 予習：つなぐ遊びについて調べる 復習：活動工程をノートにまとめる
13	授業：色のイメージを遊ぶ 予習：色について調べる 復習：活動工程をノートにまとめる
14	授業：幼児の描く活動 予習：幼児の描画について調べる 復習：活動工程をノートにまとめる
15	授業：共同遊びと展開 予習：共同遊びについて調べる 復習：活動工程をノートにまとめる

テキスト・教材	鯨島良一、馬場千晶著『つくる・かく・あそぶ こどものアートブック』（日本文教出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		○○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる		○○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		○○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		○○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		○○
c3 子どものところが動くような環境（体験）を用意することができる		○○○
c4 子どもが遊び出したくなるように促すことができる		○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		○○
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる		○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる		○
d4 他者と協働して物事を進めることができる		

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	
課題のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・制作提出を求める（授業内で適宜評価する） ・活動後の小レポートを課す（次回授業内において適宜講評する） ・活動計画表の作成を課す（コメントを付して評価する）
評価の基準と方法	制作への取り組み 50%、活動毎の小レポートと制作（目的への理解） 50%
関連科目	保育内容「造形表現Ⅰ」、保育内容「造形表現Ⅱ」、造形Ⅱ、教育実習
その他	得意不得意に捉われず、自らが表現活動を楽しむこと。実践からの考察をするため、意欲的な姿勢での授業参加を期待する。 様々な素材を扱うため、汚れても良い服装で受講する。欠席した回についても把握して全内容を学ぶ。 活動内容は、進行によりやむを得ず入れ替える場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	造形基礎Ⅱ	科目分類	B72 両-1
担当教員	山田 佐映子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本授業は、子どもが造形遊びと出会い、表現する楽しみを獲得していく過程を演習形式で学ぶ。共同制作を通じて、集団の中で個人の表現を認め合い、アイデアを共有し、実現していく体験をする。実際の準備から活動、片付けまでをグループや全体で協力的に行う。保育と関連付けて、造形活動を支える環境づくりを考えられる思考を持つことを目的とする。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の3点を挙げる。 1 共同制作について進め方を理解し、子どもを導く準備計画をできるようにする 2 展覧会の目的、方法、片付けを学び、保育現場で活用できるようにする 3 保育者として子どもの個人制作、集団制作について活動を考察できるようにする		
授業開始前学習	子どもの制作を鑑賞する、または書籍などで触れる。実際の保育現場での造形活動を調べる。 日常から様々な事物（季節の移り変わりや好きな事柄など）に意識を向け、感性を磨く。		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1 授業：お気に入りの制作を選ぶ 予習：これまでの活動を振り返り、ノートを確認する 復習：制作をまとめる			
2 授業：ダンボールで遊ぶ 予習：ダンボールの特性を調べる 復習：活動工程をノートにまとめる			
3 授業：不定形の見立て遊び 予習：幼児の見立てについて調べる 復習：活動工程をノートにまとめる			
4 授業：発表会招待状づくり①ポップアップカードの仕組みを学ぶ 予習：ポップアップカードについて調べる 復習：カードの仕組みについてノートにまとめる			
5 授業：発表会招待状づくり②ポップアップカードに工夫を凝らすアイデアを出す 予習：カードに必要な材料を調べる 復習：活動工程をノートにまとめる、制作を仕上げる			
6 授業：身体表現発表会の大道具づくり①話し合い（グループワーク） 予習：制作のアイデアを練る 復習：制作における役割分担を決定する			
7 授業：身体表現発表会の大道具づくり②背景の基本構造づくり（グループワーク） 予習：材料の組み立て方を考える 復習：活動工程についてグループで話し合う、今後のスケジュールを計画する			
8 授業：身体表現発表会の大道具づくり③小物の基本構造づくり（グループワーク） 予習：材料の組み立て方を考える 復習：活動工程についてグループで話し合う			
9 授業：身体表現発表会の大道具づくり④塗装（グループワーク） 予習：塗装の役割分担をする 復習：活動工程についてグループで話し合う			
10 授業：身体表現発表会の大道具づくり⑤全体装飾（グループワーク） 予習：構造に適切な材料を調べ、集める 復習：活動工程についてグループで話し合う			
11 授業：身体表現発表会の大道具づくり⑥小物装飾（グループワーク）			

予習：構造に適切な材料を調べ、集める
復習：これまでの活動工程をノートにまとめる

1 2
授業：季節を感じる遊びを体験する：毛糸で遊ぶ
予習：子どもの毛糸遊びを調べる
復習：活動工程をノートにまとめる

1 3
授業：造形展を開く①作品を展示する体験をする（グループワーク）
予習：展示方法のアイデアを考える
復習：今回の展示方法をまとめる

1 4
授業：造形展を開く②作品を鑑賞する体験をする（グループディスカッション）
予習：保育現場の作品展について調べる
復習：鑑賞についてのレポートを書く

1 5
授業：造形活動を振り返り、保育者の役割を考える（グループディスカッション）
予習：1年間の造形活動を振り返る
復習：共有した意見をノートにまとめる

テキスト・教材	鮫島良一、馬場千晶『つくる・かく・あそぶ こどものアートブック』（日本文教出版）
---------	--

参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
-----	---

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	○○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○
c3 子どものところが動くような環境（体験）を用意することができる	○○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○○○
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○○○
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○○
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	○

課題のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・制作提出を求める（授業内で適宜評価する） ・活動毎の小レポートを課す（次回授業内において適宜講評する） ・造形展のレポート作成を課す（コメントを付して評価する）
評価の基準と方法	制作への取り組み・グループへの協力姿勢 50%、活動毎の小レポートと制作（目的への理解） 50%
関連科目	保育内容「造形表現Ⅰ」、保育内容「造形表現Ⅱ」、造形Ⅰ、保育内容「身体表現Ⅱ」
その他	自らが表現活動を楽しむこと。個人制作、グループワークへの意欲的な姿勢を期待する。活動に適当な動きやすい服装で受講する。欠席した回についても把握して全内容を学ぶ。活動内容は、進行によりやむを得ず入れ替える場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

保育実習 I (保育所)

科目名称	保育実習 I (保育所)	科目分類	B37 保-1 (J)
担当教員	市野 繁子・猪熊 弘子	授業区分	実習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>保育所等での実習を通して、保育所の役割と機能について理解を深める。また、観察実習を通して保育所等における保育の環境や保育の内容を理解し、さらに保育の計画や記録の重要性、保育の振り返りや省察について学びを深める。また、参加実習を通して子どもとの関わり方や援助について学び、保育士の専門性や職業倫理、保護者支援、子育て支援についても実践を通して総合的に学びを深めることを目的とする。さらに、次の実習に向けて自分の課題を明確にしていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育所、福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する 2 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める 3 既習の今日科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について総合的に理解する。 4 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する 		
授業開始前学習	<p>保育実習指導の内容を十分把握し、理解不足や準備不足がないように実習準備を整えておく。 保育所等の児童福祉施設でのボランティアやアルバイトを積極的に行い、子ども実際の姿を見ておくことや子どもとの関わりを経験しておくことを勧める。</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションへの参加を通して、保育実習園の概要を知り、実習の意義、目的、内容を理解する 2 保育を必要とする子どもの家庭や保育所の社会的役割について学ぶ 3 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わりを学ぶ 4 子どもの観察とその記録による理解を深める 5 子どもとの関わりを通して発達過程を理解する 5 保育の内容や保育環境について理解する 6 保育士等の援助や関わりを理解する 7 子どもの生活や遊びと保育環境を理解する 8 子どもの発達過程に応じた保育内容を理解する 9 保育の計画に基づく保育内容を理解する 10 保育所における子どもの健康と安全を理解する 11 実習園における全体的な計画や指導計画について理解する 12 記録に基づく省察・自己評価について学ぶ 13 専門職としての保育士の役割とや業務内容について学ぶ 14 職員間の役割分担や連携・協働について学ぶ 15 子どもの最善の利益を考慮し、職業倫理について理解する 			
テキスト・教材	実習ガイドブック		
参考書	<p>・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017 その他、必要に応じて指示する</p>		

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる		〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる		〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる		〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる		〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる		〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる		〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる		〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる		〇
課題のフィードバック	「オリエンテーションに関する報告書」「健康観察表」「自己評価と振り返り」の提出を課す（実習終了後、個別に講評する）。 実習評価は実習終了後、個別面談を通してフィードバックする。	
評価の基準と方法	実習評価（60%）、提出物（実習日誌など）（40%）	
関連科目	保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、実習	
その他	実習期間中は実習園の指導に従うこと	
予習・復習の所要時間		
実務経験の有無	〇	
実務経験の内容	保育士	
実務経験を活かした教育内容	保育所での実務経験を活かし、保育士養成校の実習生に対し、日常業務であるケアワーク及び子どもや、その保護者支援や子育て支援の方法を指導し、また、子どもの権利保護を実践する場であることを伝える。	

保育実習 I (施設)

科目名称	保育実習 I (施設)	科目分類	B37 保-1 (J)
担当教員	今井 大二郎・岡本 啓宏	授業区分	実習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>保育士資格を取得するためには、保育所をはじめとする児童福祉施設等で実習を行うことが必須である。保育実習 I (施設) では、施設の運営を実際に見ることで、自分の配属される施設がどのような支援を提供しているか、保育士の業務内容や職業倫理、施設における子どもの人権や最善の利益の追求がどのように展開されているかについて学ぶ。</p> <p>実習中は巡回指導（遠方の場合は電話による指導）を受け、実習終了後は事後指導を受けることによって、自己の実習の振り返りをし、次の実習課題を明確にしていく。</p>		
到達目標	<p>実習の中で実際に利用児・者や職員とのかかわりを通して、以下の点を到達目標として実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等の役割や機能について具体的に理解する 2 利用児・者の個の理解を深める 3 利用児・者の人権や最善の利益がどのように守られているかを理解する 4 観察力を磨き、記録や支援計画の重要性について理解する 5 利用児・者とかわる中で自己の課題を明確化させる 		
授業開始前学習	先に行った幼稚園・保育所実習によって学んだことや自己の課題について振り返っておくこと。		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<ol style="list-style-type: none"> 1 実習施設でのオリエンテーション 2 児童福祉施設や社会福祉施設の役割・機能について学ぶ 3 利用児・者を理解する 4 一日の流れ(日課)を知る 5 施設における生活と保育士の援助や関わりについて学ぶ 6 保育士の業務内容を理解し実践する 7 多様な専門職の業務内容を理解し、保育士との連携を学ぶ 8 利用児・者の個人差や個々のニーズを把握する 9 支援計画に基づく利用児・者への支援について学ぶ 10 支援計画に基づく利用児・者の家庭に向けた支援について学ぶ 11 施設と地域社会との連携を理解する 12 関係機関・施設とのネットワークについて学ぶ 13 保育士倫理綱領における専門職の職業倫理を確認する 14 実習の中で感じた今後の自己の課題を考える 15 反省会を通して、自己の課題を明確にする(グループディスカッション) 			
テキスト・教材	適宜、資料等を配布する		
参考書	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』(フレーベル館)、厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(フレーベル館) 施設実習は種別が異なるため、その他該当する実習施設の養育指針等を提示する 保育実習 I (施設) に向けた心得と留意事項</p>		

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受けられることができる		〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる		〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる		〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる		〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる		〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる		〇〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることできる		〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる		〇〇〇〇
課題のフィードバック	実習施設の実習評価が戻り次第、個別に評価を伝える。	
評価の基準と方法	実習施設の評価 60%、日誌を含めた提出物 40%、	
関連科目	保育実習指導 I（施設） 保育実習指導 I（保育所）、保育実習 II、III、社会的養護 I、II、社会福祉、子ども家庭福祉	
その他	体調管理に十分留意すること。 実習前の提出物などは、実習指導室前の掲示板をよく確認すること。	
予習・復習の所要時間		
実務経験の有無	○	
実務経験の内容	児童指導員	
実務経験を活かした教育内容	児童福祉施設等での実務経験を活かし、保育士養成校の実習生に対し、日常業務であるケアワーク及び子どもや利用者へ専門的にかかわる方法を指導し、また権利擁護や職業倫理を実践する場であることを教える。	

保育実習Ⅱ

科目名称	保育実習Ⅱ	科目分類	B37 保-2 (J)
担当教員	綾野 鈴子・上出 香波	授業区分	実習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本実習では、保育所の社会的役割や機能について実践を通して理解を深める。また、これまでの実習や既習の学習を振り返り、修得した知識をもとに実践力を向上させていく。さらに、実際に保育現場で働くことをイメージしながら、夢を実現するための自己研鑽に努める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能について、実習を通して理解を深める 2 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで、子どもの姿を見通した指導案の立案や実習日誌を書くことができるようになる 3 これまでの実習での経験と既習の教科内容を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する 4 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する 5 自己の課題を明確にしながらこれからの学びにつなげる 		
授業開始前学習	これまでの実習を振り返り、自分自身の課題を明確するとともに、実習までの間、具体的な計画に添って実践に必要な準備を行う。		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 実習園の概要、保育方針、保育目標、保育環境、保育形態や保育方法について把握する 3 毎日の自己課題を明確にし実習に取り組む 4 保育所の生活の流れや展開を把握する 5 配属クラスにおいて参加実習を行いながら、観察を通して保育士等の援助や関わりを理解する 6 子どもたちと積極的にかかわり、多様な応答のかかわりを体験し、子ども理解を深める 7 子どもたちと積極的に遊び、遊びによる総合的な保育を学ぶ 8 日ごろの子どもの様子を把握し、指導担当保育士による指導のもと、指導案の立案を行う 9 指導案の立案に基づく実践を行う 10 部分実習・責任実習実施後の振り返りと自己評価を行う 11 保育士や他の職員の職務内容や連携等について体験的に学ぶ 12 保育士と保護者関わりを観察し、保育士からの助言をもとに保護者の思いと支援内容を理解する 13 家庭や地域との連携や協働について学ぶ 14 実習の振り返りと自己評価を行う 15 自己課題の明確化 			
テキスト・教材	授業内で適宜資料を配布する。		
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 文部科学省『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）		

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる		〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる		〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる		〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる		〇〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる		〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる		〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる		〇〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる		〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる		〇〇〇〇
課題のフィードバック	オリエンテーションに関する報告書、健康観察表、自己評価と振り返りの 3 点をまとめ提出すること。これらは実習終了後、個別に講評する。また、実習評価は実習終了後に個別面談等を通してフィードバックする。	
評価の基準と方法	実習評価（60%）日誌及び提出物（40%）	
関連科目	保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ、Ⅱ	
その他		
予習・復習の所要時間		
実務経験の有無	○	
実務経験の内容	保育士 幼稚園教諭	
実務経験を活かした教育内容	保育現場での実務経験を活かし、子どもへの保育、子育て支援等について具体的な援助や方法を示し、実践力を高められるような指導をおこなう	

保育実習Ⅲ

科目名称	保育実習Ⅲ	科目分類	B37 保-2
担当教員	今井 大二郎	授業区分	実習
研究室	16-310	オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30
授業のテーマ・内容	<p>保育実習Ⅲは保育士資格の選択必修科目である。2年次に児童福祉施設や社会福祉施設などで2週間の実習を行う。実習それ自体がアクティブラーニングとなり、現場保育士等の支援者と連携・協力しながら学んでいく。保育所を除く児童福祉施設や社会福祉施設に関する知識を深め、子どもや利用者の養護、支援方法、支援計画等を理解する。また、施設保育士の日常生活におけるケアワークを実践し、保護者支援や地域社会との連携も含めた自立支援に関するソーシャルワークについても学ぶ。実習施設の指導の下に、これまで学習したことを実践する。</p>		
到達目標	<p>到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設や社会福祉施設における支援方法を学び、実践できるようになることを目標とする。 2 入所あるいは通所の利用児・者と生活を共にして理解を深め、適切な支援ができるようになる。 3 施設と関係機関、地域社会との関係について学び、包括的支援に目を向けることができるようになる。 4 保育士の多様な業務と、最善の利益の追求を含めた職業倫理について理解する。 5 実習を通して保育士としての自己の課題を明確化できるようになる。 		
授業開始前学習	<p>自分の実習する施設について、自主的に調べ準備しておく。施設保育士としての適性をよく熟慮してから実習に臨むこと。施設に関する文献や資料を読んでおく。</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<ol style="list-style-type: none"> 1 実習施設でのオリエンテーション 2 児童福祉施設や社会福祉施設の役割・機能について学ぶ 3 子どもや利用者を理解する 4 一日の流れ(日課)を知り、子どもや利用者とともに活動する。 5 養護、発達支援、訓練等の現状を学ぶ 6 保育士の業務内容を理解し実践する 7 多様な専門職の業務内容を理解し、保育士との連携を学ぶ 8 子どもや利用者の個人差や個々のニーズを把握する 9 子どもや利用者への日常生活の支援を行う 10 子どもや利用者の家庭との連携について学ぶ 11 施設と地域社会との連携を理解する 12 関係機関・施設とのネットワークについて学ぶ 13 専門職の職業倫理を理解する 14 個別支援計画の立案方法について学ぶ 15 報告反省会を通して、自己の課題を明確にする(グループディスカッション) 			
テキスト・教材	使用しない		
参考書	施設実習は種別が多岐にわたるため、該当する実習施設の養育指針等の資料を適宜提示する。		
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度	
関連度			
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力			

a1	学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇
a2	保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3	様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4	物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇
a5	現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6	状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B	表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1	物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2	子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇〇〇〇
b3	子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇
b4	自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇
C	遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1	「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇
c2	子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3	子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇
c4	子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5	子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇
D	人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1	社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇〇
d2	積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3	信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4	他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5	多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6	大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	実習施設の実習評価が戻りしたい、個別に評価を伝える。今後施設に就職した際に、評価の高い技術等を活かし、努力すべき点を改善できるよう話し合う機会を設ける。	
評価の基準と方法	実習施設の評価 60%、 日誌等の記録や提出物 40%	
関連科目	保育実習指導Ⅲ、保育実習Ⅰ（施設）、社会的養護Ⅰ、Ⅱ、特別支援教育	
その他		
予習・復習の所要時間		
実務経験の有無		
実務経験の内容	児童指導員	
実務経験を活かした教育内容	支援計画の策定からPDCAサイクルに基づく実践まで、支援者の具体的な留意点を踏まえ、実習中に必要な実習生の学びについて指導する。	

保育実習指導 I (保育所)

科目名称	保育実習指導 I (保育所)	科目分類	B37 保-1 (J)
担当教員	市野 繁子・猪熊 弘子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>本授業では、1年次の保育実習 I (保育所) のための事前及び事後の指導、並びに本学の実習全体を見通した学外実習のための準備を行っていく。実習事前指導では、実習実施に伴う文書の作成、観察実習・参加実習における実習日誌の書き方、オリエンテーションの受け方や実習時のマナー等、実習に関する基礎知識及び、子どもとの関わりを見通した保育技能の習得を目指す。事後指導においては、自己の振り返りとして自己評価を行い、反省報告会で得た学びを次の実習の課題や目標へとつなげていく。また、保育所保育指針に記載されている内容の理解や具体的な子どもとの関わりについて学びを深めることを目的とする。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義・目的を理解する。 2 実習の事前指導を通して、自分の課題を明確にする。 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務などについて理解する。 4 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の振り返りと自己評価を行い、次の実習に向けての課題や学習目標を明確にする。 		
授業開始前学習	<p>日常生活の中で、子どもの姿を意識して観察するよう心掛ける。また、保育所等の児童福祉施設でのボランティアやアルバイトなどを積極的に行い、子どもの実際の姿を観察し、子どもと関わる経験をしておくことを勧める。</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1	<p>授業：保育実習 I (保育所) の意義・目的及び内容と方法 予習：実習ガイドブックに目を通し、必要な事項はノートにまとめる 復習：配布プリント等を確認し、保育実習 I (保育所) の意義や目的を理解しておく</p>		
2	<p>授業：保育実習の心構えと概要 予習：実習ガイドブックに目を通し、必要な事項はノートにまとめる 復習：配布プリントを確認し、実習に対する心構えや実習の流れを理解しておく</p>		
3	<p>授業：子どもの人権と最善の利益の考慮、保育士の職業倫理 予習：保育所保育指針を読み、子どもの最善の利益についてノートにまとめる 復習：配布資料を確認し、理解できなかった内容を確認しておく</p>		
4	<p>授業：保育所実習の一日の流れ (DVD 視聴、ペアワーク) 予習：テキスト pp.2-11 を読み、内容をまとめる 復習：ビデオレポートを作成する</p>		
5	<p>授業：保育所実習に備えた実技準備 (絵本・手遊びノートの作成) 予習：絵本や手遊びを調べてノートにまとめる 復習：配布資料を確認し、発表のための準備をする</p>		
6	<p>授業：保育所実習に備えた実技演習① (グループワーク) 予習：絵本の読み聞かせ、紙芝居の発表準備や練習をする 復習：演習の内容をノートにまとめる</p>		
7	<p>授業：保育所実習に備えた実技演習② (グループワーク) 予習：絵本の読み聞かせ、紙芝居の発表準備や練習をする 復習：演習の内容をノートにまとめる</p>		
8	<p>授業：保育所実習に備えた実技演習③ (グループワーク) 予習：手遊びの発表に向けた準備をする 復習：演習の内容をノートにまとめる</p>		
9	<p>授業：保育所実習に備えた実技演習④ (グループワーク) 予習：手遊びの発表に向けた準備をする 復習：演習の内容をノートにまとめる</p>		
10	<p>授業：実習における諸手続き (実習オリエンテーションに向けて) 予習：最寄り駅から保育園などへの地図を描いてくる。実習園への電話のかけ方練習する。 復習：実習園オリエンテーションの受け方や確認事項などをノートにまとめる</p>		

11	<p>授業：実習日誌の書き方① 実習の目標・日課の書き方（グループワーク）</p> <p>予習：テキストを読み要点をノートにまとめる</p> <p>復習：実習日誌の書きについて学んだことをノートにまとめる</p>
13	<p>授業：実習日誌の書き方② 1日の振り返りと翌日の目標（グループワーク）</p> <p>予習：テキスト要点をノートにまとめる</p> <p>復習：実習日誌の書き方（観察と記録、考察の方法）についてまとめる</p>
14	<p>授業：保育所園長講演（講演内容：保育所の魅力と心構え）</p> <p>予習：これまでの学習を振り返り、園長先生に質問したい事項を考えておく</p> <p>復習：園長講演で気づいたことなどをもとに実習に向けての準備を整える</p>
15	<p>授業：実習直前指導</p> <p>予習：保育実習指導 I（保育所）の内容を確認しておく</p> <p>復習：実習準備の最終確認を行う</p>
16	<p>授業：実習事後指導（グループワーク、ディスカッション）</p> <p>予習：実習終了後直ちに振り返りを行い、所定の用紙にまとめておく</p> <p>復習：これまでの学びと実践を振り返り、新たな課題に向き合う姿勢を整える</p>

テキスト・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・小泉裕子編著『実習場面と添削例から学ぶ！保育・教育実習日誌の書き方改訂版』中央法規出版株式会社 2020年 ・『実習ガイドブック』 ・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017 ・適宜プリントを配布する
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018 ・文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017 ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018 その他、必要に応じて提示する

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度		関連度
関連度		
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力		
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる		〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している		〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる		〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる		〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる		〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる		〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力		
b1 物事をこころに深く感じることができる		〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる		〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している		〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる		〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している		〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる		〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる		〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる		〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる		〇〇

D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	○
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	○
課題のフィードバック	保育所実習に向けた実技発表を行う（授業内で講評する） ビデオレポートの宿題を課す（コメントを付けて返却する）
評価の基準と方法	保育実習指導用ファイルの作成課題（50%）、手遊び・絵本ノートの作成課題（30%）平常点（授業参加態度・課題提出）（20%）
関連科目	実習、保育実習指導Ⅱ
その他	提出物は期限を厳守すること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	保育士としての実務経験を活かし、日常の子どもたちの園生活の様子や保育者の援助や配慮事項などを具体的にイメージし、記録や実践に活かすことができる様に授業を展開する。

保育実習指導 I (施設)

科目名称	保育実習指導 I (施設)	科目分類	B37 保-1 (J)
担当教員	今井 大二郎・岡本 啓宏	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本授業は、児童福祉施設等における施設実習の事前学習として行う。実習施設は多岐に渡るため、各施設等の役割・機能、利用児・者やその家族について理解する。また、児童福祉施設における保育士の専門性や、施設間の連携の重要性について学び、専門職としての施設保育士の職業倫理や具体的業務内容についての理解を深める。その上で自らの実習課題を明確に設定する。		
到達目標	<p>本授業の到達目標として、以下の 5 点を挙げる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 施設実習の意義と目的について理解することができる 2 実習の事前学習として施設の機能・役割、保育士やその他の専門職の業務内容について理解することができる 3 実習生としての心構えや留意点、守秘義務、倫理について理解することができる 4 記録の意味と基本的な記入方法について理解し、記入することができる 5 施設実習に向けて明確な目的意識をもち、具体的な実習課題を設定できる 		
授業開始前学習	児童福祉施設や社会福祉施設への関心を持って、ニュースや新聞を読んでおくことを勧める。		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1	<p>授業：オリエンテーション(保育実習 I (施設) の概要、実習の基本、施設実習の特質、Q & A)</p> <p>予習：児童福祉施設及び社会福祉施設の種類の調べる</p> <p>復習：職業実習の特性についてと現在の生活について振り返り、実習に向けた抱負をノートにまとめる</p>		
2	<p>授業：保育実習 I (施設) の意義と目的</p> <p>予習：テキスト p8, 9, 20, 21 を読み、施設実習の意義についてノートにまとめる</p> <p>復習：各施設のケアワークの実践例についてノートにまとめる</p>		
3	<p>授業：障害児・者施設での学習内容①(知的障害と ASD の障害特性)</p> <p>予習：テキスト pp22～26 を読み、それぞれの障害特性についてノートまとめる</p> <p>復習：各障害特性について理解し、実生活上の課題について理念の実現と合わせてノートにまとめる</p>		
4	<p>授業：：障害児・者施設での学習内容②(肢体不自由・重症心身障害の障害特性と福祉理念)</p> <p>予習：社会的養護 I テキスト pp54～57 を参考に各障害特性についてノートにまとめる</p> <p>復習：医療型障害児入所施設での支援者の役割についてノートにまとめる</p>		
5	<p>授業：障害児・者施設での学習内容③(障害者施設の法制度と施設体系及び共通基盤のケアワークについて)</p> <p>予習：テキスト pp34, 35 を読み、施設や各事業所の支援内容についてノートにまとめる</p> <p>復習：各施設や事業所の支援内容についてノートにまとめ、支援者の留意点をノートにまとめる</p>		
6	<p>授業：障害児・者施設での学習内容④(障害者施設での学びの視点)</p> <p>予習：テキスト pp82～85 を参考に、実習中の学びのポイントについてノートにまとめる</p> <p>復習：障害福祉サービスの違いから、各施設での学ぶべき学習内容についてノートにまとめる</p>		
7	<p>授業：障害児・者施設での学習内容⑤(障害児施設の法制度と施設体系及び学ぶ視点)</p> <p>予習：テキスト pp32, 33 及び 72～81 を参考に各施設の支援内容についてノートにまとめる</p> <p>復習：各施設の支援者の日常生活上の留意点(実習で学ぶ視点)についてノートにまとめる</p>		
8	<p>授業：養護系施設での実習内容(学習上の視点)</p> <p>予習：テキスト pp28, 29 と社会的養護のレジメから乳児院と児童養護施設の概要と支援内容についてノートにまとめる</p> <p>復習：各施設の職員配置や概要、学ぶ視点について復習しノートにまとめる</p>		
9	<p>授業：振り返りテスト</p> <p>予習：第 1 回～9 回までの学習内容をまとめる</p> <p>復習：テストにあった学習のポイントを復習する</p>		
10	<p>授業：事前オリエンテーションと関連書類(出勤簿をはじめとした関連書類の確認と課題作成シートについて)</p> <p>予習：ガイドブック「事前オリエンテーションについて」をよく読みノートにまとめる</p> <p>復習：事前オリエンテーションに必要な準備、受ける姿勢、留意点をノートにまとめる</p>		

1 1	授業：実習生の業務内容と施設実習の実際 Q&A 予習：「課題作成シート」を作成する 復習：「作業の意義」、「各施設の特性を踏まえた学習の視点」についてノートにまとめる
1 2	授業：実習の展開（実習段階に応じた目標設定、連携の基本事項） 予習：テキスト pp106、107 を読み、ノートにまとめる 復習：実習段階に合わせた学習目標を設定する
1 3	授業：記録について①（記録の意義と適切な文章表記/考察について） 予習：文章や記録を書く際の自らの課題を挙げる 復習：講義内容で学んだことをノートにまとめ、適切な表記で文章を書く
1 4	授業：記録について②（日誌の記入方法） 予習：テキスト pp90～101 を読み、日誌を書く際のポイントについてノートにまとめる 復習：日誌の記入例をノートに写し、構成のポイントについてノートにまとめる
1 5	授業：直前指導（心構え、守秘義務について、事前準備、実習後について） 予習：テキスト p 42, 43 を読み、守秘義務の意味についてノートにまとめる 復習：これまで配布した資料を整理して、実習中の学習の視点と実習生としての心構え、事前準備をノートにまとめる
テキスト・教材	守巧他全施設掲載『施設実習パーフェクトガイド』（わかば社） その他、事前指導に関する資料を配布する
参考書	施設実習は種別が異なるため、その他該当する実習施設の養育指針等を提示する
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	
関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇
c3 子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇

課題のフィードバック	「実習課題作成シート」の作成と提出を求める。加えて妥当性のある実習目標を設定する。
評価の基準と方法	「課題作成シート」60%、小テストあるいは講義内での提出を指示する課題 40%
関連科目	保育実習 I（保育所）、保育実習指導 I（保育所）、保育実習 I（施設）、社会的養護、子ども家庭福祉、社会福祉
その他	保育実習は、公の施設現場をお借りして行う貴重な学習機会である。明確な目的意識をもち、充実した学習ができるよう、日頃より体調管理をはじめ実習に臨める準備を各自で整えておくこと。 また後期も基本は、遠隔授業となる。保育実習自体、基本、体力を必要とする性格であるため、日頃より、適度な運動を行う等、各自実習本番に備えておくこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	児童指導員
実務経験を活かした教育内容	現場での保育実習生への指導経験を活かし、実習中の心得や具体的な各施設での学びの視点について解説する

科目名称	保育実習指導Ⅱ	科目分類	B37 保-2 (J)
担当教員	綾野 鈴子・上出 香波	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>本授業は、これまでの実習や既習の学修内容を振り返り、自身の実習課題を明確にし、実習に必要な知識と実践力を身につけるための授業である。子どもの生活や遊びに対する興味・関心を知り、発達を捉える視点を養い、乳幼児理解に繋げる。</p> <p>さらに、日誌や指導案を書く力や省察する力を向上させていく。また、保育に関する知識や技術を習得するだけでなく、子どもの最善の利益、保育者の専門性や職業倫理を意識した実習が行えるよう学びを深めていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する 2 これまでの実習を振り返り、保育実習Ⅱにおける自己課題を明確にする 3 子どもの発達について学びを深め、見通しを立てた指導案を作成できる力を身につける 4 エピソード記録の書き方を理解し、子ども理解や保育者の関わり理解につなげることができるよう学びを深める 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価から更なる課題を明確にする 		
授業開始前学習	<p>保育実習Ⅰを振り返り、自己課題を明確にするために、アドバイスを受けて学んだことや子どもとの関わりで上手くできたことなどを具体的にまとめておく。</p>		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
1	<p>授業：授業ガイダンス、保育実習Ⅱの概要と心構え、個人票等、実習に必要な書類の作成 予習：シラバスを読み、実習の意義や目的を知る 復習：受講するにあたり、授業に必要なものを準備する</p>		
2	<p>授業：保育実習Ⅱの自己課題設定 予習：これまでの実習を振り返り、自己課題と課題の設定理由をまとめておく 復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>		
3	<p>授業：自己課題を達成するための計画と教材等の準備計画書の作成 予習：課題を達成するための計画の見通しを立てておく 復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>		
4	<p>授業：日誌の書き方①PDCAを意識した記録の書き方 予習：保育実習Ⅰの実習日誌を見直し、指導や助言を受けた箇所を確認する 復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>		
5	<p>授業：日誌の書き方②エピソード記録と考察の書き方 予習：保育実習Ⅰ実習日誌のエピソード記録を見直し、指導や助言を受けた箇所を確認する 復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>		
6	<p>授業：乳幼児保育を学ぶ 予習：0,1,2歳児の発達や遊びについて調べておく 復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>		
7	<p>授業：0,1,2歳児保育の立案：グループワーク①指導案作成 予習：0,1,2歳児の遊びの素材と保育の流れを考える 復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>		
8	<p>授業：0,1,2歳児保育の立案：グループワーク①指導案発表 予習：グループでの役割を確認し、分担作業を行い、発表の為の準備をする 復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>		
9	<p>授業：事前オリエンテーションに向けて具体的な準備を進める 予習：配属園に関する情報を事前に調べておく 復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>		
10	<p>授業：3, 4, 5歳の遊びを創造するための環境を考える①グループディスカッション 予習：3, 4, 5歳児の遊びを事前に調べる 復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>		

11	<p>授業：3, 4, 5歳の遊びを創造するための環境を考える①グループワークまとめと発表</p> <p>予習：グループで話し合った内容を確認し、各自発表内容をまとめる</p> <p>復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>
12	<p>授業：子どもの遊びと学びについて</p> <p>予習：主体的・対話的な深い学びについて調べる</p> <p>復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>
13	<p>授業：保育所における家庭支援や子育て支援について学ぶ</p> <p>予習：実習園で行っている保護者支援や地域に対する子育て支援の取組などを調べる</p> <p>復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する</p>
14	<p>授業：実習直前指導</p> <p>予習：これまでの授業内容を振り返り資料を見直す</p> <p>復習：実習前の確認事項を復習しておく</p>
15	<p>授業：実習報告会</p> <p>予習：実習を振り返り自己評価を行う</p> <p>復習：これまでの学びと実践を振り返り、現場に出るイメージを形成しながら新たな課題に向き合う</p>

テキスト・教材	実習ガイドブック、授業内で適宜資料を配布する。
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 文部科学省『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものこころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	適宜、授業内で講評すると共に、提出物を通してコメントを記し、フィードバックする。
評価の基準と方法	課題提出物（70%）授業参加態度（30%）
関連科目	保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ、Ⅱ
その他	グループワークでは、作業内容や役割を明確にし、グループメンバー一人ひとりが学びを深められるよう協力する姿を期待する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士 幼稚園教諭
実務経験を活かした教育内容	保育現場での実務経験を活かし、実際の保育の具体的な事例や実践をとりいれ、保育実習に向けての実践力につながる授業を展開していく。

保育実習指導Ⅲ

科目名称	保育実習指導Ⅲ	科目分類	B37 保-2 (J)
担当教員	今井 大二郎	授業区分	演習
研究室	16-310	オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30
授業のテーマ・内容	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、保育実習Ⅲをより有意義な機会とするため、保育士としての専門性を高める学びの機会とする。具体的には、児童自立支援計画書及び個別支援計画書の策定に関する学習をはじめとして、事例検討や援助技術に関する演習を中心にケアワーク・ソーシャルワークに関する実践力を養う。また施設見学や現場保育士による講話の機会を設け、より実践的な学びを深める機会とする。		
到達目標	到達目標は以下の通りである。 1 児童福祉施設や社会福祉施設に入所、あるいは通所する子どもや利用者の状況把握ができるようになる。 2 直接的・間接的支援における基本的な知識と技術を身につけ、子どもや利用者および保護者に対し適切な支援をすることができるようになる。 3 支援計画の立案と計画に基づく実践について具体的に理解できる。 4 他機関・施設および他分野の専門職について学び、現場で連携協働することができるようになる。 5 実習の総括と自己評価から保育士としての自己の課題を明確に認識できる		
授業開始前学習	児童福祉施設や社会福祉施設の役割や機能について再度確認する。また、施設に関する文献・資料について目を通し理解する。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1

授業：オリエンテーション(本講義や保実Ⅲについての説明と保育実習Ⅰ(施設)の振り返り)

予習：保育実習Ⅰ(施設)を振り返り、課題レポートを作成する

復習：授業で挙げた自己課題について関連するキーワードとその内容をノートにまとめる

2

授業：ワーキングチーム形成に向けた活動①(PAの手法を用いたグループワーク)

予習：集団援助技術の技法についてノートにまとめる。

復習：グループ凝集性を高める活動についてレポートにまとめる

3

授業：ワーキングチーム形成に向けた活動②(グループディスカッション～親ってなんだろう～)

予習：社会福祉や社会的養護に関する関心のあるテーマについて調べノートにまとめる

復習：演習で学んだ多様な支援者側の視点について、ノートにまとめる

4

授業：対人援助の基礎Ⅰ(ラポールの形成を促す傾聴姿勢の重要性)

予習：基本的な相談援助技術について復習し、ノートにまとめる

復習：演習内で行った学習のポイントについてノートにまとめる

5

授業：対人援助の基礎Ⅱ(具体的な傾聴技法)

予習：傾聴技法について調べ、ノートにまとめる

復習：演習内で行った学習のポイントについてノートにまとめる

6

授業：対人援助の基礎Ⅲ(保護者支援の基本的対応～受容～)

予習：援助技術における「受容」について調べノートにまとめる

復習：講義や価値観交流の演習内で行った学習のポイントについてノートにまとめる

7

授業：日常生活支援(ケアワーク)事例検討①(養護)

予習：カンファレンス用紙を作成する

復習：事例検討の学習内容をノートにまとめる

8

授業：日常生活支援(ケアワーク)事例検討②(障害：障害児・者施設)

予習：専門職連携について調べノートにまとめる

復習：療育・発達支援における支援者の留意点についてノートにまとめる

9

授業：児童自立支援計画書及び個別支援計画書の概要や策定(アセスメント方法から策定の留意点まで)

予習：配布した資料を読み込みノートにまとめる

復習：支援計画書の立案・策定における留意点についてノートにまとめる

10

授業：自立支援の課程(障害児の社会自立に関するソーシャルワークの事例検討)

予習 : アドミッションケア・インケア・リビングケア・アフターケアについて復習し、各課程の支援者の留意点について学ぶ
 復習 : アフターケアやソーシャルワークにおける支援者の留意点についてノートにまとめる

11
 授業 : 現場保育士の講話 (社会的養護におけるケアワーク・ソーシャルワークの実際)
 予習 : 乳児院について復習しノートにまとめる
 復習 : 講話に参加しての振り返りシートを作成する

12
 授業 : 実習課題の明確化「実習に臨むにあたって発表会」
 予習 : 課題作成シートを完成させ、「臨むにあたって」を作成する
 復習 : 学生全員の発表内容から、自己の実習課題を明確化する

13
 授業 : 施設見学
 予習 : 見学先について調べ、疑問点等ノートにまとめる
 復習 : 報告書を作成する

14
 授業 : 直前指導と記録 (日誌の記入・部分実習指導案)
 予習 : 保育実習 I (施設) の日誌を読み返し、反省点を整理する
 復習 : 部分実習 (案) を作成する

15
 授業 : 事後指導
 予習 : 実習報告書を作成する
 復習 : 実習報告反省会後に振り返りの記録を作成する

テキスト・教材	テキストは使用しない
---------	------------

参考書	施設実習は種別が多岐にわたり異なるため、該当する実習施設の養育指針等の資料は適宜提示する。
-----	---

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
--------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	○○○
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	○○○○
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	○○○○
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	○○○○
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	○○○○
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	○○○○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点 (感覚) とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	○○○○
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け容れることができる	○○○○
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	○○○○
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	○○○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	○○○
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	○○○○
c3 子どものころが動くような環境 (体験) を用意することができる	○○○
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	○○○
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	○○○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	○○○○
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	○○○○
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	○○○○
d4 他者と協働して物事を進めることができる	○○○○

d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	児童福祉施設等の見学を行い、見学後に課題レポートを作成し内容について適宜講評する。また、課題作成シートの作成や施設に関する課題を調べ発表し、それに対して講評する。
評価の基準と方法	課題作成シート・実習に臨むにあたって・レポート等提出課題 60%、授業への取り組み[講義内での発表、発言、ワークへの参加状況等]40%
関連科目	保育実習Ⅲ、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習指導Ⅰ（施設）、社会的養護Ⅰ、Ⅱ、子ども家庭福祉、社会福祉
その他	自主的に施設に関する文献・資料に目を通しておき、授業内でのグループワークやディスカッション、プレゼンテーションに積極的に取り組むことを望む。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	児童指導員
実務経験を活かした教育内容	現場での実習生指導の経験を活かし、より具体的な目標設定や学びの視点が持って実習に参加できるよう事前指導の充実を図る

学校体験活動

科目名称	学校体験活動	科目分類	B37 幼-1
担当教員	古屋 真	授業区分	実習
研究室	16-313	オフィスアワー	前期 金曜日 12:10～16:10 後期 金曜日 12:10～16:10
授業のテーマ・内容	<p>本授業は、幼稚園教諭を目指す学生が、幼稚園における体験活動（子どもや保育者の仕事の見学や観察、保育参加や保育補助など）を通して、幼稚園の教育・保育活動に関する理解を深め、保育の基礎的技術（子どもとの関り方、保育記録の作成方法など）を身に付けながら、保育職を目指す意欲を高める（自己の適格性や成長課題を見出す）ことを主たる目的とする。</p> <p>事前指導では、幼稚園に関する基礎的事項や記録の作成方法に加え、教育・保育活動に参画する者としての社会的マナーなどを学ぶ。</p> <p>実際の体験活動時には、子どもとの関りだけではなく、保育者の補助にも積極的に取り組み、幼稚園の教育・保育活動の全般的理解に努めてほしい。</p> <p>事後指導では、体験活動を通じて得られた学びを振り返り、各自の成長課題を明確化することで、大学における学修の価値を見出し、保育職を目指す意欲を確認していきたい。</p>		
到達目標	<p>本授業の到達目標として、以下3点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもや保育者の仕事、一日の生活の流れなど、幼稚園の教育・保育活動に関する理解を深める 2 保育の基礎的技術を身に付けることができる 3 保育職を目指す意欲を高める 		
授業開始前学習	<p>保育職を目指すきっかけとなった出来事（職場体験やボランティア活動など）や志望理由などについて振り返る</p>		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

【事前指導】

1

授業：学校体験活動の意義・目的を学ぶ

予習：職場体験やボランティア活動など、子どもと関わった経験と保育職を目指した志望理由をノートに書き出す

復習：学校体験活動の意義や目的をノートに整理する

2

授業：学校体験活動の内容を学ぶ

予習：『実習ガイドブック』P.1-6を熟読し、疑問点をノートに書き出す

復習：学校体験活動の内容（見学・観察活動、保育参加、保育補助など）をノートに整理する

3

授業：幼稚園教育の基本①：幼稚園教育の意義・目的を学ぶ

予習：「教育基本法」第1条・第2条・第11条および「学校教育法」第1条・第22条・第23条をノートに書き出す

復習：幼稚園教育の意義・目的をノートに整理する【小レポート①】

4

授業：幼稚園教育の基本②：幼稚園教育の内容・方法を学ぶ【学校体験活動実施園の発表】

予習：『幼稚園教育要領解説』P.23-40をよく読み、疑問点をノートに書き出す

復習：「5領域」「環境を通して行う教育」「遊びを通しての総合的な指導」の意味をノートに整理する【小レポート②】

5

授業：幼稚園教育の基本③：幼稚園の一日の生活の流れを学ぶ【学校体験活動記録の配付】

予習：発表された学校体験活動実施園の「一日の生活の流れ」をノートに書き出す

復習：学校体験活動を行う幼稚園の概要（沿革・教育目標・特色）を「学校体験活動記録」にまとめる

6

授業：学校体験活動の準備①：学校体験活動の心構えやマナーを学ぶ

予習：学校体験活動に向けた各自の目標をノートに書き出す

復習：学校体験活動の心構えやマナーを学ぶ【小レポート③】

7

授業：学校体験活動の準備②：学校体験活動の取組方法を学ぶ

予習：学校体験活動実施園の最寄駅からの経路（地図）をノートに書き出す

復習：学校体験活動実施園を訪ねてから帰宅するまでの流れをノートに整理する

8

授業：学校体験活動の準備③：保育記録（時系列式）の書き方を学ぶ

予習：自分の「一日の生活の流れ」「言動」「周囲の人物からの働きかけ」をノートに書き出す

復習：保育映像を題材に、保育記録（時系列）の練習をする【保育記録作成課題】

9	<p>授業：学校体験活動の準備③：手遊びや絵本の読み聞かせ方を学ぶ（模擬保育）</p> <p>予習：自分が知っている手遊びや絵本をノートに書き出す</p> <p>復習：手遊びや絵本の読み聞かせの練習をする【小レポート④】</p>
10	<p>授業：学校体験活動の準備④：学校体験活動の目標を設定する</p> <p>予習：学校体験活動で取り組んでみたい活動をノートに書き出す</p> <p>復習：学校体験活動の目標をノートに整理する【小レポート⑤】</p>
11	<p>授業：学校体験活動の準備⑤：学校体験活動実施園におけるオリエンテーション</p> <p>予習：学校体験活動実施園の概要を振り返り、質問事項をノートに書き出す</p> <p>復習：オリエンテーションの内容を「学校体験活動記録」にまとめる</p>
	<p>【学校体験活動】</p> <p>※学校体験活動は、5～7月の期間に30～40時間（5日間程度）実施する</p> <p>※学校体験活動の終了後、30～40時間分の『学校体験活動記録』（日誌相当）を担当教員まで提出すること</p>
	<p>【事後指導】</p>
12	<p>授業：学校体験活動の振り返り①：自己の学びと成長課題の振り返り</p> <p>予習：学校体験活動において印象に残っている活動を「学校体験活動報告書」に書き出す</p> <p>復習：学校体験活動における自己の学びと成長課題を「学校体験活動報告書」にまとめる</p>
13	<p>授業：学校体験活動報告反省会（グループワーク）</p> <p>予習：「学校体験活動報告会準備ワークシート」に取り組む</p> <p>復習：学校体験活動報告反省会における学びを「学校体験活動報告書」にまとめる</p>
14	<p>授業：1・2年生合同報告会（グループワーク）</p> <p>予習：「合同報告会準備ワークシート」に取り組む</p> <p>復習：2年次に実施する教育実習に向けた自己の成長課題を「学校体験活動報告書」に書き出す</p>
15	<p>授業：学校体験活動の振り返り②：駒沢女子短期大学・保育科における学びとの照合</p> <p>予習：駒沢女子短期大学・保育科『ルーブリック』を熟読し、疑問点をノートに書き出す</p> <p>復習：駒沢女子短期大学・保育科『ルーブリック』への取り組みから明らかになった成長課題を「学校体験活動報告書」に書き出す</p>
テキスト・教材	<p>小泉裕子（編著）『保育・教育実習日誌の書き方』（中央法規）</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）</p> <p>駒沢女子短期大学・保育科『実習ガイドブック』</p>
参考書	<p>厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）</p>
卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	
関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇

b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇〇
d2 積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	・講義内にて小レポートを実施する（講義内にて、適宜、講評する） ・保育記録（一日）の作成課題を課す（講義内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	学校体験活動記録・報告書・評価票（60%）、小レポート（20%）、保育記録（20%）
関連科目	全科目
その他	・保育者の仕事を意識し、遅刻・欠席はしないこと ・配付プリントは、一人ひとりが確実に受け取り、ファイル保管すること ・小レポートや課題の提出期限を厳守すること ・幼稚園の教育・保育活動に「参画させていただく」という意識をもって学校体験活動に取り組むこと
予習・復習の所要時間	
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

科目名称	教育実習	科目分類	B37 幼-2 (J)
担当教員	綾野 鈴子・佐藤 晶子	授業区分	実習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>本授業は、幼稚園教諭を目指す学生が、幼稚園における教育実習（3 週間）を通して、幼稚園の教育・保育活動に関する理解を深め、幼稚園教諭に必要な知識と技術を身に付けながら、保育職の使命感及び社会人としての意識を高めていくことを目的とする。実際の実習時には、観察を通して幼稚園教諭としての保育の仕方を学び、自らも実践を試みることで幼児理解を深めていく。また、学級経営の基礎、指導計画（指導案）の作成方法、保育の流れを展開していく力の修得を目指す。</p> <p>事前指導では、実習生（社会人）としてのマナー、幼児理解が深まる実習日誌の書き方、保育の理論や技術を活かした責任実習の方法（指導案の作成及び模擬保育実践）を中心とした授業を展開する。事後指導では、実習反省報告会を実施し、他者との意見交換を通して学びを共有しながら、自己の実習の省察を丁寧に行い、今後の課題を明確にしていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 一日の保育の流れや保育者の仕事、並びに保育の仕方を学ぶと共にこれらの観察を通して幼児の理解に努めることができる 2 実践を通して学級経営の基礎を学ぶと共に、幼児理解に基づいた指導計画（指導案）を作成することができる 3 実践を通して保育の流れを展開（保育の準備・導入・展開の仕方・まとめ方等について）していく力を身に付けることができる 4 幼稚園の地域における役割（子育ての支援）についての理解を深め、保育者としての心構えをもつことができる 		
授業開始前学習	「学校体験活動」で学んだ幼稚園教育の基本や保育活動、記録の書き方等について、授業プリントや実習ガイドブックを復習しておくこと		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
【事前指導】			
1			
授業：2年教育実習の意義・目的・段階、様々な形態			
予習：自身の実習配属園の保育形態（概要）について調べる			
復習：授業プリントをまとめ整理する			
2			
授業：教育実習の目標設定 実習の実態報告から学ぶ			
予習：前回の授業プリントを再読しておく			
復習：授業プリントをまとめ整理する			
3			
授業：実習園でのオリエンテーションについて			
実習日誌の書き方①日誌の意義・目的 適切な文章表現			
予習：前回の授業プリントを再読しておく			
復習：授業プリントをまとめ整理する			
4			
授業：実習日誌の書き方②エピソード記録とはなにか			
予習：前回の授業プリントを再読しておく			
復習：授業プリントをまとめ整理する			
5			
授業：実習日誌の書き方③考察の書き方			
予習：前回の授業プリントを再読しておく			
復習：授業プリントをまとめ整理する			
6			
授業：模擬保育発表会①一部分実習一			
予習：部分実習を想定した指導案を作成し、模擬保育発表の練習をしておく			
復習：模擬保育発表会の振り返りを行う			
7			
授業：実習指導案①書き方の基本（子どもの姿、ねらい、活動内容）			
予習：「保育・教育課程論」の授業で学んだ指導案の書き方について復習しておく			
復習：授業プリントをまとめ整理する			
8			
授業：実習指導案②一日実習指導案について			
予習：前回の授業プリントを再読しておく			
復習：授業プリントをまとめ整理する			

9

授業：模擬保育発表会②—責任実習の主活動—

予習：責任実習の主活動を想定した指導案を作成し、模擬保育発表の練習をしておく

復習：模擬保育発表会の振り返りを行う

10

授業：実習直前指導

予習：これまでの全ての授業プリントを再読しておく

復習：授業プリントをまとめ整理し、実習に向けての最終準備を整える

【教育実習（幼稚園）】

※学校配属または自己開拓の実習園にて、6月に3週間（15日間）実施する

※原則、一日責任実習を必ず行うこと（指導計画を立て、指導案を作成し、実践する）

※教育実習後、実習日誌（指導案含む）を担当教員まで提出すること

【事後指導】

11

授業：実習の振り返り（グループディスカッション）

予習：実習の自己評価、実習目標に対する振り返りを作成しておく

復習：実習後の提出物等について確認しておく（実習園への御礼状作成含む）

12

授業：1・2年生合同報告会に向けての準備①

実習評価個別伝達

予習：合同報告会で取り組みたいテーマを考えておく

復習：各グループで役割分担しながら合同報告会の準備を進める

13

授業：1-2年生合同報告会に向けての準備②

実習評価個別伝達

予習：各グループで役割分担しながら合同報告会の準備を進める

復習：各グループで役割分担しながら合同報告会の準備を進める

14

授業：1-2年生教育実習 合同報告会（プレゼンテーション）

予習：各グループで役割分担しながら合同報告会の準備を進める

復習：合同報告会の振り返りを行う

15

授業：実習報告反省会（巡回教員別グループディスカッション）

予習：これまでの全ての提出物の提出状況等を各自確認する

復習：実習報告反省会の振り返りを行う

テキスト・教材

文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）
 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
 その他、講義内にて、適宜紹介する

参考書

厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
 その他、講義内にて、適宜紹介する

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度

関連度

関連度

A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力

a1 学修に必要な基礎学力を活用できる

〇〇〇〇

a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している

〇〇〇〇

a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる

〇〇〇〇

a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる

〇〇〇〇

a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる

〇〇〇〇

a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる

〇〇〇〇

B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力

b1 物事をこころに深く感じることができる

〇〇〇〇

b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる

〇〇〇〇

b3	子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4	自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力		
c1	「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2	子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3	子どものころが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4	子どもが遊び出したくなるように促すことができる	〇〇〇〇
c5	子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力		
d1	社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇〇
d2	積極的に他者とかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇
d3	信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4	他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5	多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6	大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画（指導案）作成を課す（講義内にて、適宜、講評する） ・模擬保育発表（手作り保育教材の作成含む）の準備を課す（実践された模擬保育を踏まえ、改善点等を指導する） 	
評価の基準と方法	実習評価 60%、実習日誌（指導計画案を含む）20%、提出課題 20%	
関連科目	全科目	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の仕事を意識し、遅刻・欠席はしないこと（欠席する場合は必ず実習指導室に電話連絡） ・配布した授業プリント等は、一人ひとりが確実に受け取り、ファイル保管すること（書類管理能力） ・課題の提出期限を厳守すること（計画性・自己管理能力） <p>※本授業では、ICT を活用したプレゼンテーションを行うことを予定している。グループで話し合いながら物事を作り上げていく経験（同僚性）や、他者に分かりやすく伝える等のコミュニケーション能力の向上を目指しているため、積極的にグループ活動に参加する姿を期待する。</p>	
予習・復習の所要時間		
実務経験の有無	○	
実務経験の内容	幼稚園教諭として、年少、年中、年長、未就園児（2歳児）クラスの保育、及び保護者への支援等がある。	
実務経験を活かした教育内容	幼稚園教諭としての経験を活かし、幼児に専門的に関わる保育実践力、指導計画の立案、評価、改善の方法を指導し、教育実習に必要な知識及び実践力が身につく授業を展開していく。	

保育・教職実践演習（幼稚園）

科目名称	保育・教職実践演習（幼稚園）	科目分類	B37 両-2（J）
担当教員	綾野・木下・佐藤・古屋・松本	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	<p>これまでの履修履歴を振り返りながら、保育者としての成長課題を明確にしていく。付属幼稚園との交流活動や年中行事づくりなどの実践活動に取り組み、子どもの「遊び」の意義や目的を振り返りながら、保育者の援助や環境構成に関する基礎知識・技術の向上を目指す。また、クラス便りの作成や子育て相談の役割演技等を通し、子どもの成長を共に支える保護者との連携についても考える。さらに、保育現場の教員による講演会などを通して保育職の使命感や責任感について熟考し、自身が目指す保育者像を明確化していく。</p>		
到達目標	<p>本授業の到達目標として、以下の6点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育職に必要な資質・能力及び保育実践力の向上につながる成長課題を明確化することができる 2. 保育者の援助や環境構成に関する基礎知識・技術が身についている 3. 保育者の受容的な態度や子どもとの信頼関係に基づくクラス経営の重要性について説明できる 4. 保育者間の協働や保護者との連携に求められる社会性や人間関係力が身についている 5. 保育職の使命感や責任感をもっている 6. 自身の目指す保育者像を具体的に説明することができる 		
授業開始前学習	<p>自身の履修履歴を振り返り、保育者を目指す者としての資質・能力及び保育実践力の修得（形成）程度について確認しておくこと。</p>		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1

授業：学びの振り返り（履修カルテ）と保育職の意義と役割

予習：これまでに学んだ保育者の役割について振り返る

復習：学びのファイルと履修カルテを完成させる

2

授業：保育者養成の全体構造について学ぶ

予習：成績表やシラバス等を参考に、これまでの履修状況や学修内容を振り返る

復習：履修状況を確認し、自己の課題を明確にする

3

授業：保育・教育における行事計画①自然体験活動の意義

予習：幼稚園や保育所において実践される代表的な自然体験活動を調べ、ノートにまとめる

復習：保育における自然体験活動の意義を振り返る

4

授業：保育・教育における行事計画②自然体験活動の準備（環境構成、教材研究等）

予習：保育教材として用いられる自然物を調べ、ワークシートにまとめる

復習：幼稚園や保育所における自然体験活動の進行上の留意点を振り返る

5

授業：保育・教育における行事計画③自然体験活動の指導計画作成（グループ活動）

予習：園行事「いもほり」を想定し、行事の留意点をワークシートにまとめる

復習：作成した指導計画（実施要領）をグループ毎に確認・共有する

6

授業：保育・教育における行事計画④自然体験活動の実践（グループ活動）

予習：作成した実施要領に基づき、グループ毎に活動の進行を確認し、各自の役割をワークシートにまとめる

復習：実践した行事をグループ毎に振り返り、進行上の問題点や改善策を記録する

7

授業：保育・教育の実践から学ぶ：自由保育を視察する

予習：子どもの主体的活動である「遊び」を中心とした保育・教育の意義について、ノートにまとめる

復習：視察した幼稚園の保育のねらいや環境構成を記録する

8

授業：乳幼児と造形表現活動①造形表現活動の意義、指導計画を考える（グループ活動）

予習：これまでの造形表現に関する授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめる

復習：作成した指導計画を役割グループ毎に確認・共有する

9

授業：乳幼児と造形表現活動②付属幼稚園児との造形表現活動（グループ活動）

予習：作成した指導計画（案）に基づき、グループ毎に活動の進行を確認し、各自の役割をワークシートにまとめる

復習：実践した活動をグループ毎に振り返り、子どもの育ちを記録する

10	<p>授業：クラス経営と保護者連携：伝える伝わるクラスだより（グループ活動）</p> <p>予習：これまで実践した野外活動や造形表現活動を「担任」の視点で振り返り、活動記録をノートにまとめる</p> <p>復習：子どもの育ちや学びを伝えるクラスだよりを完成させる</p>
11	<p>授業：保護者理解と子育て支援：ロールプレイによる事例研究</p> <p>予習：保護者との連携や子育て支援の重要性について振り返り、ノートにまとめる</p> <p>復習：事例に基づくロールプレイから学んだ保護者の心情や子育て支援の意味について記録する</p>
12	<p>授業：子どもの遊びと学びを深める（外部講師による講演会）</p> <p>予習：自身の誕生からこれまでの成長を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>復習：生命誕生までの過程を振り返り、預かる「いのち」の重さについて自身の考えをまとめる</p>
13	<p>授業：現代の保育・教育実践の課題を学ぶ（外部講師による講演会）</p> <p>予習：乳幼児期の保育・教育に関する報道や関心のある実践事例を調べ、ノートにまとめる</p> <p>復習：現代の保育・教育実践の課題と取組内容を記録する</p>
14	<p>授業：保育職の使命と責任（現職保育者との懇談）</p> <p>予習：これまでの実習記録などから保育者の職務内容を振り返り、ノートにまとめる</p> <p>復習：現職保育者の話から学んだ保育者の使命感や心構えを記録する</p>
15	<p>授業：よりよい保育者になるための資質・能力の確認、履修カルテの振り返り</p> <p>予習：学びのドキュメンテーションを整理しながら、本授業での学びを振り返る</p> <p>復習：保育者としての今後の成長を見据え、自身の成長課題に関する最終レポートに取り組む</p>

テキスト・教材	授業時に資料プリントを配付する
---------	-----------------

参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
-----	---

卒業時に身につけておかなければならない4つの力との関連度	関連度
------------------------------	-----

関連度	
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1 学修に必要な基礎学力を活用できる	〇〇〇〇
a2 保育に関する基礎的な知識や技術を有している	〇〇〇〇
a3 様々な観点から客観的に物事を捉えることができる	〇〇〇〇
a4 物事の本質や良し悪しを見極めることができる	〇〇〇〇
a5 現実的な視点から新しい見方や発想を導き出すことができる	〇〇〇〇
a6 状況に応じて柔軟に判断し、問題を解決することができる	〇〇〇〇
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限らない表現に気づく視点（感覚）とそれを広げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1 物事をこころに深く感じることができる	〇〇〇〇
b2 子どもをはじめ、人々のもつ多様な表現を受け入れることができる	〇〇〇〇
b3 子どもをはじめ、人々のもつ表現を適切に引き出す専門技術を有している	〇〇〇〇
b4 自分の思いや考えを豊かに表現することができる	〇〇〇〇
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1 「子どもの遊び」の本質を理解している	〇〇〇〇
c2 子どもと一緒に楽しむことができる	〇〇〇〇
c3 子どものところが動くような環境（体験）を用意することができる	〇〇〇〇
c4 子どもが遊び出したいようになるように促すことができる	〇〇〇〇
c5 子どもが熱中している遊びが持続・発展するように支えることができる	〇〇〇〇
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1 社会の構成員としてふさわしいように、自己の考えや感情を調整することができる	〇〇〇〇
d2 積極的に他者とかかわり、適切なコミュニケーションをとることができる	〇〇〇〇

d3 信頼関係を基盤に、良好な人間関係を構築・維持することができる	〇〇〇〇
d4 他者と協働して物事を進めることができる	〇〇〇〇
d5 多様な立場や価値観をありのまま認め、思いやることができる	〇〇〇〇
d6 大きな展望をもち、自律的に活動することができる	〇〇〇〇
課題のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのドキュメンテーション作成を課す（本講義の最終評価に含める） ・履修カルテの作成を課す（講義内にて、適宜、講評する） ・受講記録の作成を課す（講義内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	履修カルテ（10%）、ルーブリック（10%）、受講記録（15%）、提出物（55%）、最終レポート（10%）
関連科目	全科目
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の授業は必ず出席すること ・授業について毎時、その目標を理解し、積極的に臨むことを常とする ・配布プリントは必ず各自受け取ること ・授業内で、個別、またはグループで演習すること自体が重要となる ・授業中の私語、携帯電話等の使用を禁じる
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士及び幼稚園教諭
実務経験を活かした教育内容	保育現場における教員としての経験を活かし、保育者としての専門性について取り上げ、実践的な指導を行う。幼稚園教諭として年少、年中、年長、未就園児（2 歳児）を保育してきた経験から、保育の具体的な事例や実践をとりいれ、保育実践力向上につながる授業を展開していく。